

**栗東市の農業に関する
市民・農業従事者・中学生アンケート調査結果
報告書(案)**

**令和 3 年 1 月
栗東市**

目 次

1. 調査概要	1
1-1. 調査目的	1
1-2. 調査概要	2
(1) 市民アンケート調査	2
(2) 農業従事者アンケート調査	5
(3) 中学生アンケート調査	8
(4) 回収状況	9
2. 調査結果	10
2-1. 市民アンケート調査	10
(1) 回答者の属性	10
(2) 農産物の購入状況について	13
(3) 栗東市の農業について	28
(4) 栗東市の農業の振興について	38
(5) 栗東市の農業に関する自由意見	45
2-2. 農業従事者アンケート調査	46
(1) 回答者の属性	46
(2) 農業経営の状況について	47
(3) 農地等の状況について	54
(4) 今後の農業経営について	70
(5) 栗東市の農業の振興について	79
(6) 市民と農業の交流等について	91
(7) 栗東市の農業に関する自由意見	99
2-3. 中学生アンケート調査	100
(1) 農業との関わりについて	100
(2) 農業に対する興味、農業という仕事について	101
参考. アンケート調査票	106

【留意事項】

- ・集計結果の数値は回答数または回答割合で示しており、このうち回答割合(%)は各項目の回答数を全体数(設問の回答者数の合計)で割って算定しています。この際、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の数値の合計と全体の合計が一致しない場合があります。
- ・複数回答の設問の場合、各項目の回答数の合計と全体数(設問の回答者数の合計)は一致しません。
- ・集計結果において、nは各設問の回答者数の合計を表しています。(例：n=967)

1. 調査概要

1-1. 調査目的

栗東市農業振興基本計画の検討に際し、農業に関わる主体として消費者（市民等）及び生産者（農業従事者等）に対する意向調査を実施します。

意向調査は、地域の状況を詳しく知る市民等及び農業従事者等の意向を把握することで、地域の農業に関する現状や課題を整理・把握し、栗東市の農業が目指すべき将来像及び農業従事者等とともに取り組む施策の方向性等の検討に用いるとともに、今後の施策推進における市民等の参加・協力の可能性などを把握することで、実現性の高い住民参加の方法の検討材料とします。

さらに、これら調査を通じて、市民等及び農業従事者等に対する、計画の策定やその実現に向けた参加意識を高めて、策定後の施策推進におけるこれら主体の参加を促すための仕掛けづくりとなるものと考えます。

アンケート調査一覧

区分	調査名	内容等	対象	期間（予定）	備考
1 消費者	栗東市の農業に関する市民アンケート調査	市民の暮らしを取り巻く農業の現状及び意向等を把握する。	16 歳以上の栗東市在住の市民 2,000 名（無作為抽出）	令和 2 年 10 月 8 日（木）発送～ 10 月 30 日（金）投函締切	郵送
2 生産者	栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査票	市内農業の現状及び課題、今後必要な施策等に関する意向等を把握する。	栗東市内に農地を保有する農業経営者等（世帯主） 約 1,000 名 ※悉皆調査	令和 2 年 10 月 8 日（木）発送～ 10 月 30 日（金）投函締切	郵送
3 次代の担い手	『栗東市の未来の農業を考える』中学生アンケート調査	栗東市の次世代が持つ農業のイメージや、担い手としての可能性を把握する。	市内中学校 中学二年生 （約 750 名）	令和 2 年 10 月～ 11 月頃	校内での直接配布、回収

1-2. 調査概要

(1) 市民アンケート調査

1) 調査目的

栗東市民を対象として、市民（消費者）の農業とのかかわりや栗東市の農業に対するイメージ、都市と農村の交流のあり方など、暮らしを取り巻く農業の現状及び意向等を把握し、市民とともにある栗東市農業のあり方、農業が目指すべき将来像及び施策の方向性等の検討資料とします。

2) 調査概要

項目	内容等
名称	栗東市の農業に関する市民アンケート調査
調査対象	令和2年9月1日現在 16歳以上の栗東市在住の市民2,000名（無作為抽出）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・回答者の属性・農産物の購入状況・栗東市の農業について・栗東市の農業の振興について・栗東市の農業に関するご意見（自由記述）
配布、回収方法	郵送による配布：2,000通 返信用封筒による郵送回収
調査日(予定)	【配布】令和2年10月8日（木）発送 【回収】令和2年10月30日（金）投函締切
送付物	<ul style="list-style-type: none">・発送用封筒（角2封筒（宛名ラベル貼付））・アンケート調査票（A4冊子 7ページ）・調査協力のお願い：1ページ・調査票：6ページ・返信用封筒（長3封筒）
回収目標数	・回収目標数（有効回収数）：800票（回収率40%）

※調査対象（配布数）の設定について

配布数は母数や分析手法に応じて適切に設定します。一般的には調査結果の誤差等との関係に基づく算定式より、目標誤差 5% の場合、必要サンプル数は約 384 票となることから、必要かつ十分な量を確保すべく、この倍の数となる 800 票を目標回収数（回収率 40% として配布数 2000 票）と設定します。

アンケート配布部数検討

1. 調査対象者（母集団）

栗東市住民（16歳以上）

2. 母集団（人口）

住民基本台帳人口（16歳以上）N = 58,000 人 ※令和2年8月31日現在57,970人
出典：栗東市人口データ

3. サンプル数の設定

項目	採用値	内容
信頼度 (%)	95	一般的に国などが行っている標本調査は、信頼度95%（λ=1.96）として調査の設計がされている。
信頼水準 λ	1.96	正しく判断できる確率（信頼度95%の時の正規分布表による）
回答比率 P	0.5	設問に対する賛成率。通常0.5で設定（必要な調査対象者数が最大となる値）
絶対精度 d	0.05	0.03~0.05（3~5%）が目安。国などの調査では、誤差±5%以内と設定する場合が多い

$$\text{サンプル数} n \geq \frac{N}{(d/\lambda)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1} = 384$$

これより最低限必要なサンプル数は、約 400 となります。

サンプル数の必要かつ十分な量を確保することとして、上記の倍の数となる 800 を目標サンプル数と設定します。

4. 配布部数の設定

過去の栗東市における市民アンケート回収率（H27総合戦略41.0%、H28総計41.9%）実績を鑑み

項目	採用値
回収率 (%)	40

を設定

$$\text{配布部数} = 800 / (40/100) = 2,000 \text{ 部と設定します。}$$

3) 市民アンケート 設問構成

項目	設問		分析内容・備考
回答者の属性	問 1	居住地域	回答者の属性区分と各設問のクロス分析を実施することで、属性ごとの特性を把握する。 ※属性区分 地域：4 区分[金勝・葉山・治田・大宝] 年齢：3 区分[～40 歳代・50～60 歳代・70 歳代以上]
	問 2	年齢	
	問 3	就業状況	
農産物の購入状況	問 4	主な購入場所	消費者として、農産物の購入場所や購入の際に重視していることを把握する。
		米 野菜・果物	
	問 5	購入の際、重視すること	地元農産物の購入状況を把握する。特に、消費者の考える地元農産物の良さと魅力を明らかにし、地産地消の取り組みのあり方等の検討材料とする。
	問 6	地元農産物の購入状況	
		購入頻度	
		具体の購入場所	
	問 7	購入する理由	
		購入しない理由	
栗東市の農業について	問 8	栗東市の農業のイメージ	栗東市の特産品についての認知度及び利用度を明らかにし、農産物・農産加工品のブランド化等の取り組みのあり方等の検討材料とする。
	問 9	まちなか(市街地及び周辺)の農業について	市民の理解、協力のもと農業振興を図るにあたり、市民が、栗東市の農業に対して現状どのようなイメージ(肯定的/否定的)を持っているかを把握し、将来の農業のあり方等の検討材料とする。また、都市と農業の共存や、まちづくりへの影響の観点から、都市農業に対する市民の意向を把握する。(問 9 と連動)
			都市の暮らしの身近にある農地は、その多様な機能が発揮されることで、農地及び農業者(生産者)と居住者(消費者)が共存する環境共生型の社会形成に寄与する。
			栗東市の農業の特性である「都市近郊型の農業」をふまえ、まちなか(市街地及び周辺)に農地があることのメリット/デメリットを市民視点からどのように捉えているかを把握するとともに、農地の必要性に対する意向を把握することで、都市農業のあり方等の検討材料とする。
	問 10	中山間地域の農業について	都市の暮らしの身近にある農地は、その多様な機能が発揮されることで、農地及び農業者(生産者)と居住者(消費者)が共存する環境共生型の社会形成に寄与する。
栗東市の農業の振興について	問 11	栗東市の農業振興に向けた取り組み	市の南部に位置する中山間地域における農業・農地の保全に対する意向を把握することで、中山間地域の農業のあり方等の検討材料とする。
	問 12	市民として取り組みたいこと	市民(消費者)の視点から、栗東市農業に求められる取り組み等についての意向を把握し、市民の理解、協力のもと取り組む農業振興施策等の検討材料とする。
	問 13	都市と農村の交流	市民が日々の暮らしの中で取り組みたいことを把握することで、市民との連携、協力のもと推進する農業振興施策等の検討材料とする。
栗東市の農業に関するご意見	—	自由記述	市民として、どのような機会があると自ら農業や農村に関わりたいと思うのか把握することで、都市と農村の交流施策等の検討材料とする。
			設問にとらわれず、栗東市の農業振興等に関する様々なアイデアや意見を市民から頂くためのコメント欄(自由記述)

(2) 農業従事者アンケート調査

1) 調査目的

栗東市の農業従事者（農家等）を対象として、生産者の立場からみた市内農業の現状及び課題、農業の維持、振興のために今後必要な施策等に関する意向等を把握し、栗東市農業が目指すべき将来像及び有効かつ実効性の高い施策等の検討資料とします。

また合わせて、調査成果は農業振興地域整備計画 基礎資料としても反映を図ります。

2) 調査概要

項目	内容等
名称	栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査票
調査対象	令和2年9月1日現在 栗東市内に農地を保有する農業経営者等（世帯主）約1,000名 ※悉皆調査
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・回答者の属性・農業経営の状況について・農地等の状況について・今後の農業経営について・栗東市の農業の振興について・市民と農業の交流等について・栗東市の農業に関するご意見（自由記述）
配布、回収方法	郵送による配布：約1,000通 返信用封筒による郵送回収
調査日(予定)	【配布】令和2年10月8日（木）発送 【回収】令和2年10月30日（金）投函締切
送付物	<ul style="list-style-type: none">・発送用封筒（角2封筒（宛名ラベル貼付））・アンケート調査票（A4冊子 8ページ） <div><ul style="list-style-type: none">・調査協力のお願い：1ページ・調査票：7ページ</div> <ul style="list-style-type: none">・返信用封筒（長3封筒）
回収目標数	回収目標数（有効回収数）：500票（回収率50%）

3) 農業従事者アンケート 設問構成

：農業振興地域整備計画[基礎調査]資料に反映

項目	設問			分析内容・備考
回答者の属性に関する項目	問 1	属性	居住地域	回答者の属性区分と各設問のクロス分析を実施することで、属性ごとの特性を把握する。 ※属性区分 地域：4 区分[金勝・葉山・治田・大宝] 年齢：3 区分[～50 歳代・60 歳代・70 歳代以上]
			性別	
			年齢	
農業経営の状況について	問 2	専業／兼業農家の区分		市内農業従事者の経営形態を把握する。 また、回答者の属性区分と各設問のクロス分析を検討し、属性ごとの特性を把握する。
	問 3	農業以外の仕事の状況	勤務地	兼業農家の他産業への就業状況を知るとともに、栗東市の農業労働力を把握する。農振整備計画基礎調査掲載表の根拠データとする。
			勤務形態	
			業種	
	問 4	主な生産品目		市内農業従事者が生産している主な農作物及びその出荷先からみた、市内農業の特性を把握する。
問 5	主な出荷先			
農地等の状況について	問 6	耕作している農地（経営耕地）面積	自作耕地（a）	耕作地の現状を把握する。 農地に占める貸付地／借入地の割合より、市内の農地流動化状況を把握する。
			貸付耕地（a）	
			借入耕地（a）	
	問 7	遊休農地の有無		遊休農地（現在耕作されていない農地と定義）の有無の把握（問 8 に続く）
	問 8	遊休農地の状況	遊休農地の面積（a）及び増減	遊休農地の面積、及び 10 年前からの増減より、市内における遊休農地の動向を把握する。
			遊休農地の理由	耕作しない（できない）要因及び今後についての所有者の意向から、市内における耕作放棄地の特性を把握し、遊休農地対策等の検討材料とする。
			遊休農地の今後の活用について	
	問 9	農業生産基盤の改善点		地域の農業生産基盤や施設等について改善、整備が必要な項目を把握し、地域の農業の保全・強化のための施策等の検討材料とする。
	問 10	必要な施設・機械		
今後の農業経営について	問 11	後継者の有無		農業の後継者の有無の把握（問 12 に続く）
	問 12	後継者の状況	後継者の年齢	後継者についての現状を把握し、今後の栗東市農業を支える担い手対策等の検討材料とする。
			後継の時期	
	問 13	今後の経営規模の意向		今後（約 10 年後）の経営耕地の規模（拡大／縮小・休廃業）の意向把握（問 14、15 に続く） また、回答者の属性区分と各設問のクロス分析を検討し、属性ごとの特性を把握する。
	問 14	拡大意向	拡大面積（a）	拡大意向がある農業従事者に対して、拡大希望面積やその理由、確保の方法を把握することで、意欲のある農家への支援策等の検討材料とする。
			拡大したい理由	
			農地確保の方法	
	問 15	縮小意向	縮小面積（a）	縮小意向がある農業従事者に対して、縮小希望面積やその、農地の移転先等を把握することで、縮小意向のある農家へ支援策や農地の活用策等の検討材料とする。
縮小したい理由				
農地の移転先等				

(つづき)

項目	設問		分析内容・備考
栗東市の農業の振興について	問 16	地域(集落)の今後	地域の今後（10 年後）について、地域に居住する回答者自身がどのように捉えているかを把握し、持続可能な地域、農業経営のあり方等の検討材料とする。
	問 17	取り組むべき農業振興施策	今後の栗東市農業の振興に向けて、どのような施策に重点的に取り組むべきかの意向を把握し、今後の農業振興施策等の検討材料とする。
	問 18	担い手の確保・育成に向けた取り組み	今後の栗東市農業の維持・強化において重要な要素となる担い手の確保・育成に向けて、重点的に取り組むべき施策についての意向を把握し、今後の担い手の確保・育成策等の検討材料とする。
	問 19	農地の整備の将来の方向性	地域や周辺における農地の整備の将来の方向性（保全／宅地化等）の意向を把握し、今後の農地（特に市街地周辺）保全策等の検討材料とする。
市民と農業の交流等について	問 20	市民と農業の交流機会への参加意向	
	問 21	市民農園の貸出し意向	
	問 22	地産地消の取り組み	地産地消の取り組み状況 地産地消を進めるにあたっての課題等
栗東市の農業に関するご意見	—	自由記述	設問にとらわれず、栗東市の農業振興等に関する様々なアイデアや意見を農業従事者から頂くためのコメント欄（自由記述）

(3) 中学生アンケート調査

1) 調査目的

栗東市内中学校に通う学生を対象として、次世代が持つ農業のイメージや農業との関わり方に関する意向等を把握し、次代の担い手としての可能性等をふまえた将来像及び施策の方向性等の検討資料とします。

2) 調査概要

項目	内容等
名称	『栗東市の未来の農業を考える』中学生アンケート調査
調査対象	市内中学校 在学中の中学二年生（約 750 名）
調査項目	・ 回答者と農業の関わり方について ・ 栗東市の農業について
配布、回収方法	校内での直接配布、回収
調査日(予定)	【配布、回収】令和 2 年 10 月～11 月頃
配布物	・ アンケート調査票（A 4 2 ページ）
回収目標数	回収目標数（有効回収数）： 750 票（回収率 100%）

3) 中学生アンケート 設問構成

項目	設問		分析内容・備考
農業の関わり方について	問 1	家族に農業従事者がいるか	回答者と農業との関わりを把握する。回答者のうちどれくらいの割合が農に触れる機会をもっているか。
	問 2	農作業をしたことがあるか	
栗東市の農業について	問 3	農業に対する興味	回答者が農業をどのように捉えているか、良いイメージ／良くないイメージを交えて把握し、長期的な視点からの担い手対策等の検討材料とする。
	問 4	農業という仕事のイメージ	
	問 5	将来農業の仕事に就きたいか	農業の担い手としての現時点の意向を把握する。（問 6、7 に続く）
	問 6	農業の仕事に就きたい	農業という仕事の魅力や動機を把握し、長期的な視点からの担い手対策等の検討材料とする。
		就きたい理由 作りたい作物等	
	問 7	農業の仕事に就きたくない 将来の農業との関わり方	直接的に農業の仕事に関わらなくても、消費者や事業者としての立場から担い手となる可能性等を把握し、将来の農業のあり方等の検討材料とする。

(4) 回収状況

1) 市民アンケート調査

・配布数	2,000 票
・回収数	967 票
・有効回答数（白紙票を除く）	967 票
・有効回収率	48.4%

2) 農業従事者アンケート調査

・配布数	1,059 票
・回収数	707 票
・有効回答数（白紙票を除く）	704 票
・有効回収率	66.5%

3) 中学生アンケート調査

・回収数	687 票
・有効回答数（白紙票を除く）	686 票
（うち栗東中学校	227 票）
（ 葉山中学校	115 票）
（ 栗東西中学校	345 票）

2. 調査結果

2-1. 市民アンケート調査結果

(1) 回答者の属性

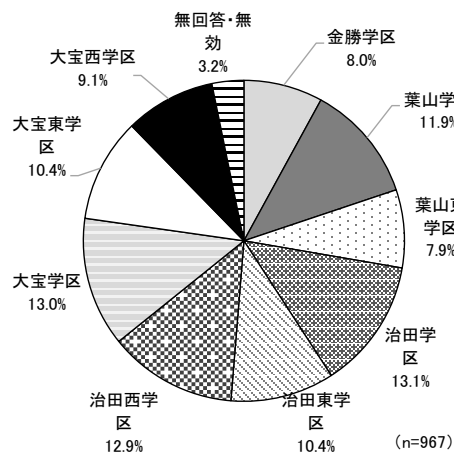
1) 居住地（問1）

- ・回答者のお住まいの学区は、「治田学区」が127人（13.1%）と最も多く、次いで「大宝学区」126人（13.0%）、「治田西学区」125人（12.9%）となります。
- ・地域区分別の居住地は、「治田地域」が353人（36.5%）と最も多く、次いで「大宝地域」315人（32.6%）、「葉山地域」191人（19.8%）、「金勝地域」77人（8.0%）となります。
- ・市人口（令和2年9月1日現在）との比較では、葉山東学区を除き概ね同程度の人口分布（割合）となっています。

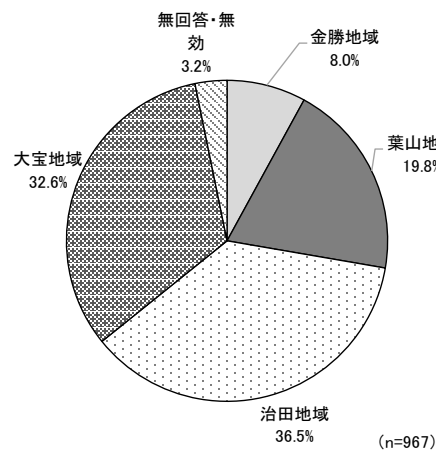
居住地

学区	回答数 (人)	割合 (%)	参考: 栗東市人口(R2.9.1 現在)		地域区分	回答数 (人)	割合 (%)
			人口(人)	割合(%)			
金勝学区	77	8.0%	6,602	9.4%	金勝地域	77	8.0%
葉山学区	115	11.9%	7,754	11.0%	葉山地域	191	19.8%
葉山東学区	76	7.9%	7,531	10.7%	治田地域	353	36.5%
治田学区	127	13.1%	10,294	14.6%			
治田東学区	101	10.4%	7,348	10.4%			
治田西学区	125	12.9%	9,842	14.0%			
大宝学区	126	13.0%	9,045	12.9%	大宝地域	315	32.6%
大宝東学区	101	10.4%	5,961	8.5%			
大宝西学区	88	9.1%	5,947	8.5%			
無回答・無効	31	3.2%	—	—	分からない	31	3.2%
回答者総数	967	100.0%	70,324	100.0%	無回答	967	100.0%

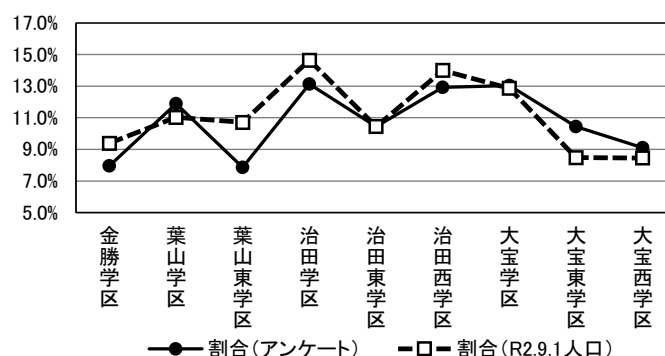
居住地（学区）（割合）



居住地（地域区分）（割合）



(参考) 栗東市人口※1 との比較（居住地）（割合）



※1 令和2年9月1日現在
※無回答、無効を除く

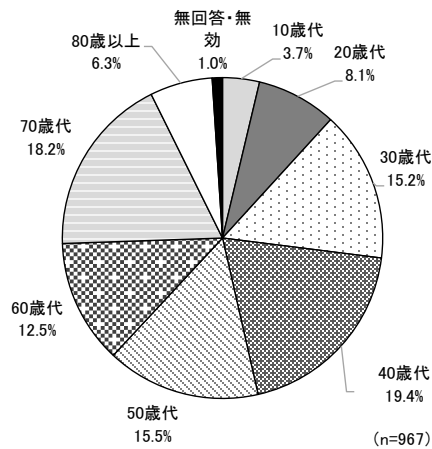
2) 年齢（問2）

- ・回答者の年齢は、「40 歳代」が 188 人（19.4%）と最も多く、次いで「70 歳代」176 人（18.2%）、「50 歳代」150 人（15.5%）となります。
- ・年齢区分別にみると、「40 歳代以下」449 人（46.4%）、「50～60 歳代」271 人（28.0%）、「70 歳代以上」237 人（24.5%）となります。
- ・市人口（令和 2 年 9 月 1 日現在）との比較では、20 歳代の回答者の割合が比較的低く、また 70 歳代の回答者の割合が比較的高くなっています。

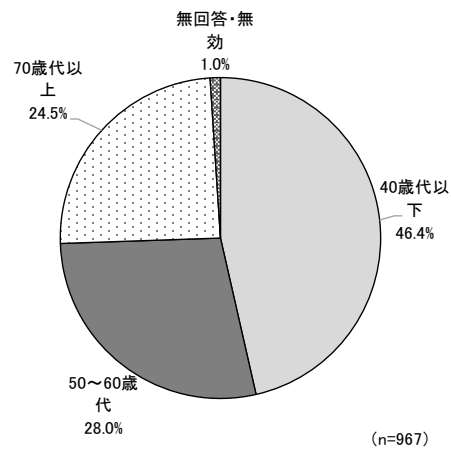
年齢

学区	回答数 (人)	割合 (%)	参考: 栗東市人口 (R2.9.1 現在)		地域区分	回答数 (人)	割合 (%)
			人口 (人)	割合 (%)			
10 歳代	36	3.7%	3,305	5.7%	40 歳代以下	449	46.4%
20 歳代	78	8.1%	8,026	13.8%			
30 歳代	147	15.2%	9,520	16.4%			
40 歳代	188	19.4%	12,254	21.1%			
50 歳代	150	15.5%	8,662	14.9%	50～60 歳代	271	28.0%
60 歳代	121	12.5%	6,170	10.6%			
70 歳代	176	18.2%	6,545	11.3%	70 歳代以上	237	24.5%
80 歳以上	61	6.3%	3,488	6.0%			
無回答・無効	10	1.0%	—	—	無回答・無効	10	1.0%
回答者総数	967	100.0%	57,970	100.0%	回答者総数	967	100.0%

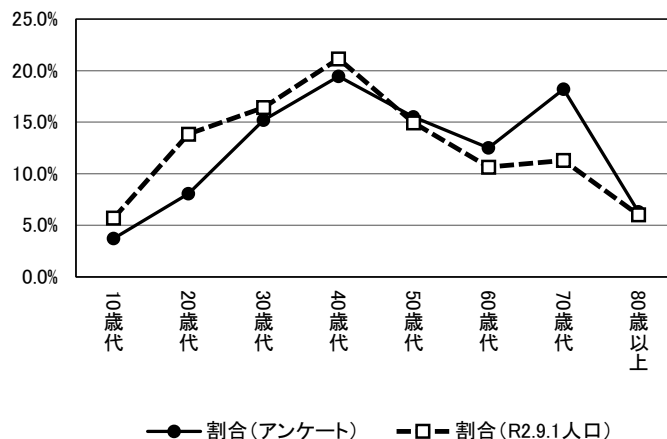
年齢（割合）



年齢区分（割合）



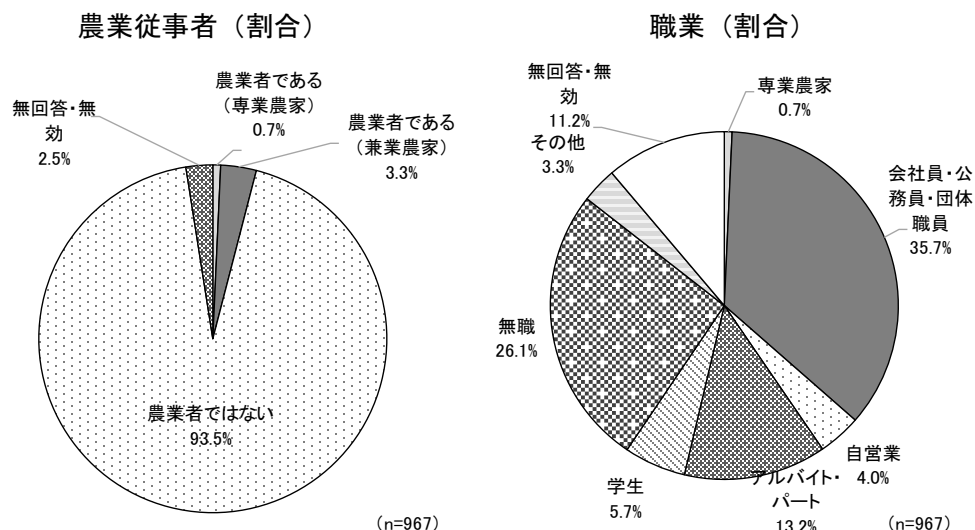
（参考）栗東市人口※1 との比較（年齢）（割合）



※1 令和 2 年 9 月 1 日現在 ※無回答、無効を除く

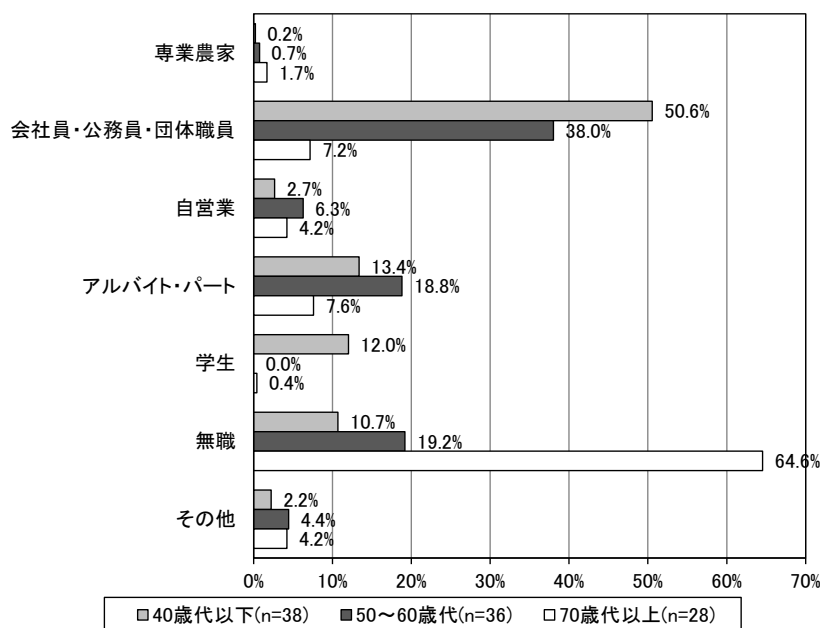
3) 職業（問3）

- ・農業従事者である回答者は、「農業者である（専業農家）」7人（0.7%）及び「農業者である（兼業農家）」32人（3.3%）となり、合わせて回答者の約4%となります。
- ・「農業者である（専業農家）」以外の回答者の職業は、「会社員・公務員・団体職員」が328人（35.7%）と最も多く、次いで「無職」244人（26.1%）、「アルバイト」127人（13.2%）となります。
- ・「無職」と回答された方の多くが、70歳代以上の高齢者となります。



※「専業農家」以外には、兼業農家の回答者の農業以外の職業を含む。

年齢区分別 職業（割合）



(2) 農産物の購入状況について

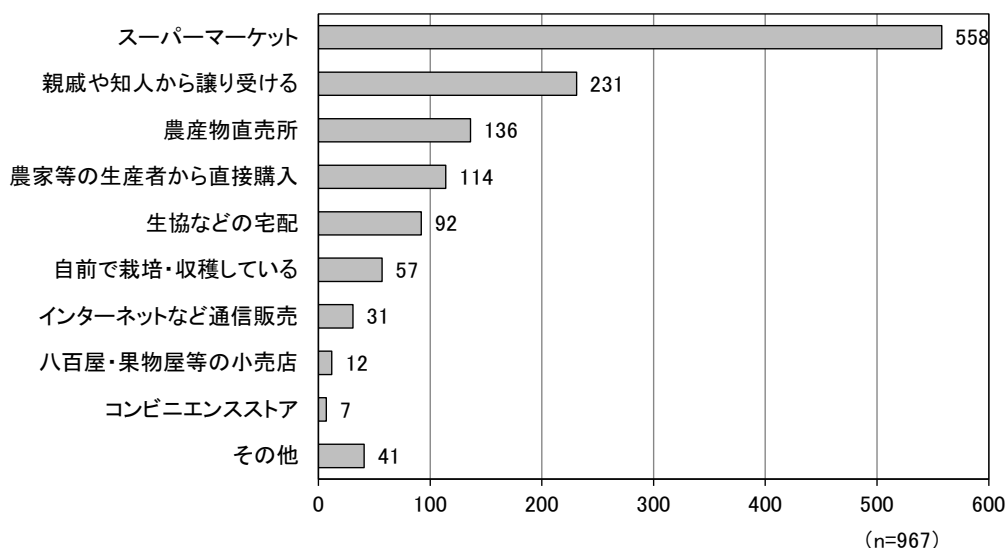
1) 農産物の主な購入場所・サービス（問4 複数回答2つまで）

① 米

- ・米の購入先として、「スーパーマーケット」が558人と最も多く、次いで、「親戚や知人から譲り受ける」231人、「農産物直売所」136人、「農家等の生産者から直接購入」114人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、治田地域及び大宝地域では、「スーパーマーケット」とする回答者が他地域と比べて比較的多く、ともに回答者総数の6割を超えています。
- ・金勝地域では「自前で栽培・収穫している」とする回答者が他地域と比べて比較的多く、また葉山地域では、「農産物直売所」や「農家等の生産者から直接購入」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、どの年代も「スーパーマーケット」が最も多くなりますが、40歳代以下では、「親戚や知人から譲り受ける」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・年齢が高くなるほど、「農産物直売所」や「自前で栽培・収穫している」とする回答が多くなる傾向がみられます。

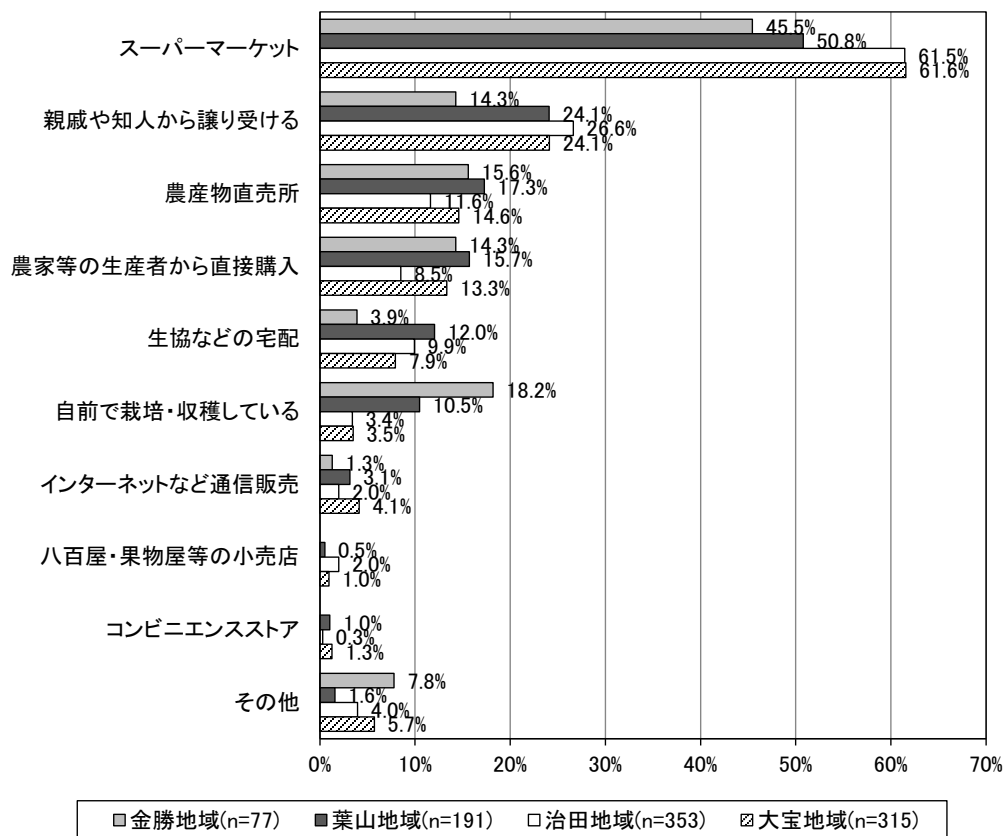
農産物（米）の主な購入場所・サービス（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
スーパーマーケット	558	35	97	217	194	261	160	135
親戚や知人から譲り受ける	231	11	46	94	76	144	48	37
農産物直売所	136	12	33	41	46	43	45	47
農家等の生産者から直接購入	114	11	30	30	42	42	39	33
生協などの宅配	92	3	23	35	25	53	18	19
自前で栽培・収穫している	57	14	20	12	11	16	18	23
インターネットなど通信販売	31	1	6	7	13	21	7	3
八百屋・果物屋等の小売店	12	0	1	7	3	4	6	2
コンビニエンスストア	7	0	2	1	4	2	3	2
その他	41	6	3	14	18	15	14	12
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237



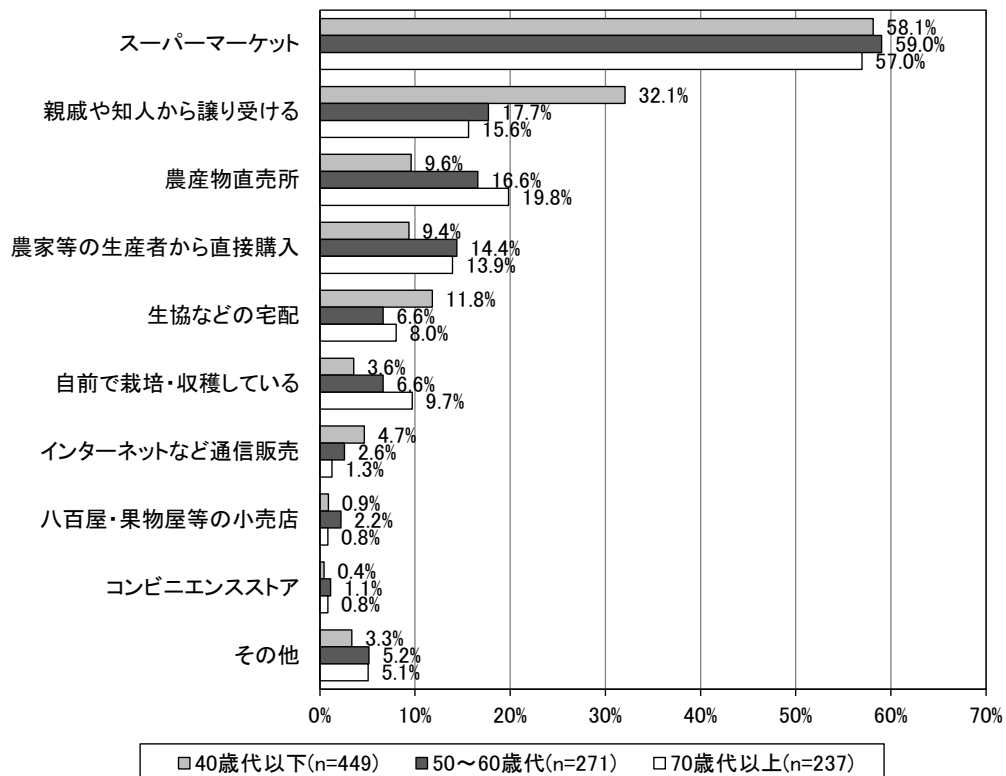
※無回答、無効を除く

地域区分別 農産物（米）の主な購入場所・サービス（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 農産物（米）の主な購入場所・サービス（回答者総数に占める割合）



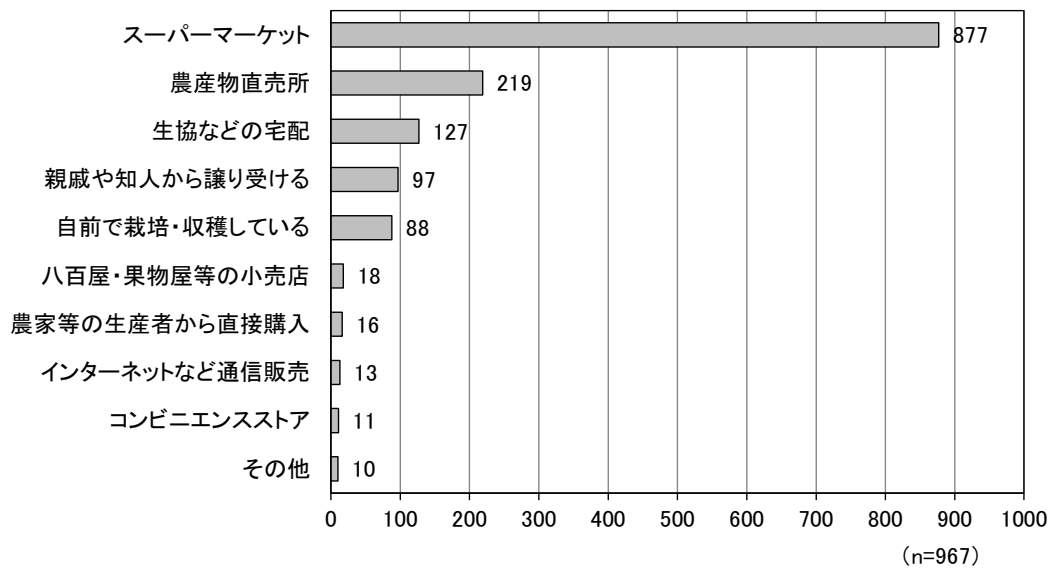
※無回答、無効を除く

② 野菜

- ・野菜の購入先として、「スーパーマーケット」が 877 人と最も多く、次いで、「農産物直売所」219 人、「生協などの宅配」127 人、「親戚や知人から譲り受ける」97 人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域でも「スーパーマーケット」が最も多くなりますが、金勝地域では「自前で栽培・収穫している」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、どの年代も「スーパーマーケット」が最も多くなりますが、若い年代ほど、「生協などの宅配」や「親戚や知人から譲り受ける」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・年齢が高くなるほど、「農産物直売所」や「自前で栽培・収穫している」とする回答が多くなる傾向がみられます。

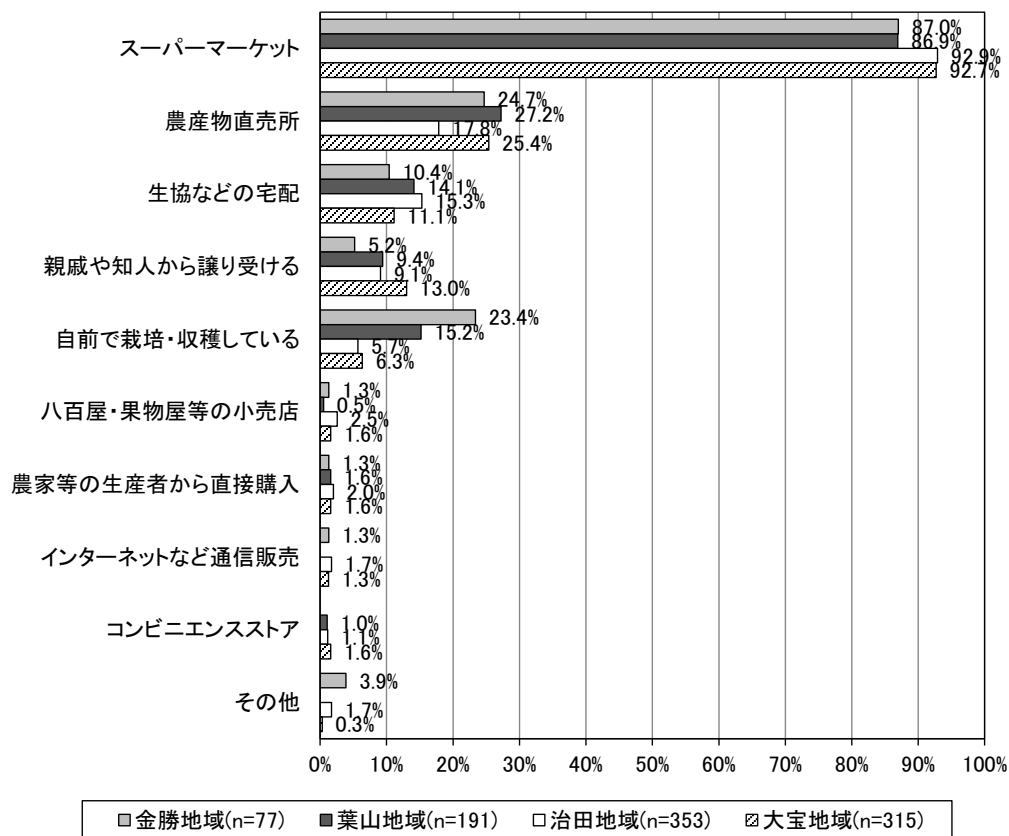
農産物（野菜）の主な購入場所・サービス（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40 歳代以下	50～60 歳代	70 歳代以上
スーパーマーケット	877	67	166	328	292	425	251	197
農産物直売所	219	19	52	63	80	84	66	67
生協などの宅配	127	8	27	54	35	70	29	26
親戚や知人から譲り受ける	97	4	18	32	41	62	23	11
自前で栽培・収穫している	88	18	29	20	20	16	31	41
八百屋・果物屋等の小売店	18	1	1	9	5	5	7	6
農家等の生産者から直接購入	16	1	3	7	5	7	5	4
インターネットなど通信販売	13	1	0	6	4	10	1	2
コンビニエンスストア	11	0	2	4	5	3	4	4
その他	10	3	0	6	1	5	2	3
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237



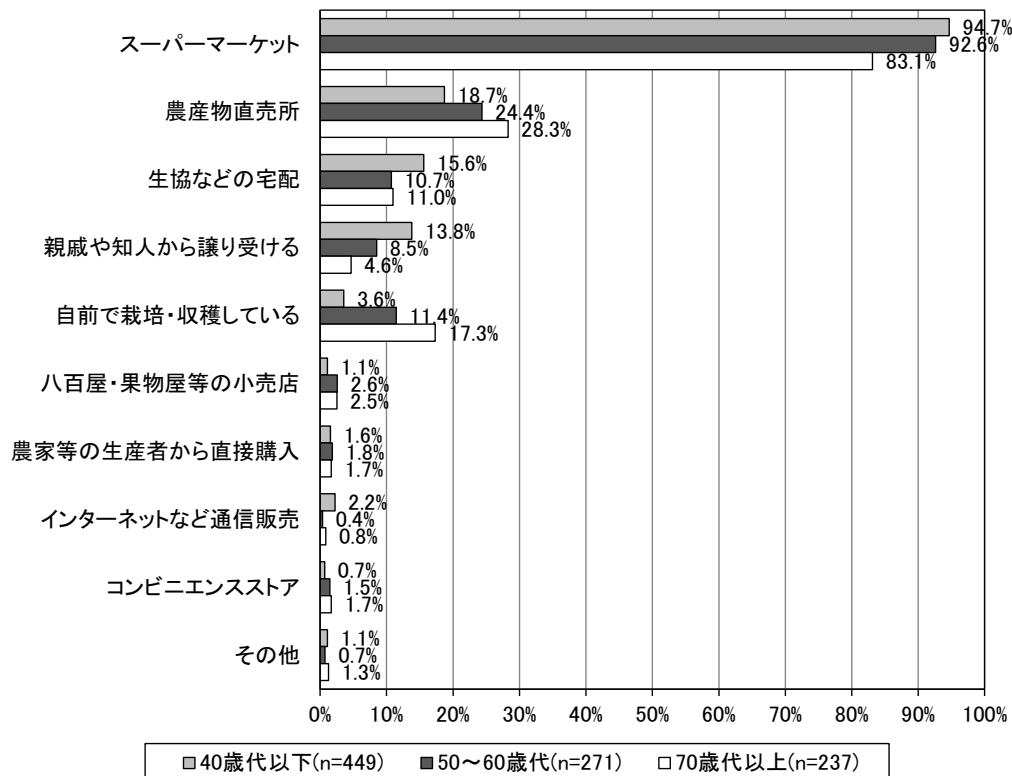
※無回答、無効を除く

地域区分別 農産物（野菜）の主な購入場所・サービス（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 農産物（野菜）の主な購入場所・サービス（回答者総数に占める割合）



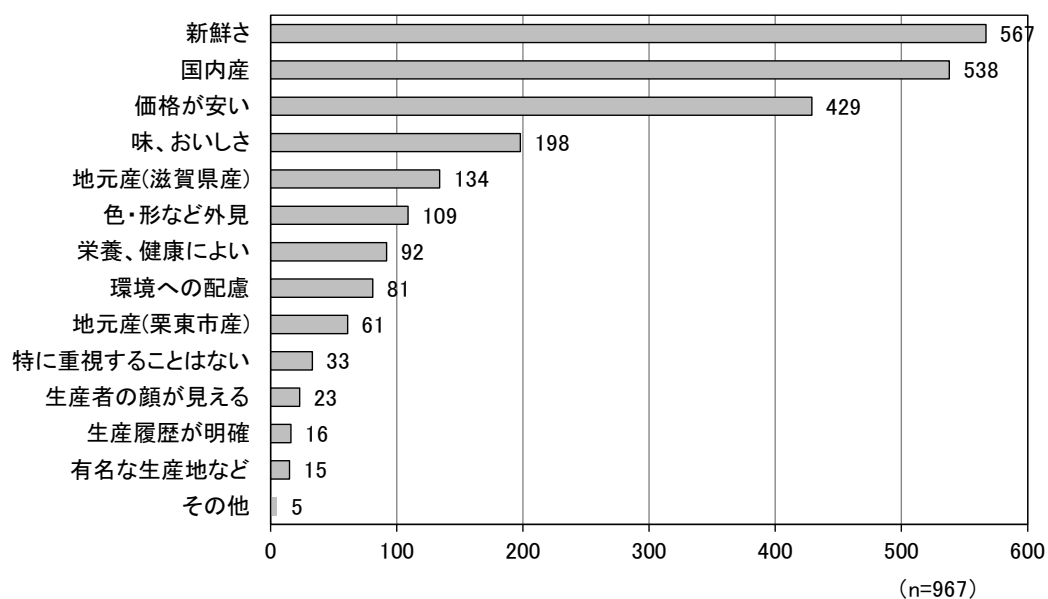
※無回答、無効を除く

2) 農産物を購入する際に重視すること（問5 複数回答3つまで）

- ・農産物を購入する際に重視することとして、「新鮮さ」が567人と最も多く、次いで「国内産」538人、「価格が安い」429人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、治田地域及び大宝地域では、「新鮮さ」とする回答者が他地域と比べて比較的多く、ともに回答者総数の6割を超えています。
- ・金勝地域では「価格が安い」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「新鮮さ」や「価格が安い」「味、おいしさ」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・50歳代では、「国内産」とする回答が最も多く、また70歳代では、「環境への配慮」や「地元産（栗東市産）」とする回答が他年代と比べて比較的多くなります。

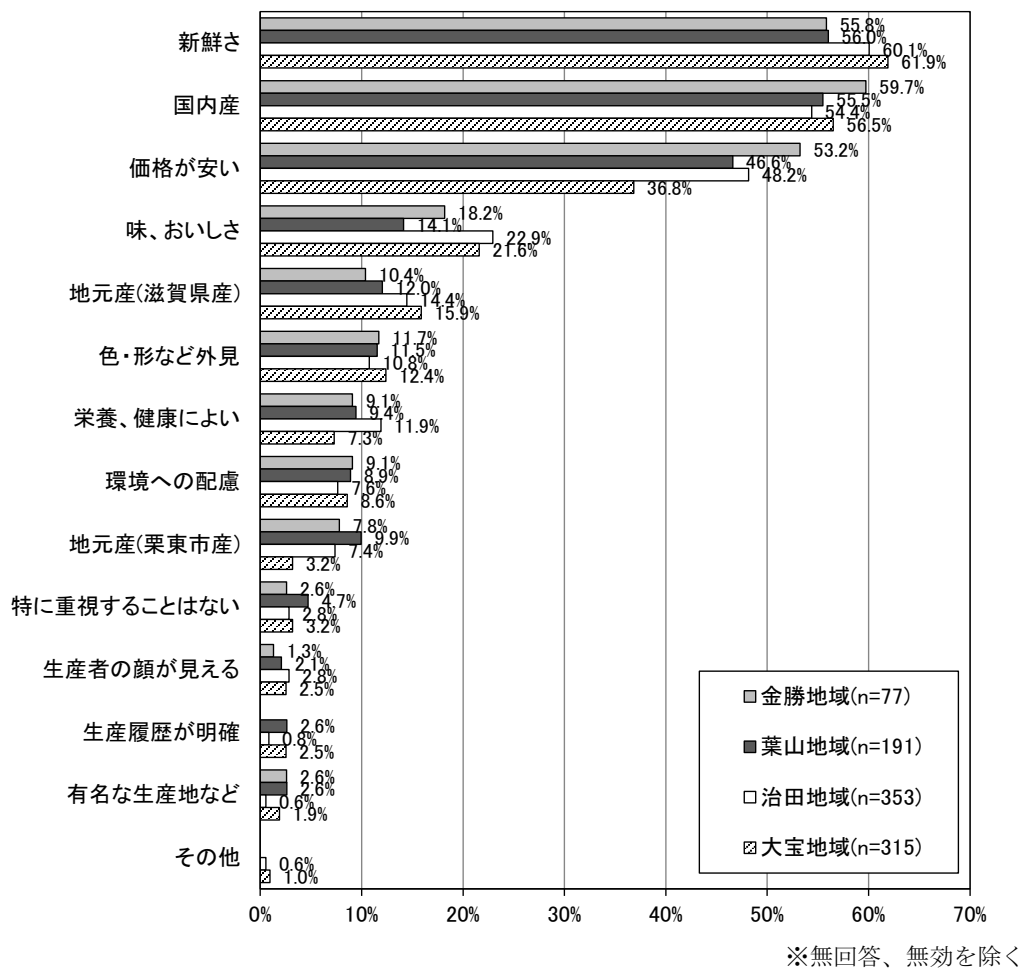
農産物を購入する際に重視すること（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
新鮮さ	567	43	107	212	195	282	157	126
国内産	538	46	106	192	178	253	166	118
価格が安い	429	41	89	170	116	250	121	57
味、おいしさ	198	14	27	81	68	110	59	29
地元産(滋賀県産)	134	8	23	51	50	60	32	41
色・形など外見	109	9	22	38	39	74	24	11
栄養、健康によい	92	7	18	42	23	46	29	16
環境への配慮	81	7	17	27	27	34	18	29
地元産(栗東市産)	61	6	19	26	10	14	13	34
特に重視することはない	33	2	9	10	10	5	10	18
生産者の顔が見える	23	1	4	10	8	5	7	11
生産履歴が明確	16	0	5	3	8	8	3	5
有名な生産地など	15	2	5	2	6	8	4	3
その他	5	0	0	2	3	1	1	3
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

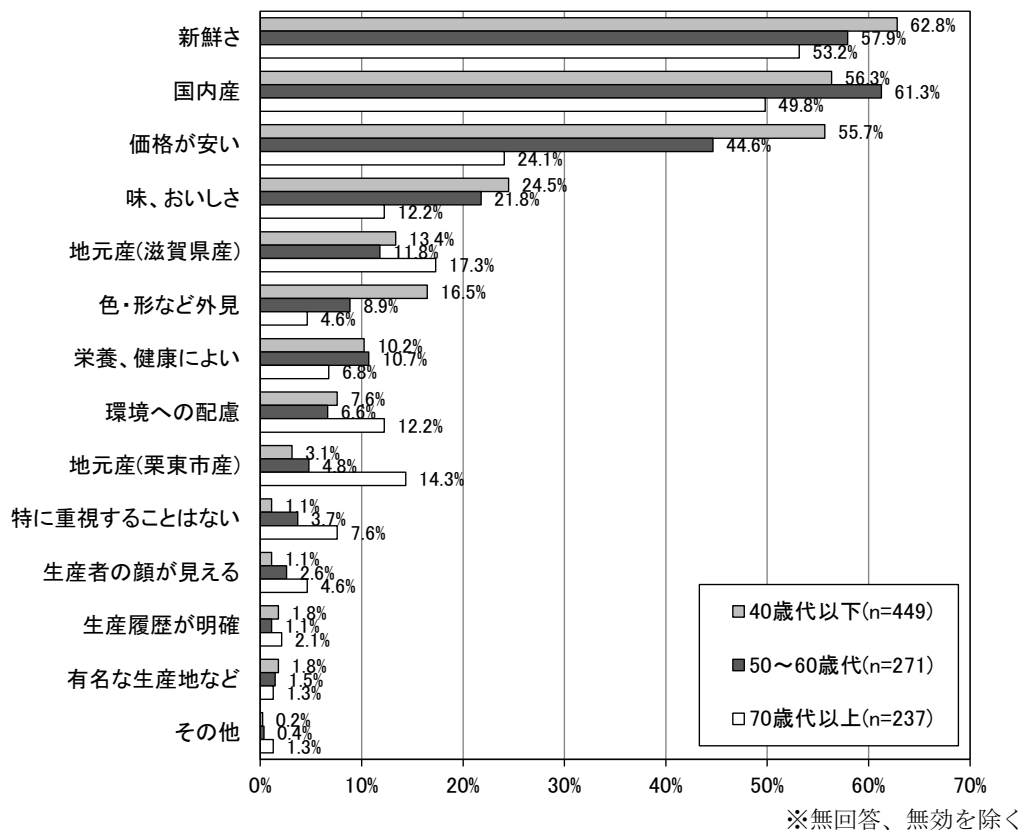


※無回答、無効を除く

地域区分別 農産物を購入する際に重視すること（回答者総数に占める割合）



年齢区分別 農産物を購入する際に重視すること（回答者総数に占める割合）



3) 地元農産物の購入状況（問6）

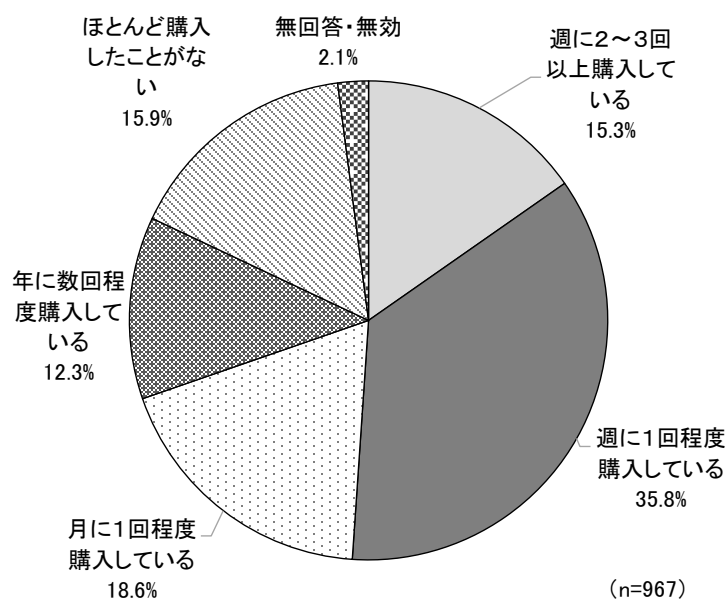
① 地元農産物の購入頻度

- ・地元農産物（栗東市または滋賀県内の農産物）の購入頻度として、「週に1回程度購入している」が346人（35.9%）と最も多く、次いで「月に1回程度購入している」180人（18.9%）、
「ほとんど購入したことがない」154人（15.5%）、「週に2～3回以上購入している」148人（15.5%）となります。

地元農産物の購入頻度

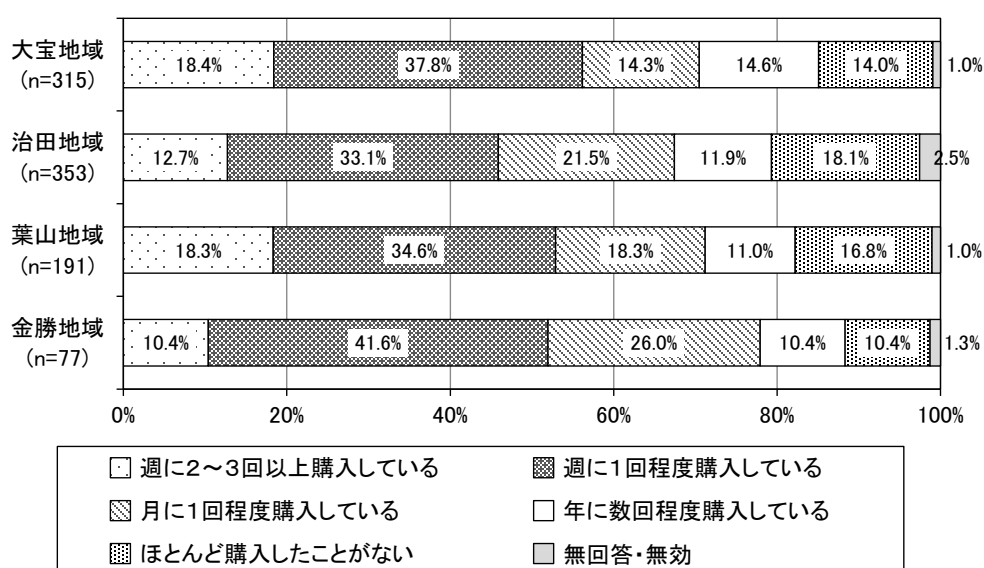
項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝 地域	葉山 地域	治田 地域	大宝 地域	40歳代 以下	50～60 歳代	70歳代 以上
週に2～3回以上購入している	148	8	35	45	58	56	43	49
週に1回程度購入している	346	32	66	117	119	144	103	97
月に1回程度購入している	180	20	35	76	45	99	39	40
年に数回程度購入している	119	8	21	42	46	60	43	16
ほとんど購入したことがない	154	8	32	64	44	87	41	25
無回答・無効	20	1	2	9	3	3	2	10
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

地元農産物の購入頻度（割合）



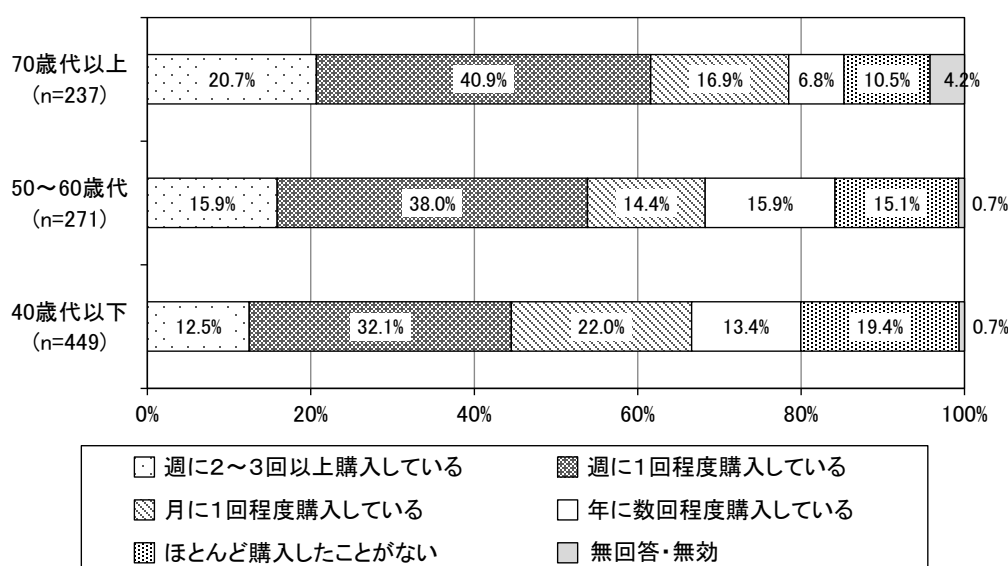
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「週に1回程度購入している」とする回答者が他地域と比べて比較的多く、また大宝地域では「週に2～3回以上購入している」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域及び治田地域では「ほとんど購入したことがない」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、高齢の年代ほど「週に2～3回以上購入している」や「週に1回程度購入している」とする回答が多くなる傾向がみられる一方、40歳代以下では、「月に1回程度購入している」や「ほとんど購入したことがない」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

地域区分別 地元農産物の購入頻度（割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 地元農産物の購入頻度（割合）

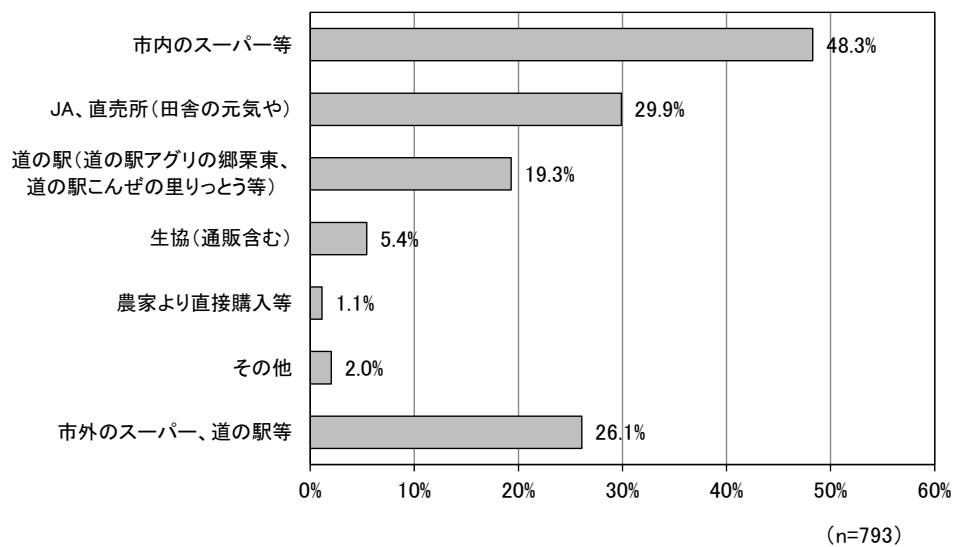


※無回答、無効を除く

② 地元農産物の主な購入場所（自由記述）

- ・前問（問6①）で「地元農産物を購入したことがある」とする回答者（n=793）について、地元農産物の主な購入場所を尋ねました。
- ・主な購入場所について、内容に基づく分類をみると、「市内のスーパー等」が最も多く、回答者の5割近くが利用しています。
- ・次いで、「JA、直売所（田舎の元気や）」「道の駅（道の駅アグリ郷栗東、道の駅こんぜの里りっとう等）」となります。
- ・一方、市外の施設として、草津市内のスーパーやショッピングモール、守山市や近江八幡市の道の駅なども多く挙げられました。

地元農産物の主な購入場所（内容に基づく分類）（回答者総数に占める割合）



※複数の分類に該当する意見はそれぞれに計上している

※「市外のスーパー、道の駅等」には、具体的な名称や場所が市外と判明したものを計上している。

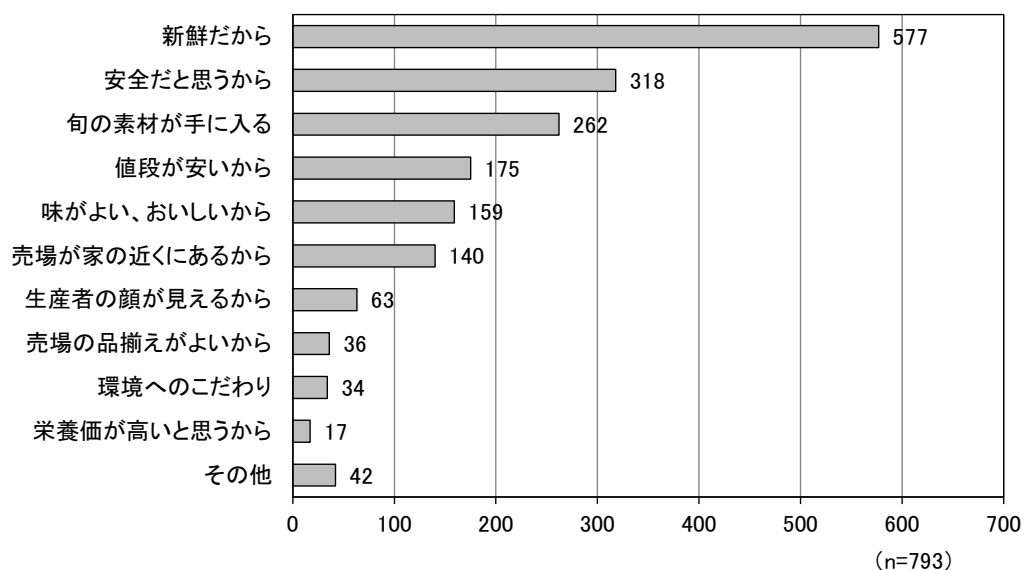
※無回答、無効を除く

③ 地元農産物を購入する理由（複数回答3つまで）

- ・前問（問6①）で「地元農産物を購入したことがある」とする回答者（n=793）について、地元農産物を購入する理由を尋ねました。
- ・購入する理由として、「新鮮だから」が577人と最も多く、次いで「安全だと思うから」318人、「旬の素材が手に入る」262人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、大宝地域では「旬の素材が手に入る」、金勝地域では「生産者の顔が見えるから」とする回答者がそれぞれ他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、40歳代以下では「値段が安いから」が、50～60歳代では「売場が家の近くにあるから」が、70歳代以上では「安全だと思うから」「旬の素材が手に入る」とする回答者がそれぞれ他年代と比べて比較的多くなります。

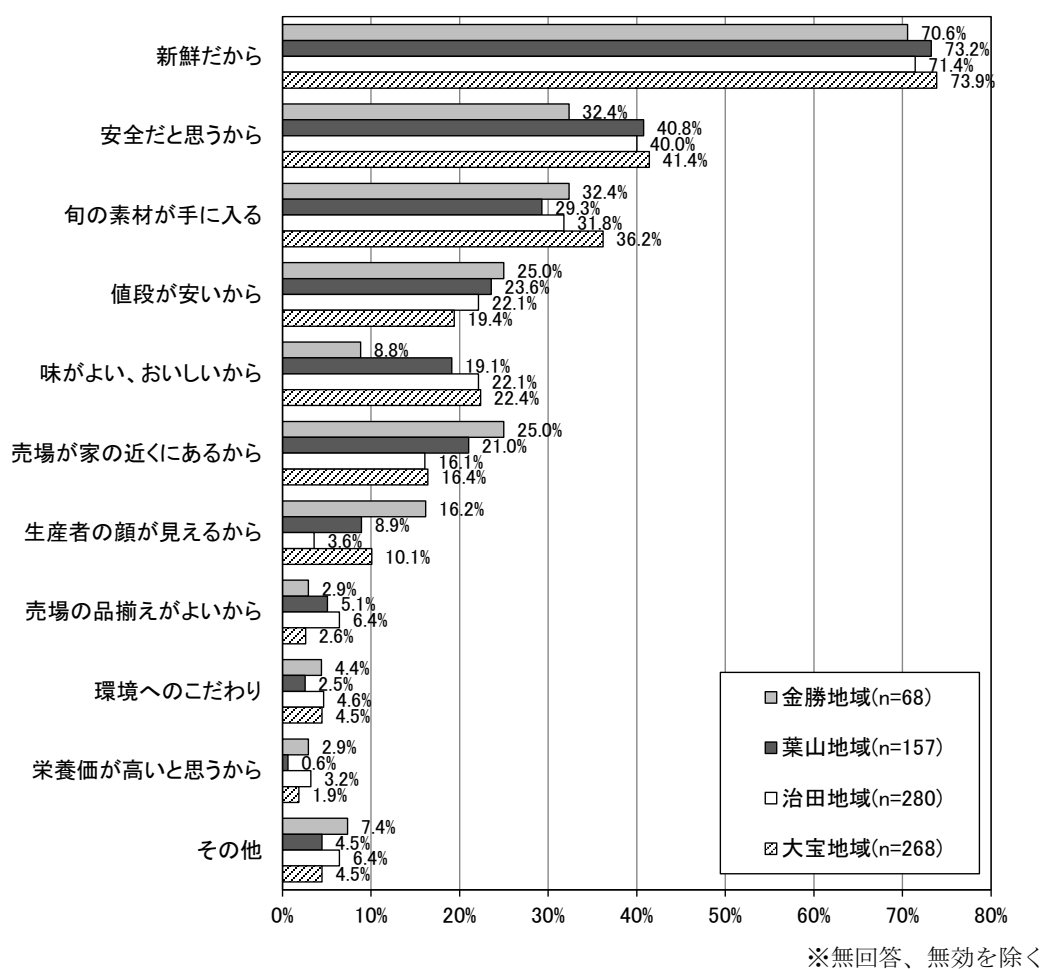
地元農産物を購入する理由（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
新鮮だから	577	48	115	200	198	235	182	157
安全だと思うから	318	22	64	112	111	138	87	90
旬の素材が手に入る	262	22	46	89	97	117	65	78
値段が安いから	175	17	37	62	52	102	45	27
味がよい、おいしいから	159	6	30	62	60	70	47	42
売場が家の近くにあるから	140	17	33	45	44	56	48	36
生産者の顔が見えるから	63	11	14	10	27	17	19	27
売場の品揃えがよいから	36	2	8	18	7	9	9	17
環境へのこだわり	34	3	4	13	12	18	4	12
栄養価が高いと思うから	17	2	1	9	5	4	9	4
その他	42	5	7	18	12	25	11	6
回答者総数	793	68	157	280	268	359	228	202

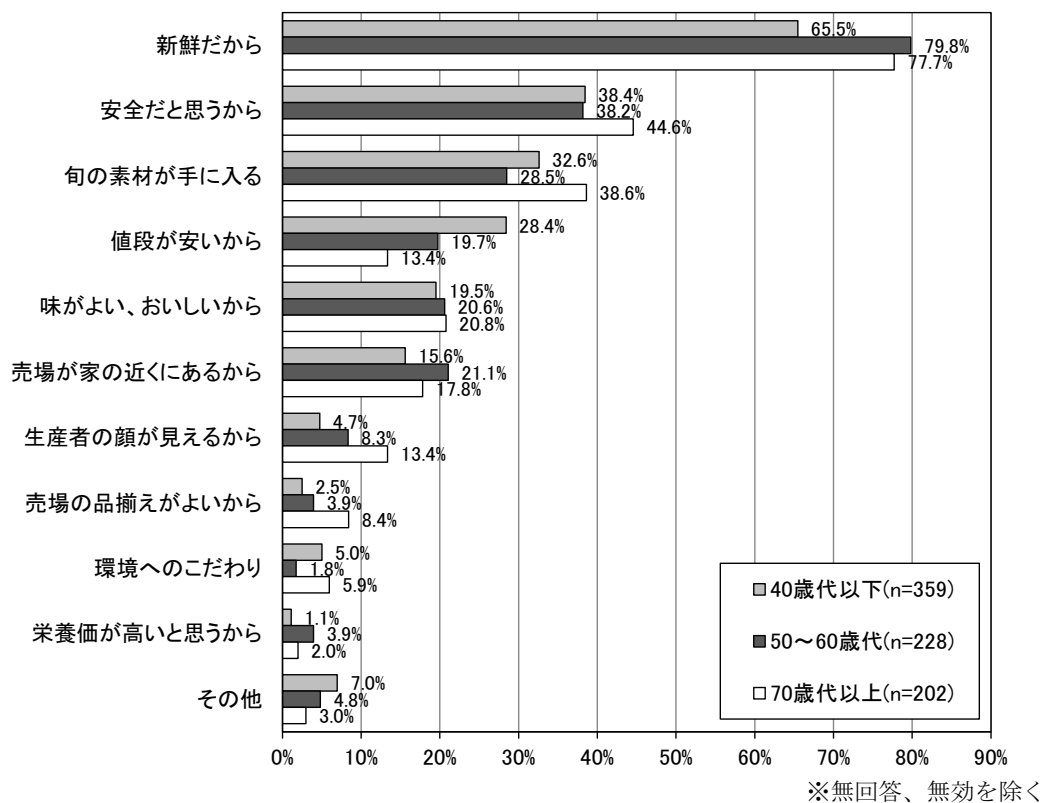


※無回答、無効を除く

地域区分別 地元農産物を購入する理由（回答者総数に占める割合）



年齢区分別 地元農産物を購入する理由（回答者総数に占める割合）

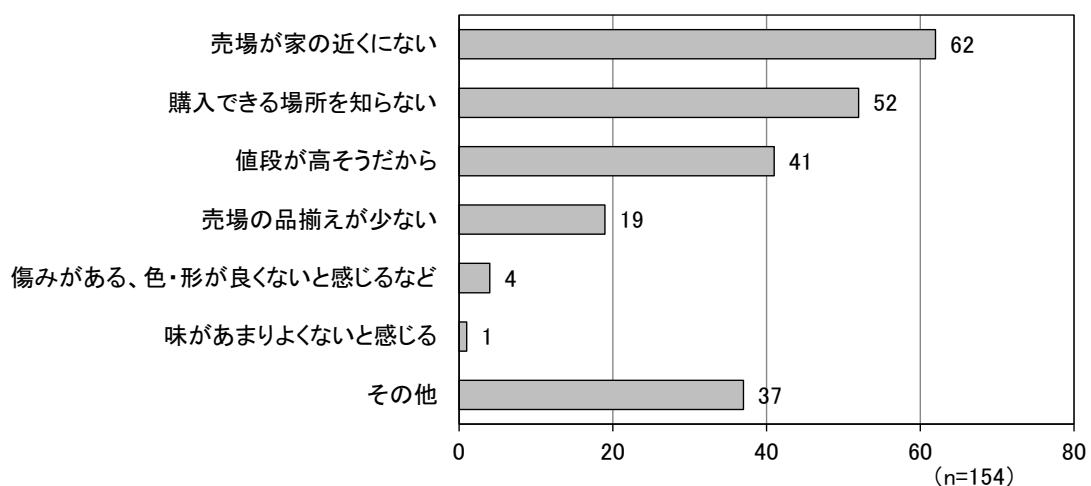


④ 地元農産物を購入しない理由（複数回答3つまで）

- ・前問（問6①）で「地元農産物を購入しない」とする回答者（n=154）について、地元農産物を購入しない理由を尋ねました。
- ・購入しない理由として「売場が家の近くにない」が62人と最も多く、次いで「購入できる場所を知らない」52人、「値段が高そうだから」41人となります。
- ・また、その他の理由として、「（地元農産物であることを）あまり気にしていない」や「自家栽培している」などが挙げられました。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域では「売場の品揃えが少ない」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、50～60歳代では「売場が家の近くにない」が、70歳代以上では「購入できる場所を知らない」とする回答者がそれぞれ他年代と比べて比較的多くなります。
- ・若い年代ほど、「値段が高そうだから」とする回答が多くなる傾向がみられます。

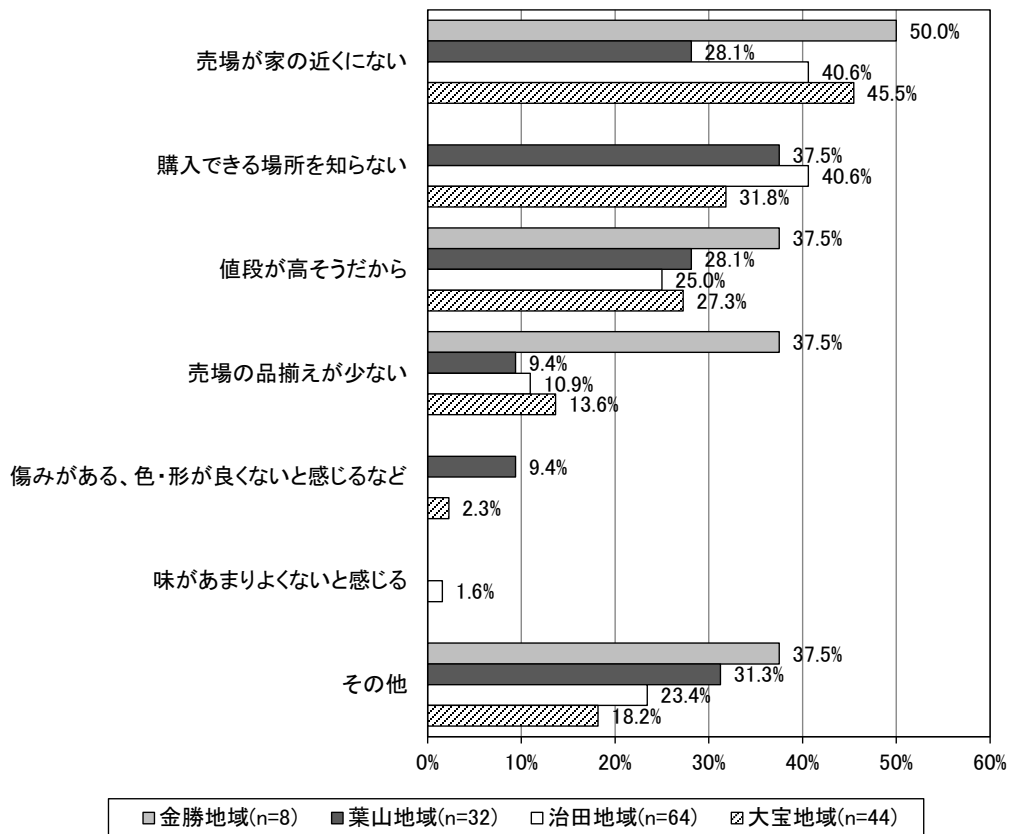
地元農産物を購入しない理由（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
売場が家の近くにない	62	4	9	26	20	29	22	11
購入できる場所を知らない	52	0	12	26	14	30	12	10
値段が高そうだから	41	3	9	16	12	27	10	4
売場の品揃えが少ない	19	3	3	7	6	7	9	3
傷みがある、色・形が良くないと感じるなど	4	0	3	0	1	1	1	2
味があまりよくないと感じる	1	0	0	1	0	1	0	0
その他	37	3	10	15	8	25	6	5
回答者総数	154	8	32	64	44	87	41	25



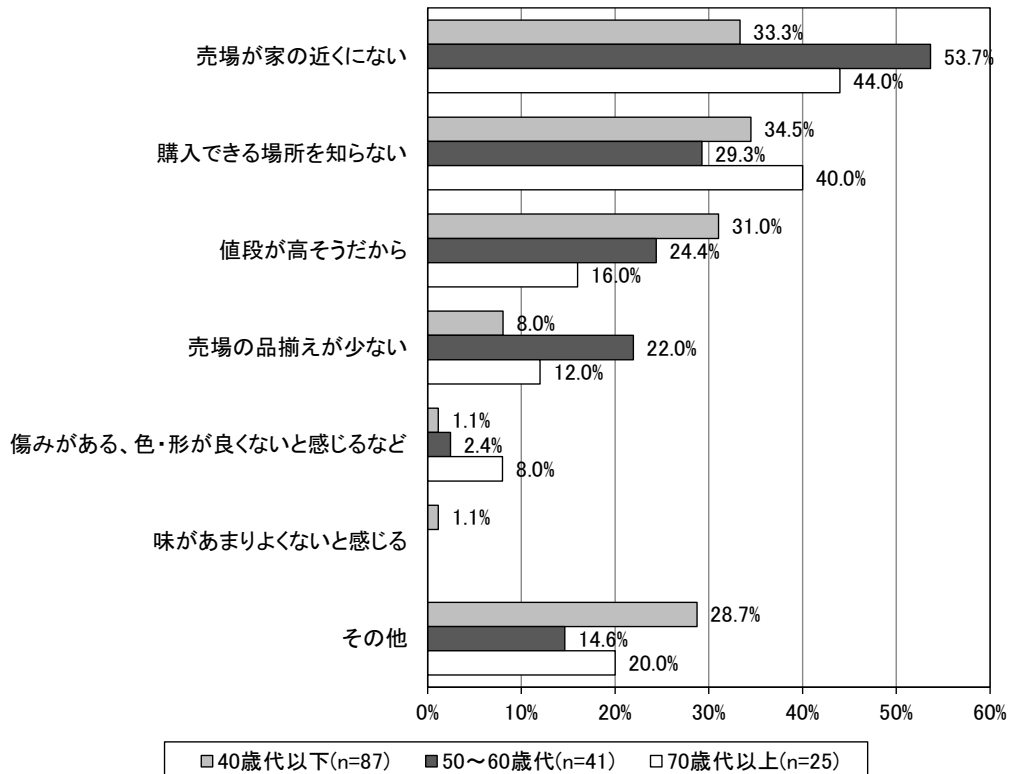
※無回答、無効を除く

地域区分別 地元農産物を購入しない理由（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 地元農産物を購入しない理由（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

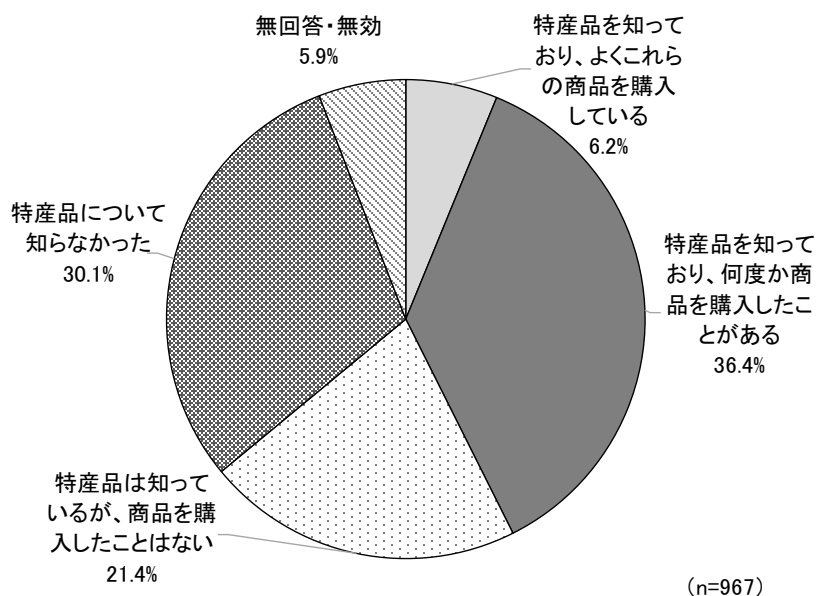
4) 栗東市の特産品について（問7）

- ・栗東市の特産品についての認知及び購入状況について、「特産品を知っており、何度か商品を購入したことがある」が352人（36.4%）と最も多くなります。
- ・「特産品を知っており、よくこれらの商品を購入している」60人（6.2%）及び「特産品は知っているが、商品を購入したことはない」207人（21.4%）を足して、6割強の回答者が特産品について認知しており、また4割強の回答者が購入したことがあるとしています。
- ・一方で、「特産品について知らなかった」とする回答者も291人（30.1%）を占めています。
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「特産品を知っており、何度か商品を購入したことがある」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・治田地域では、「特産品について知らなかった」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、高齢の年代ほど「特産品を知っており、何度か商品を購入したことがある」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・一方で、若い年代ほど「特産品について知らなかった」とする回答が多くなる傾向がみられます。

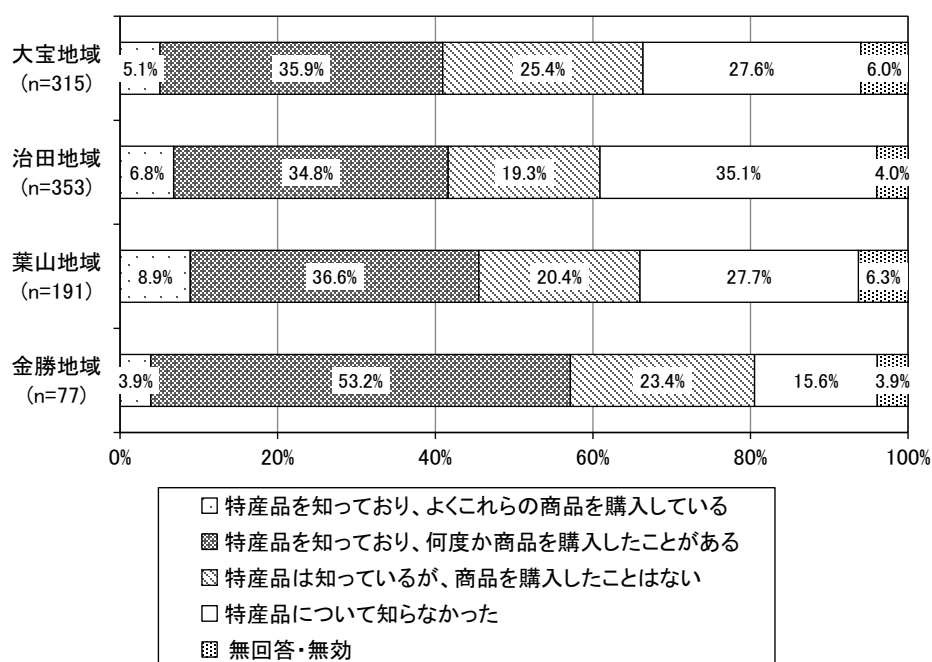
栗東市の特産品について

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
特産品を知っており、よくこれらの商品を購入している	60	3	17	24	16	15	12	33
特産品を知っており、何度か商品を購入したことがある	352	41	70	123	113	127	107	116
特産品は知っているが、商品を購入したことはない	207	18	39	68	80	110	63	33
特産品について知らなかった	291	12	53	124	87	184	78	26
無回答・無効	57	3	12	14	19	13	11	29
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

栗東市の特産品について（割合）

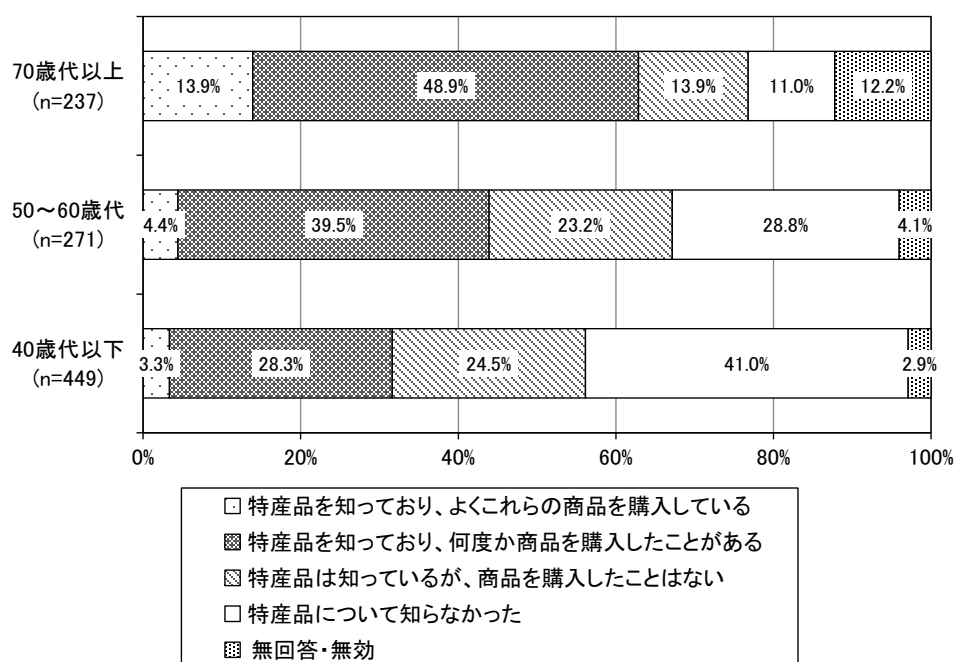


地域区分別 栗東市の特産品について（割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 栗東市の特産品について（割合）



※無回答、無効を除く

(3) 栗東市の農業について

1) 栗東市の農業のイメージ (問8)

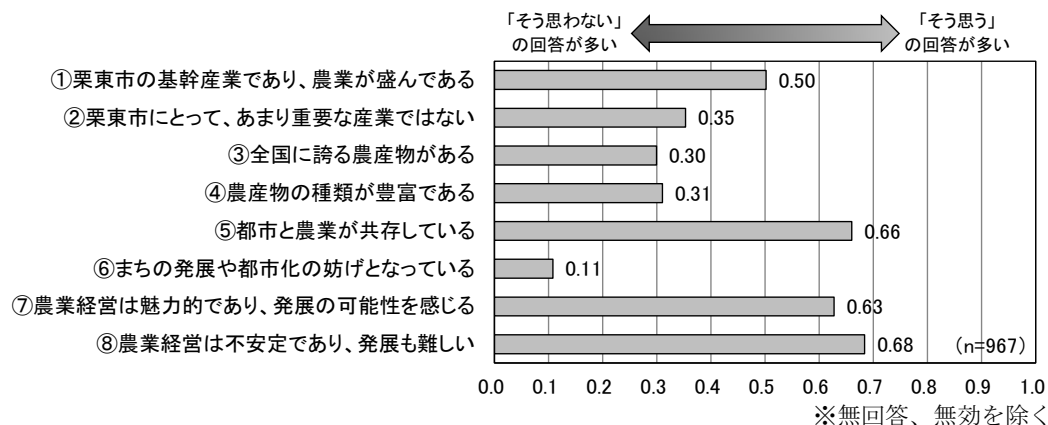
- ・栗東市の農業のイメージについての評価 (3段階評価) として、「そう思う」回答者が多い項目として、「⑧農業経営は不安定であり、発展も難しい」(評価点 0.68)、「⑤都市と農業が共存している」(評価点 0.66)、「⑦農業経営は魅力的であり、発展の可能性を感じる」(評価点 0.63) などが挙げられます。
- ・一方、「そう思わない」回答者が多い項目として、「⑥まちの発展や都市化の妨げとなっている」(評価点 0.11)、「③全国に誇る農産物がある」(評価点 0.30)、「④農産物の種類が豊富である」(評価点 0.31) などが挙げられます。
- ・地域区分 (居住地) 別にみると、金勝地域では「①栗東市の基幹産業であり、農業が盛んである」や「④農産物の種類が豊富である」「⑤都市と農業が共存している」などの項目が他地域と比べて「そう思う」回答者が比較的多くなります。また、葉山地域では「⑥まちの発展や都市化の妨げとなっている」や「⑧農業経営は不安定であり、発展も難しい」などの項目が他地域と比べて「そう思う」回答者が比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、70 歳代以上では「①栗東市の基幹産業であり、農業が盛んである」や「③全国に誇る農産物がある」などの項目が他年代と比べて「そう思う」回答者が比較的多く、また 40 歳代以下では「⑦農業経営は魅力的であり、発展の可能性を感じる」の項目が他年代と比べて「そう思う」回答者が最も多くなります。
- ・一方、50～60 歳代では「⑦農業経営は魅力的であり、発展の可能性を感じる」の項目が他年代と比べて「そう思わない」回答者が比較的多くなります。

栗東市の農業のイメージ

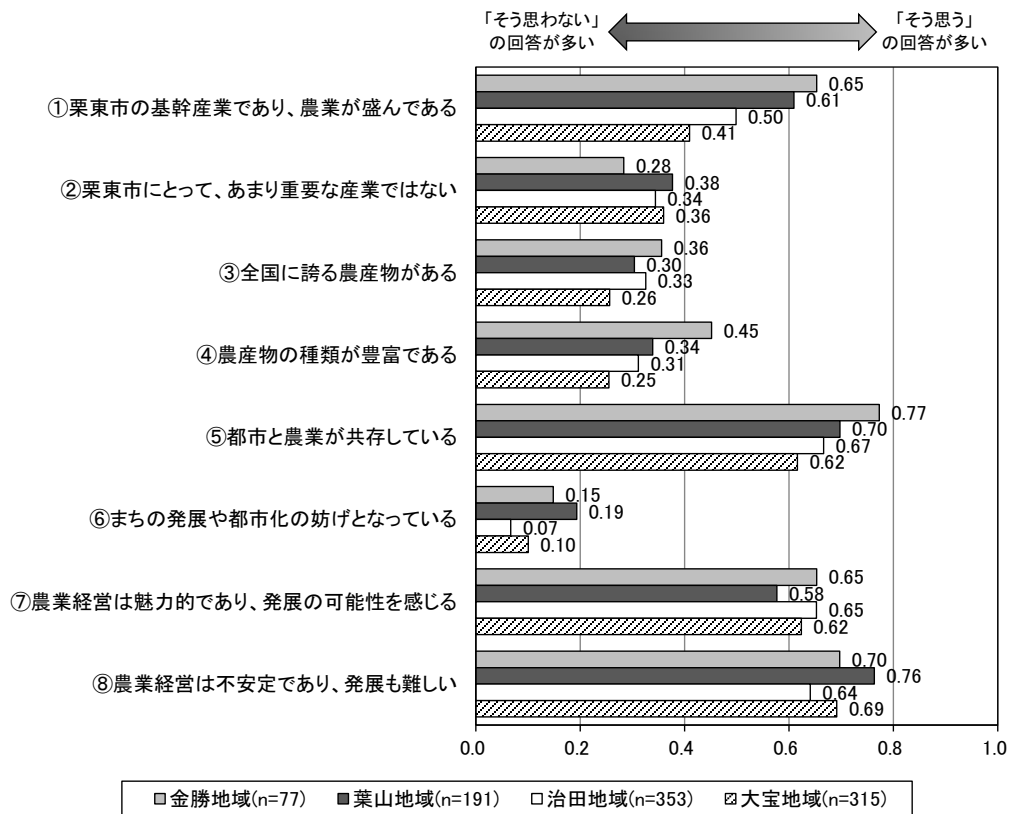
項目	特にそう思う	そう思う	思わない	無回答・無効	回答者総数	評価点※
①栗東市の基幹産業であり、農業が盛んである	34	401	499	33	967	0.50
②栗東市にとって、あまり重要な産業ではない	22	285	624	36	967	0.35
③全国に誇る農産物がある	19	240	669	39	967	0.30
④農産物の種類が豊富である	10	268	649	40	967	0.31
⑤都市と農業が共存している	34	548	351	34	967	0.66
⑥まちの発展や都市化の妨げとなっている	9	83	843	32	967	0.11
⑦農業経営は魅力的であり、発展の可能性を感じる	53	477	399	38	967	0.63
⑧農業経営は不安定であり、発展も難しい	67	503	361	36	967	0.68

※特にそう思う=2 点、そう思う=1 点、そう思わない=0 点とし、それぞれの回答者数に点数を乗じたものを合算し、回答者一人あたりに割り戻した値 (無回答、無効を除く)。

栗東市の農業のイメージ (評価点)

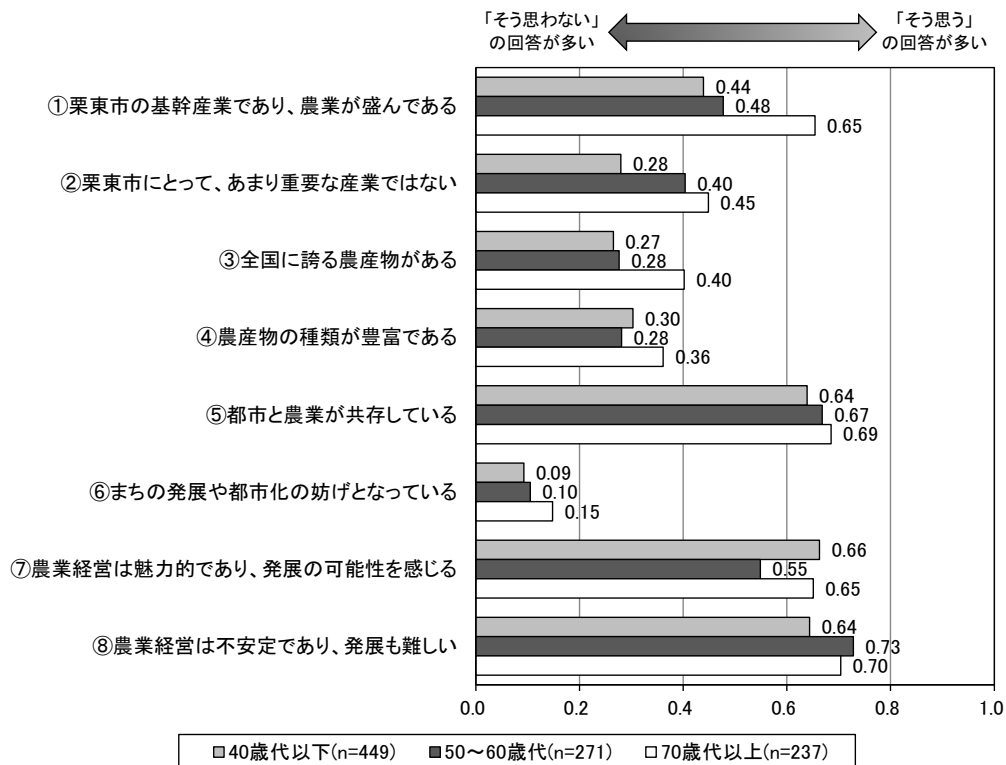


地域区分別 栗東市の農業のイメージ（評価点）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 栗東市の農業のイメージ（評価点）



※無回答、無効を除く

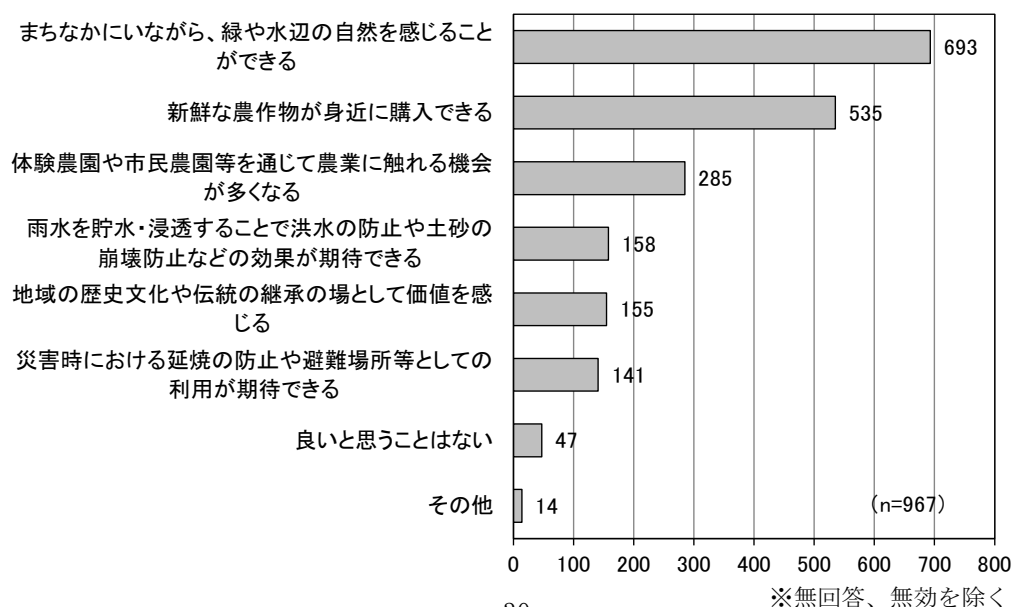
2) まちなか（市街地及び周辺）の農業について（問9）

① まちなかに農地があることで良いと感じること（複数回答3つまで）

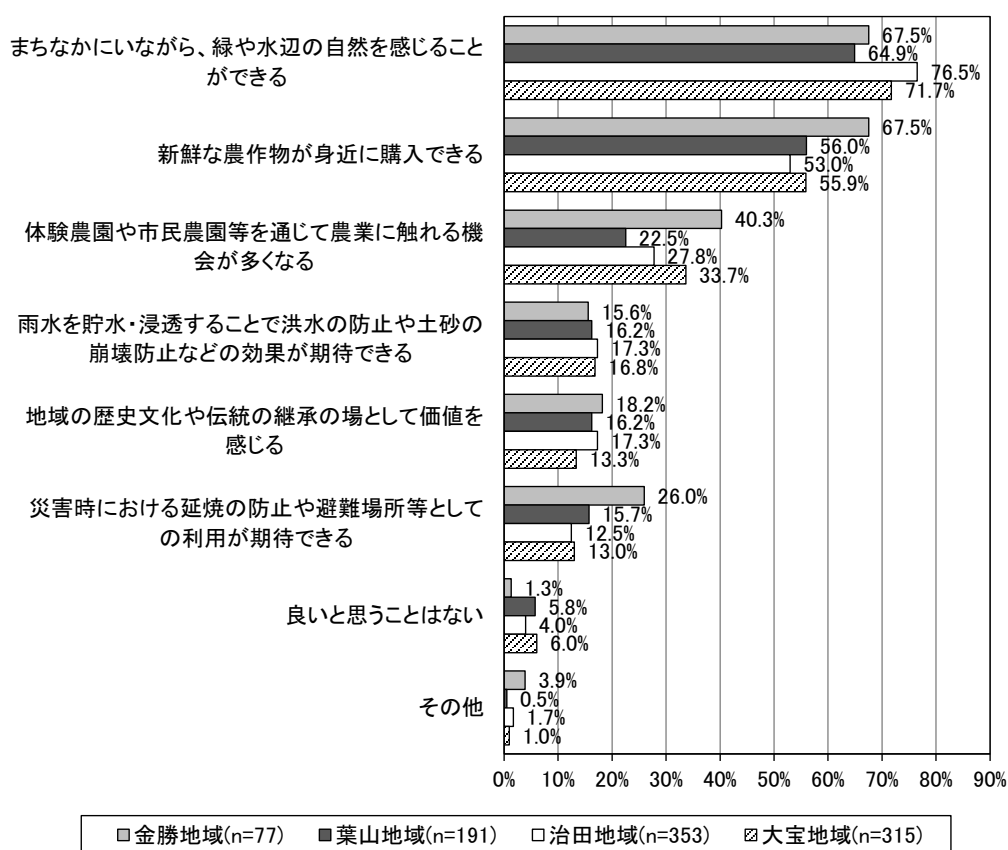
- ・まちなかに農地があることで良いと感じることとして、「まちなかにいながら、緑や水辺の自然を感じることができる」が693人と最も多く、次いで「新鮮な農作物が身近に購入できる」535人、「体験農園や市民農園等を通じて農業に触れる機会が多くなる」285人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域では「新鮮な農作物が身近に購入できる」や「災害時における延焼の防止や避難場所等としての利用が期待できる」などが他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「新鮮な農作物が身近に購入できる」や「体験農園や市民農園等を通じて農業に触れる機会が多くなる」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・高齢の年代ほど「地域の歴史文化や伝統の継承の場としての価値を感じる」「災害時における延焼の防止や避難場所等としての利用が期待できる」とする回答が多くなる傾向がみられます。

まちなかに農地があることで良いと感じること（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
まちなかにいながら、緑や水辺の自然を感じることができる	693	52	124	270	226	326	199	160
新鮮な農作物が身近に購入できる	535	52	107	187	176	259	147	121
体験農園や市民農園等を通じて農業に触れる機会が多くなる	285	31	43	98	106	154	73	52
雨水を貯水・浸透することで洪水の防止や土砂の崩壊防止などの効果が期待できる	158	12	31	61	53	47	64	47
地域の歴史文化や伝統の継承の場としての価値を感じる	155	14	31	61	42	59	45	50
災害時における延焼の防止や避難場所等としての利用が期待できる	141	20	30	44	41	42	48	49
良いと思うことはない	47	1	11	14	19	22	16	9
その他	14	3	1	6	3	4	4	5
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

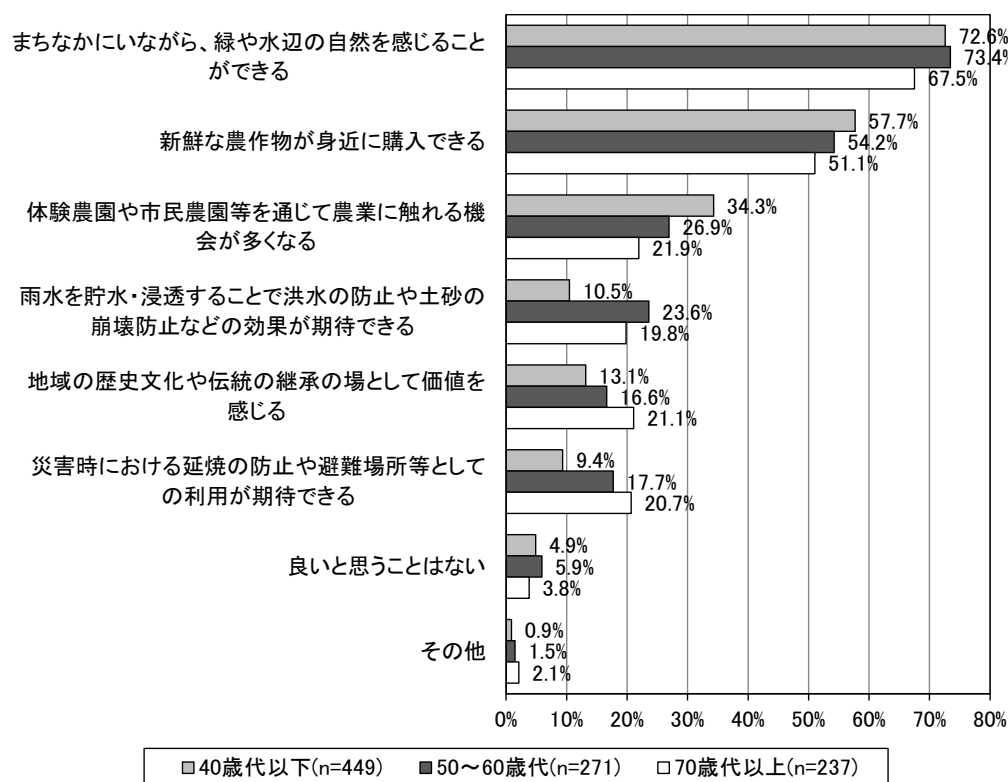


地域区分別 まちなかに農地があることで良いと感じること（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 まちなかに農地があることで良いと感じること（回答者総数に占める割合）



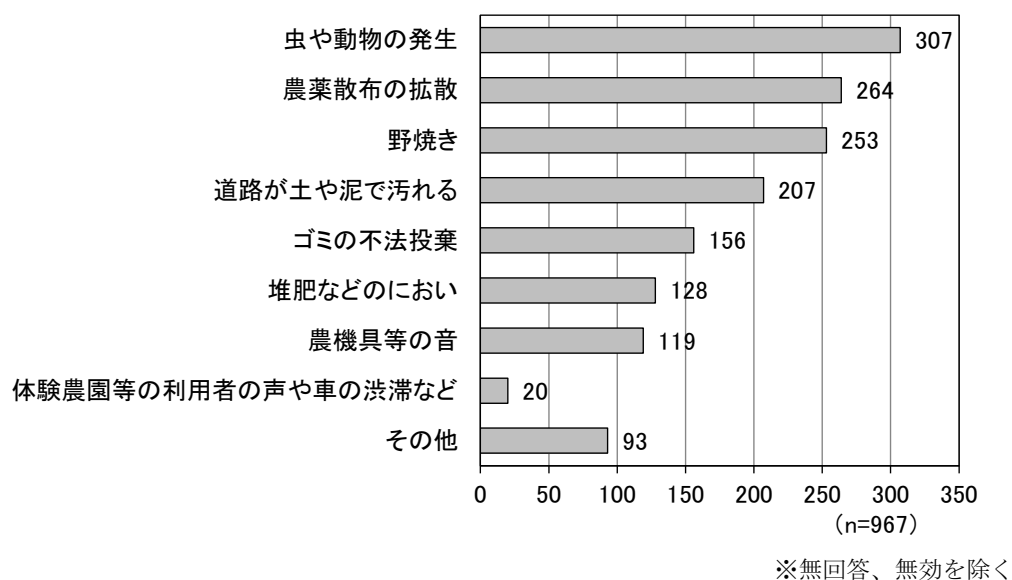
※無回答、無効を除く

② まちなかに農地があることで気になること（複数回答3つまで）

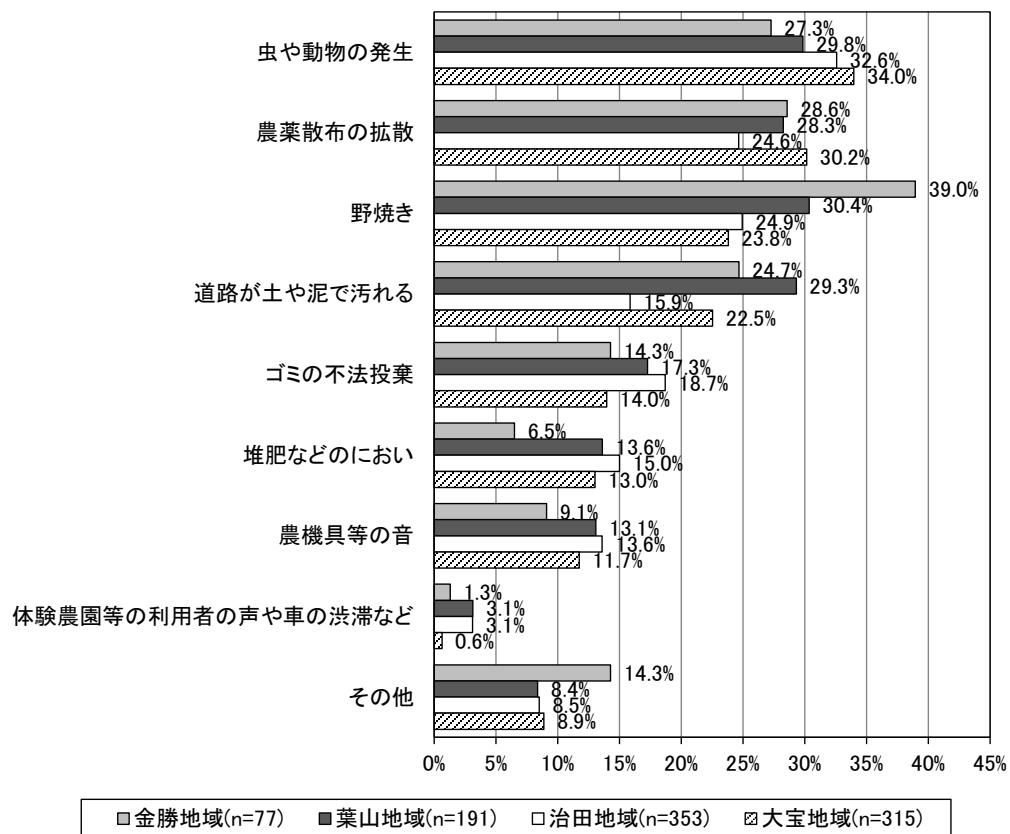
- ・まちなかに農地があることで気になることとして、「虫や動物の発生」が最も多く、次いで「農薬散布の拡散」264人、「野焼き」253人、「道路が土や泥で汚れる」207人となります。
- ・その他として、「車も排ガスなどの農作物への影響が心配」や「農作業車などの駐車」などのほか、「あまり気にならない」との意見も多くみられます。
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「野焼き」が、葉山地域では「道路が土や泥で汚れる」とする回答者がそれぞれ他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「虫や動物の発生」や「野焼き」を挙げる回答が多くなる傾向がみられます。
- ・50～60歳代では、「農薬散布の拡散」や「農機具等の音」を挙げる回答が他年代と比べて比較的多くなります。

まちなかに農地があることで気になること（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40歳代以下	50～60歳代	70歳代以上
虫や動物の発生	307	21	57	115	107	182	82	40
農薬散布の拡散	264	22	54	87	95	116	86	59
野焼き	253	30	58	88	75	147	64	42
道路が土や泥で汚れる	207	19	56	56	71	71	72	61
ゴミの不法投棄	156	11	33	66	44	57	52	47
堆肥などのにおい	128	5	26	53	41	72	29	27
農機具等の音	119	7	25	48	37	45	44	29
体験農園等の利用者の声や車の渋滞など	20	1	6	11	2	9	5	6
その他	93	11	16	30	28	31	28	30
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

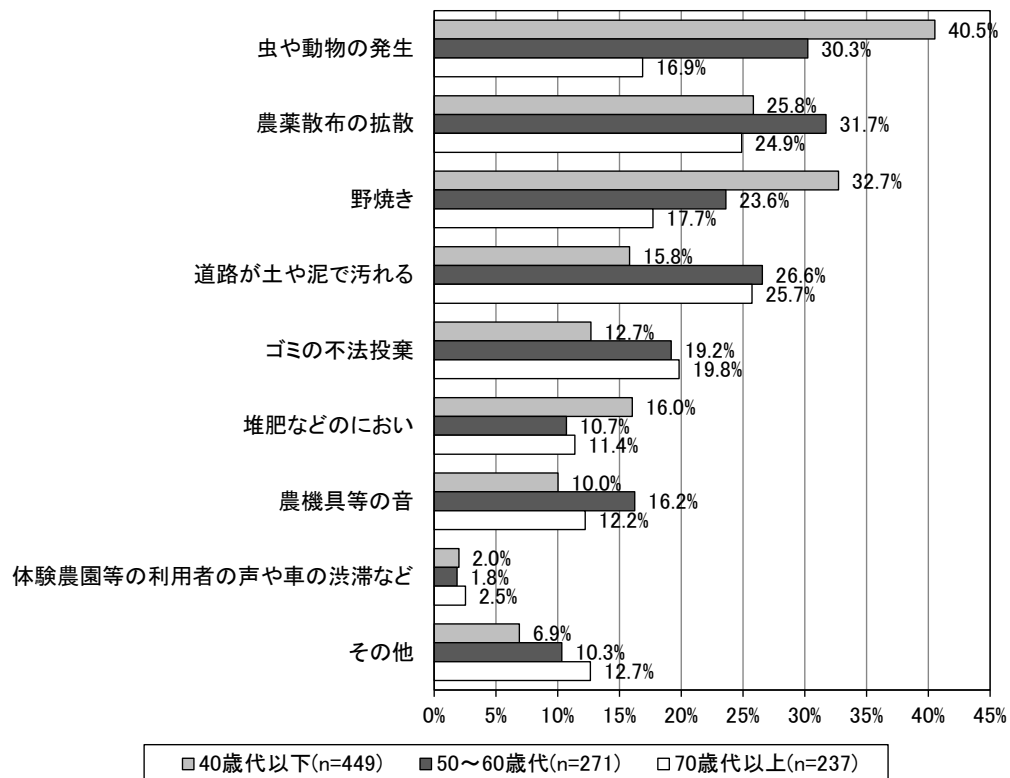


地域区分別 まちなかに農地があることで気になること（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 まちなかに農地があることで気になること（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

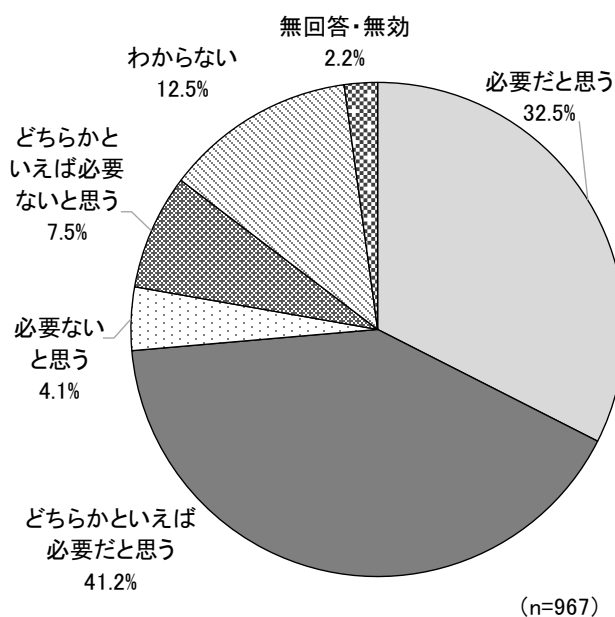
③ まちなかでの農業や農地の必要性

- ・ まちなかでの農業や農地の必要性について、「どちらかといえば必要だと思う」が 398 人（41.2%）と最も多く、次いで「必要だと思う」314 人（32.5%）と合わせて 7 割強の回答者が必要性を認識しています。
- ・ 一方で、「どちらかといえば必要ないと思う」73 人（7.5%）及び「必要ないと思う」40 人（4.1%）を合わせた約 1 割の回答者が必要ではないと考えています。
- ・ 地域区分（居住地）別にみると、特に金勝地域で「必要だと思う」とする回答が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・ 年齢区分別にみると、40 歳代以下では、「必要だと思う」及び「どちらかといえば必要だと思う」とする回答者が 8 割近くに上ります。
- ・ 一方、50～60 歳代では、「必要ないと思う」及び「どちらかといえば必要ないと思う」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

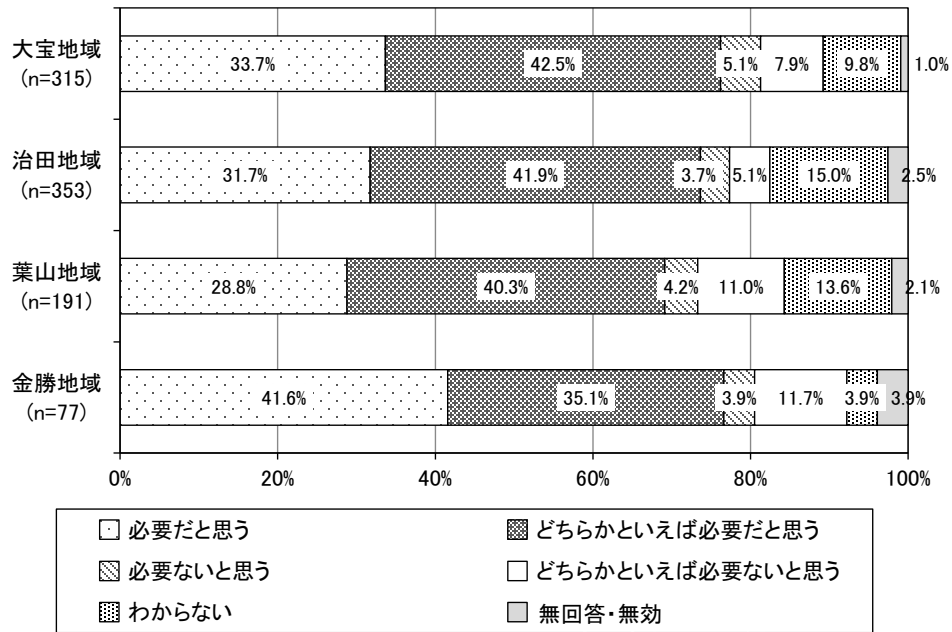
まちなかでの農業や農地の必要性

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40 歳代以下	50～60 歳代	70 歳代以上
必要だと思う	314	32	55	112	106	149	86	75
どちらかといえば必要だと思う	398	27	77	148	134	195	112	86
必要ないと思う	40	3	8	13	16	9	17	14
どちらかといえば必要ないと思う	73	9	21	18	25	31	27	15
わからない	121	3	26	53	31	61	27	32
無回答・無効	21	3	4	9	3	4	2	15
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

まちなかでの農業や農地の必要性（割合）

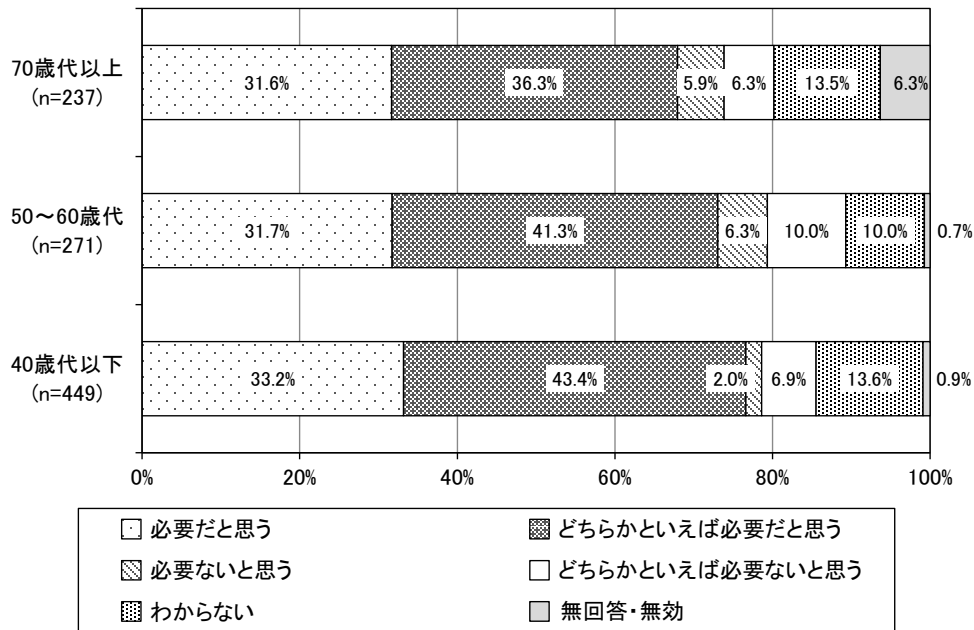


地域区分別 まちなかでの農業や農地の必要性（割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 まちなかでの農業や農地の必要性（割合）



※無回答、無効を除く

3) 中山間地域の農業について（問 10）

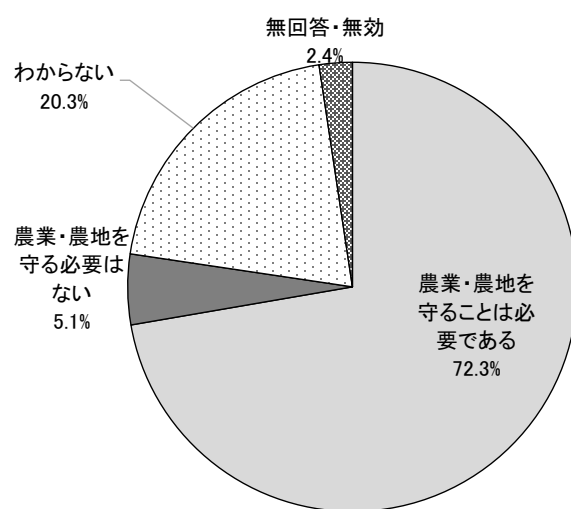
① 中山間地域の農業・農地を守ることの必要性

- ・中山間地域の農業・農地を守ることの必要性について「農業・農地を守ることは必要である」が 699 人（72.3%）と最も多く、回答者の約 7 割が、中山間地域の農業・農地の保全を支持しています。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示しています。
- ・年齢区分別にみると、どの年代も概ね同様の傾向を示しています。

中山間地域の農業・農地を守ることの必要性

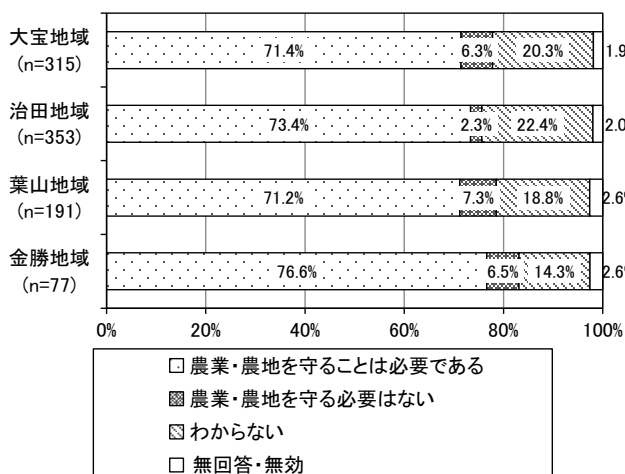
項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40 歳代以下	50～60 歳代	70 歳代以上
農業・農地を守ることは必要である	699	59	136	259	225	319	207	165
農業・農地を守る必要はない	49	5	14	8	20	21	20	8
わからない	196	11	36	79	64	106	42	46
無回答・無効	23	2	5	7	6	3	2	18
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237

中山間地域の農業・農地を守ることの必要性（割合）

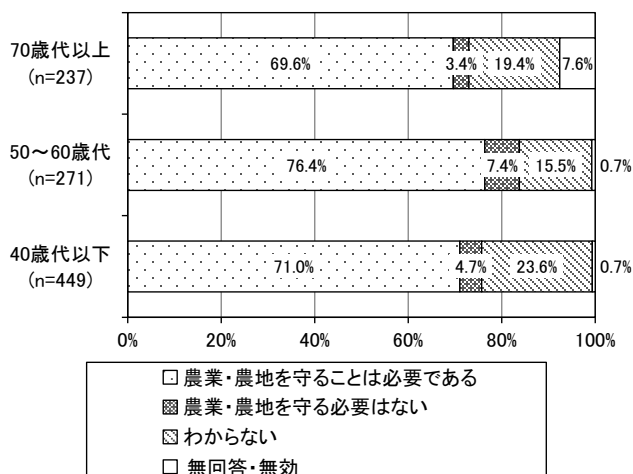


(n=967)

地域区分別（割合）



年齢区分別（割合）

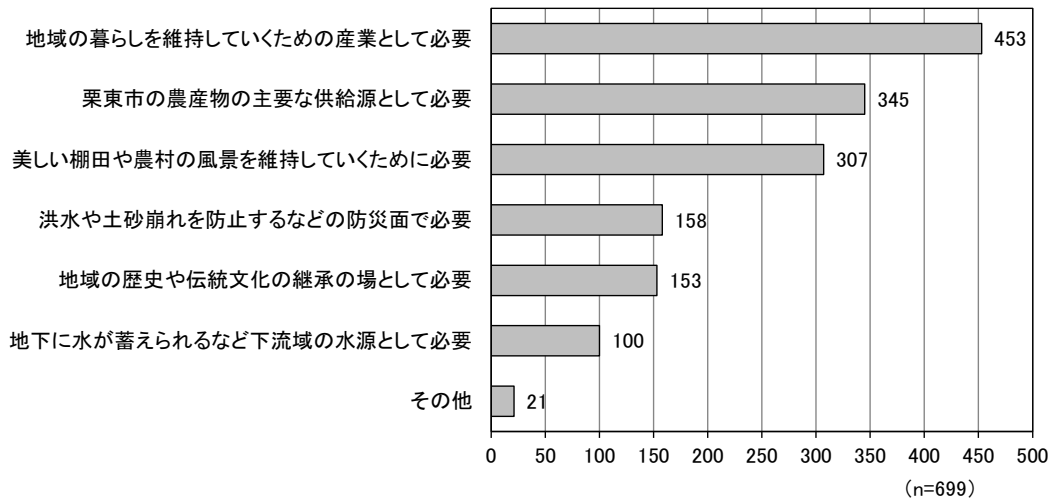


※無回答、無効を除く

② 保全が必要である理由（複数回答3つまで）

- ・前問（問10①）で「中山間地域の農業・農地の保全が必要」とする回答者（n=699）について、保全が必要である理由について尋ねました。
- ・必要である理由として「地域の暮らしを維持していくための産業として必要」が453人と最も多く、次いで「栗東市の農産物の主要な供給源として必要」345人、美しい棚田や農村の風景を維持していくために必要」307人となります。

中山間地域の農業・農地を守ることが必要である理由（複数回答）

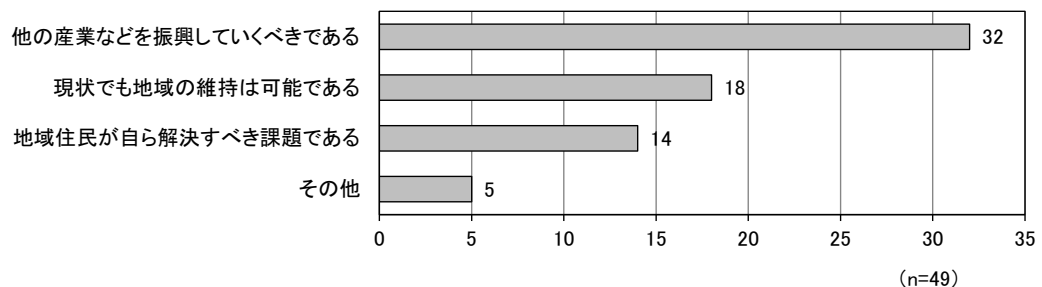


※無回答、無効を除く

③ 保全が必要でない理由（複数回答3つまで）

- ・前問（問10①）で「中山間地域の農業・農地の保全は不要」とする回答者（n=49）について、保全が必要でない理由について尋ねました。
- ・必要でない理由として「他の産業などを振興していくべきである」が32人と最も多く、次いで「現状でも地域の維持は可能である」18人、「地域住民が自ら解決すべき課題である」14人となります。

中山間地域の農業・農地を守ることが必要でない理由（複数回答）



※無回答、無効を除く

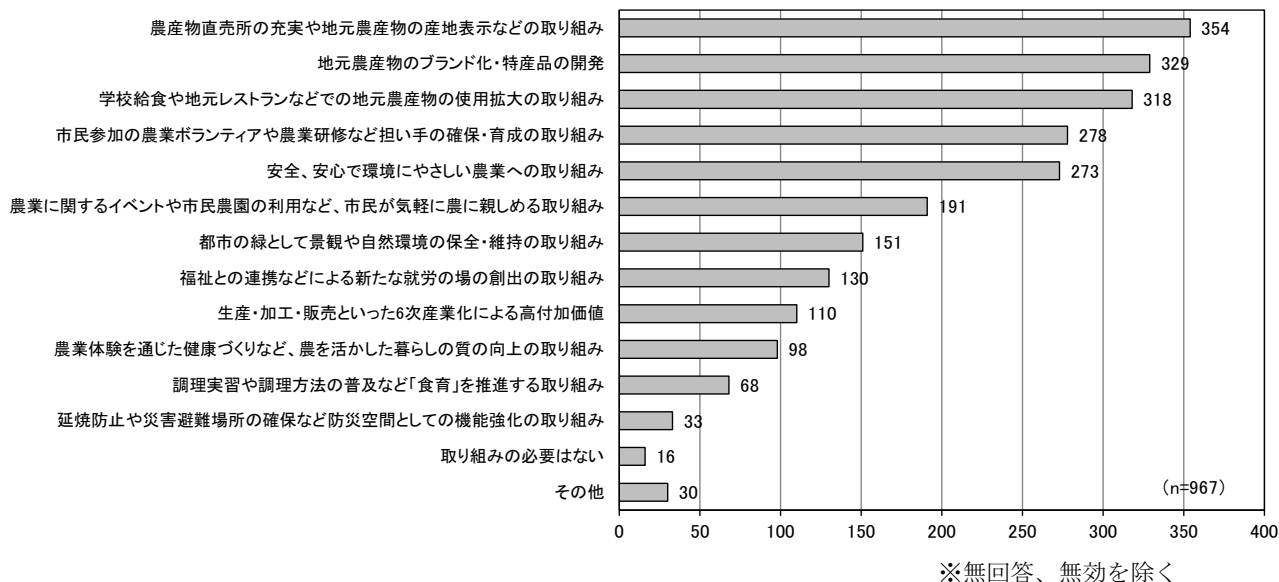
(4) 栗東市の農業の振興について

1) 農業振興に向けた取組（問 11 複数回答 3 つまで）

- ・栗東市の農業振興に向けた取組として「農産物直売所の充実や地元農産物の産地表示などの取り組み」が 354 人と最も多く、次いで「地元農産物のブランド化・特産品の開発」329 人、「学校給食や地元レストランなどでの地元農産物の使用拡大の取り組み」318 人、「市民参加の農業ボランティアや農業研修など担い手の確保・育成の取り組み」278 人、「安全、安心で環境にやさしい農業への取り組み」273 人となります。

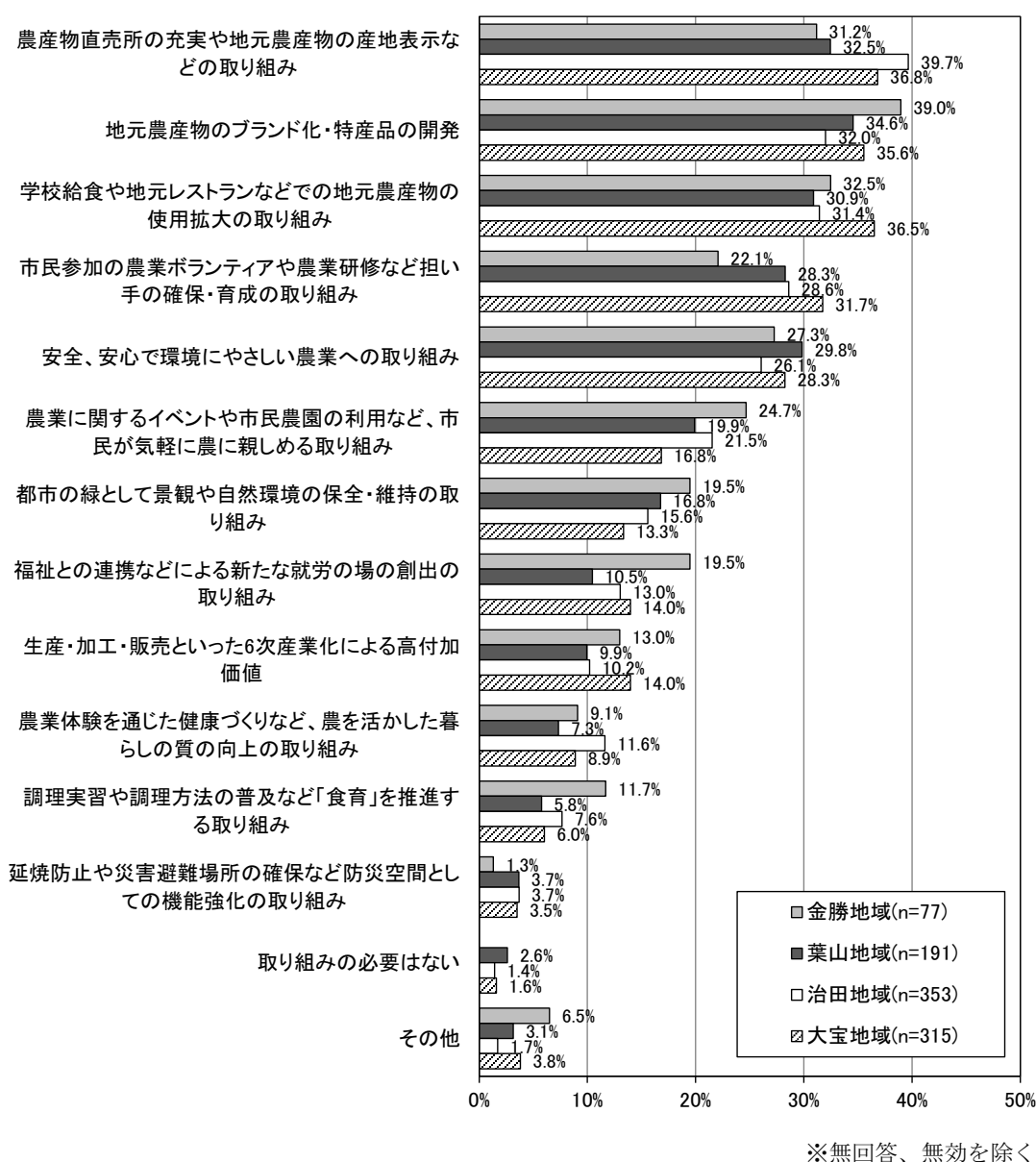
農業振興に向けた取組（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝 地域	葉山 地域	治田 地域	大宝 地域	40 歳代 以下	50～60 歳代	70 歳代 以上
農産物直売所の充実や地元農産物の産地表示などの取り組み	354	24	62	140	116	164	104	83
地元農産物のブランド化・特産品の開発	329	30	66	113	112	156	108	65
学校給食や地元レストランなどでの地元農産物の使用拡大の取り組み	318	25	59	111	115	152	80	82
市民参加の農業ボランティアや農業研修など担い手の確保・育成の取り組み	278	17	54	101	100	122	84	67
安全、安心で環境にやさしい農業への取り組み	273	21	57	92	89	107	75	86
農業に関するイベントや市民農園の利用など、市民が気軽に農に親しめる取り組み	191	19	38	76	53	99	53	38
都市の緑として景観や自然環境の保全・維持の取り組み	151	15	32	55	42	63	51	34
福祉との連携などによる新たな就労場の創出の取り組み	130	15	20	46	44	71	34	23
生産・加工・販売といった 6 次産業化による高付加価値	110	10	19	36	44	54	39	17
農業体験を通じた健康づくりなど、農を活かした暮らしの質の向上の取り組み	98	7	14	41	28	54	15	26
調理実習や調理方法の普及など「食育」を推進する取り組み	68	9	11	27	19	37	17	13
延焼防止や災害避難場所の確保など防災空間としての機能強化の取り組み	33	1	7	13	11	11	10	12
取り組みの必要はない	16	0	5	5	5	7	6	3
その他	30	5	6	6	12	17	9	3
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237



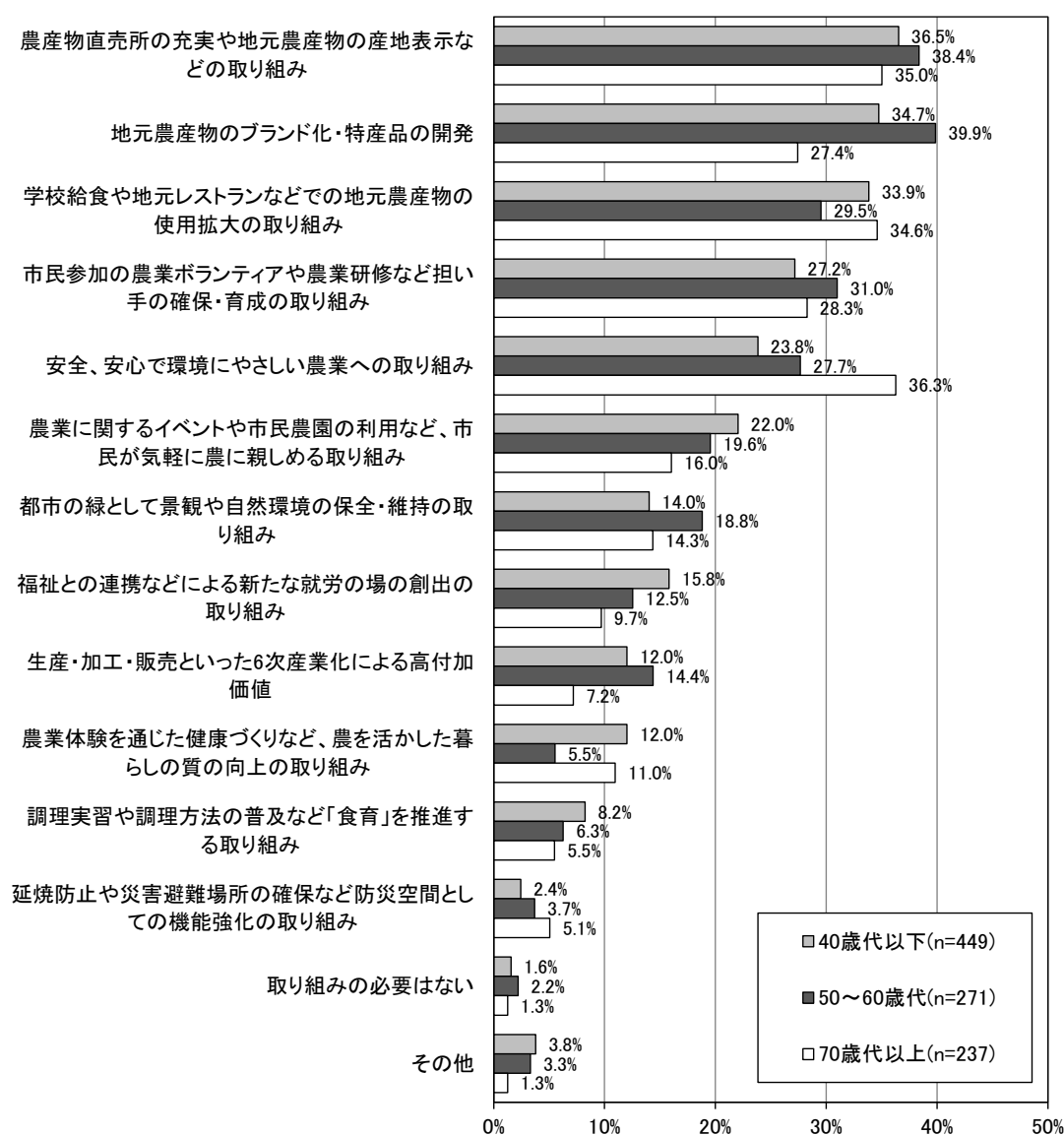
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「地元農産物のブランド化・特産品の開発」「福祉との連携などによる新たな就労の場の創出の取り組み」「調理実習や調理方法の普及など「食育」を推進する取り組み」などが他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域は、市全体と概ね同様の傾向を示しています。
- ・治田地域は、「農産物直売所の充実や地元農産物の産地表示などの取り組み」や「農業体験を通じた健康づくりなど、農を活かした暮らしの質の向上の取り組み」などが他地域と比べて比較的多くなります。
- ・大宝地域は、「学校給食や地元レストランなどでの地元農産物の使用拡大の取り組み」や「市民参加の農業ボランティアや農業研修など担い手の確保・育成の取り組み」などが他地域と比べて比較的多くなります。

地域区分別 農業振興に向けた取組（回答者総数に占める割合）



- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「農業に関するイベントや市民農園の利用など、市民が気軽に農に親しめる取り組み」や「福祉との連携などによる新たな就労の場の創出の取り組み」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・高齢の年代ほど、「安全、安心で環境にやさしい農業への取り組み」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・50～60歳代では、「地元農産物のブランド化・特産品の開発」や「都市の緑として景観や自然環境の保全・維持の取り組み」などが他年代と比べて比較的多くなります。

年齢区分別 農業振興に向けた取組（回答者総数に占める割合）



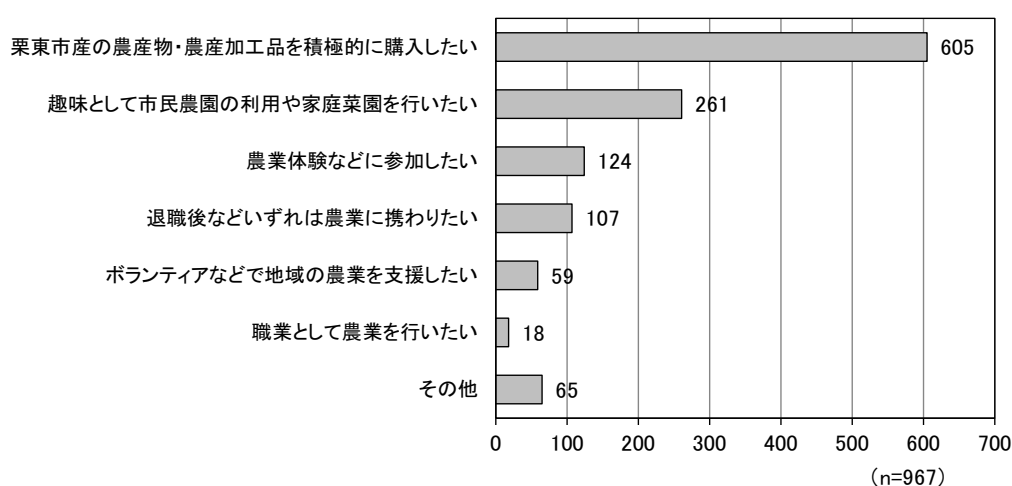
※無回答、無効を除く

2) 栗東市の農業の活性化のため、あなたが取り組みたいと思うこと（問 12 複数回答全て）

- ・栗東市の農業活性化に向けて取り組みたいこととして、「栗東市産の農産物・農産加工品を積極的に購入したい」が 605 人と最も多く、次いで「趣味として市民農園の利用や家庭菜園を行いたい」261 人、「農業体験などに参加したい」124 人、「退職後などいずれは農業に携わりたい」107 人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域では「退職後などいずれは農業に携わりたい」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、どの年代も概ね同様の傾向を示していますが、40 歳代以下では「農業体験などに参加したい」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

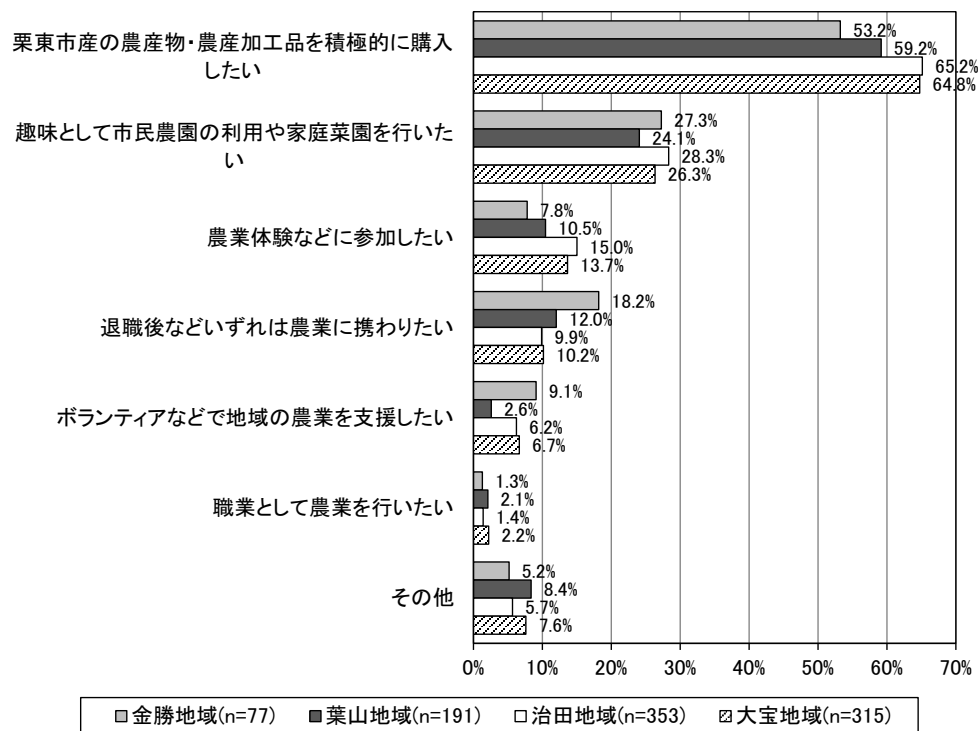
あなたが取り組みたいと思うこと（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40 歳代以下	50～60 歳代	70 歳代以上
栗東市産の農産物・農産加工品を積極的に購入したい	605	41	113	230	204	289	160	149
趣味として市民農園の利用や家庭菜園を行いたい	261	21	46	100	83	128	79	50
農業体験などに参加したい	124	6	20	53	43	77	26	18
退職後などいずれは農業に携わりたい	107	14	23	35	32	63	36	6
ボランティアなどで地域の農業を支援したい	59	7	5	22	21	23	17	14
職業として農業を行いたい	18	1	4	5	7	11	3	4
その他	65	4	16	20	24	17	29	18
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237



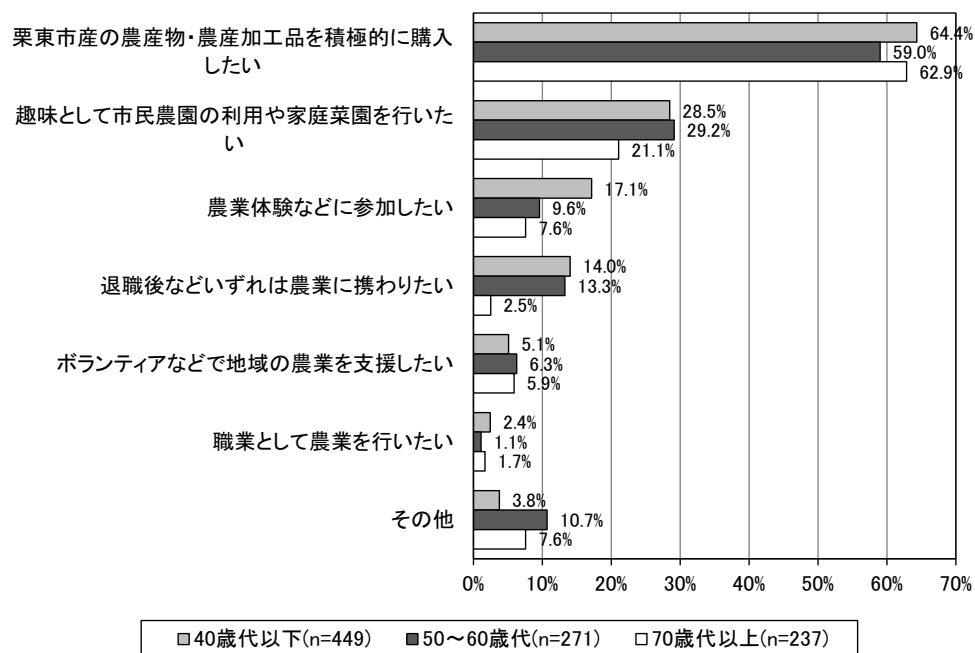
※無回答、無効を除く

地域区分別 あなたが取り組みたいと思うこと（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 あなたが取り組みたいと思うこと（回答者総数に占める割合）



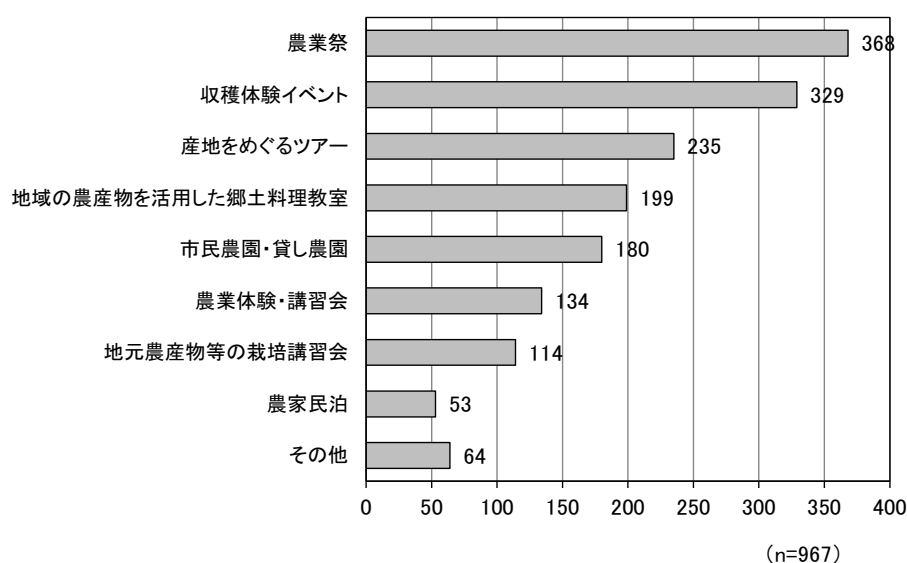
※無回答、無効を除く

3) 参加したいと思う交流、イベント（問 13 複数回答全て）

- ・参加したいと思う市民と農業の交流やイベントについて「農業祭」が 368 人と最も多く、次いで「収穫体験イベント」329 人、「産地をめぐるツアー」235 人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域では「地元農産物等の栽培講習会」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、40 歳代以下では「収穫体験イベント」とする回答者が他年代と比べて特に多くなるほか、若い年代ほど「市民農園・貸し農園」や「農業体験・講習会」「農家民泊」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・高齢の年代ほど「産地をめぐるツアー」や「地元農産物等の栽培講習会」とする回答が多くなる傾向がみられます。

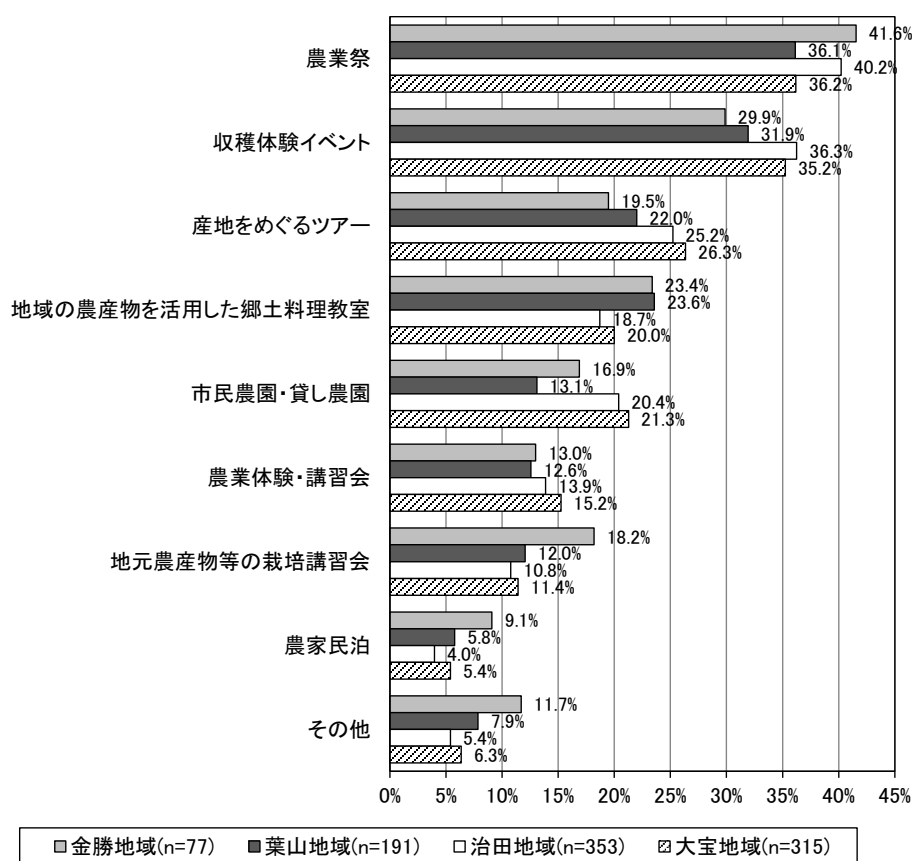
参加したいと思う交流、イベント（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分		
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	40 歳代以下	50～60 歳代	70 歳代以上
農業祭	368	32	69	142	114	181	109	75
収穫体験イベント	329	23	61	128	111	209	71	46
産地をめぐるツアー	235	15	42	89	83	91	70	70
地域の農産物を活用した郷土料理教室	199	18	45	66	63	99	52	45
市民農園・貸し農園	180	13	25	72	67	96	48	34
農業体験・講習会	134	10	24	49	48	66	36	28
地元農産物等の栽培講習会	114	14	23	38	36	47	31	34
農家民泊	53	7	11	14	17	35	11	6
その他	64	9	15	19	20	19	27	17
回答者総数	967	77	191	353	315	449	271	237



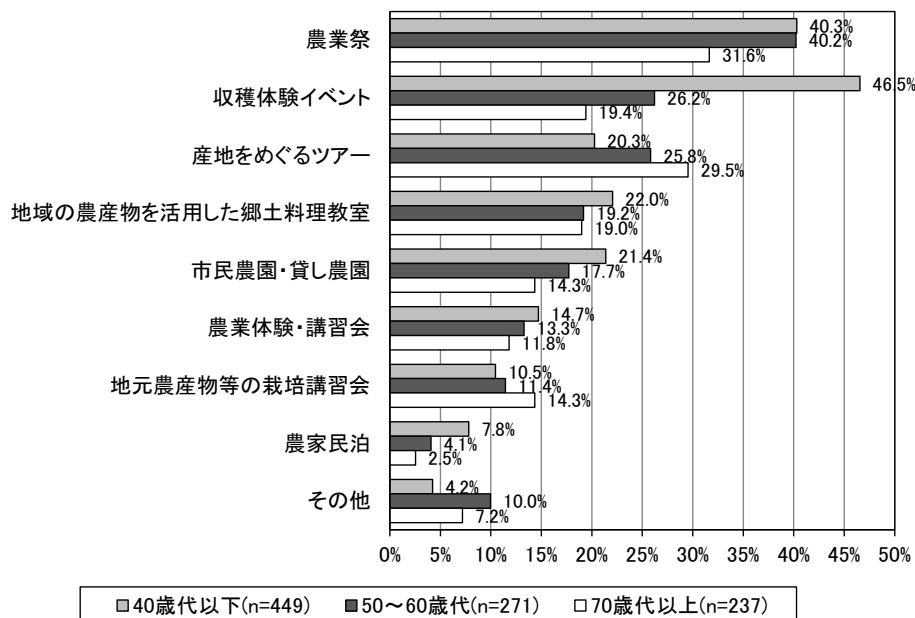
※無回答、無効を除く

地域区分別 参加したいと思う交流、イベント（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

年齢区分別 参加したいと思う交流、イベント（回答者総数に占める割合）

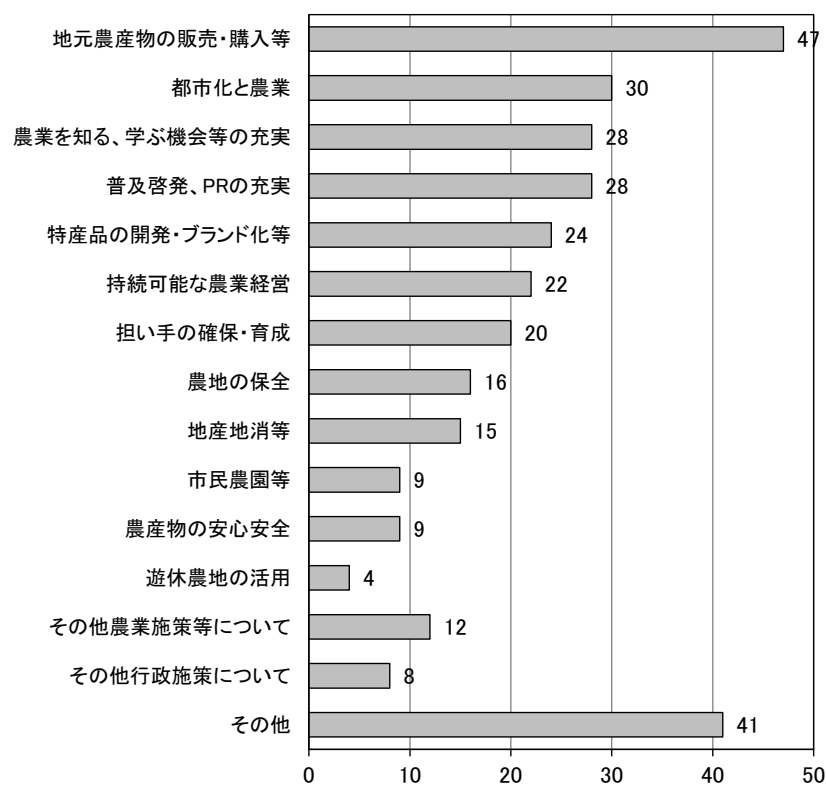


※無回答、無効を除く

（５）栗東市の農業に関する自由意見

- ・栗東市の農業に関する自由意見について、225 件の回答が得られました。
- ・意見の内容に基づく分類をみると、その他に分類される意見を除いて、身近なスーパーや道の駅での地元農産物の販売についての要望など「地元農産物の販売・購入等」に関する意見が 47 件と最も多く挙げられました。
- ・次いで、都市の緑としての農地の必要性や野焼きに関する苦情など「都市化と農業」に関する意見（30 件）、子どもや若者が農業に触れるイベントの要望など「農業を知る、学ぶ機会等の充実」に関する意見（28 件）、地元農産物についてもっとアピールするべきなど「普及啓発、PR の充実」に関する意見（28 件）などが挙げられました。

栗東市の農業に関する自由意見（内容に基づく分類）



※複数の分類に該当する意見はそれぞれに計上している

2-2. 農業従事者アンケート調査結果

(1) 回答者の属性

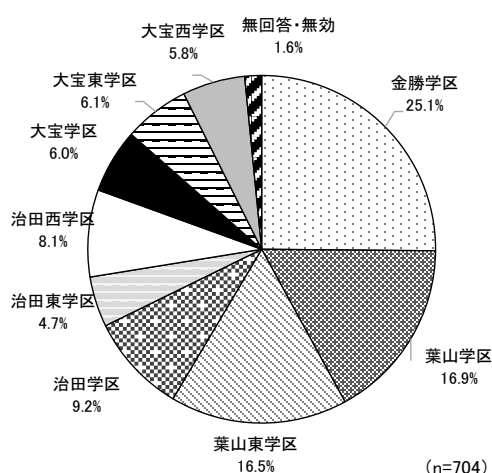
1) 居住地（問1①）

- ・回答者のお住まいの学区は、「金勝学区」が177人（25.1%）と最も多く、次いで「葉山学区」119人（16.9%）、「葉山東学区」116人（16.5%）となります。
- ・地域区分別の居住地は、「葉山地域」が235人（33.4%）と最も多く、次いで「金勝地域」177人（25.1%）、「治田地域」155人（22.0%）、「大宝地域」126人（17.9%）となります。

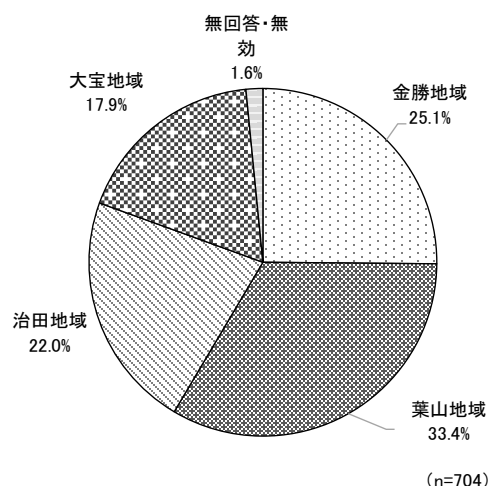
居住地

学区	回答数(人)	割合(%)	地域区分	回答数(人)	割合(%)
金勝学区	177	25.1%	金勝地域	177	25.1%
葉山学区	119	16.9%	葉山地域	235	33.4%
葉山東学区	116	16.5%			
治田学区	65	9.2%	治田地域	155	22.0%
治田東学区	33	4.7%			
治田西学区	57	8.1%			
大宝学区	42	6.0%	大宝地域	126	17.9%
大宝東学区	43	6.1%			
大宝西学区	41	5.8%			
無回答・無効	11	1.6%	分からない	11	1.6%
回答者総数	704	100.0%	無回答	704	100.0%

居住地（学区）（割合）



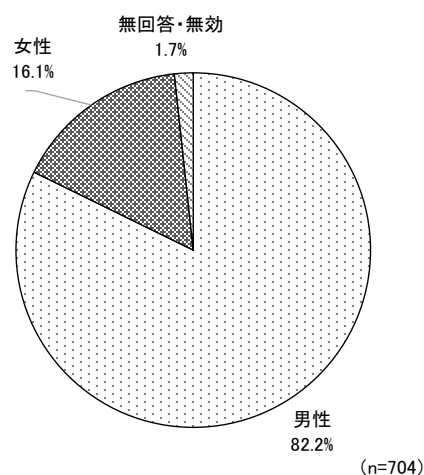
居住地（地域区分）（割合）



2) 性別（問1②）

- ・回答者の性別は、「男性」579人（82.2%）、「女性」113人（16.1%）となります。

性別（割合）



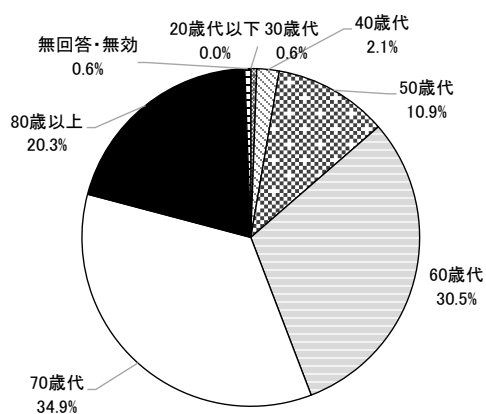
3) 年齢 (問1③)

- ・回答者の年齢は、「70歳代」が246人(34.9%)と最も多く、次いで「60歳代」215人(30.5%)、「80歳以上」143人(20.3%)と、比較的高齢の回答者が多くなります。
- ・年齢区分別にみると、「50歳代以下」96人(13.6%)、「60歳代」215人(30.5%)、「70歳代以上」389人(55.3%)となります。

年齢

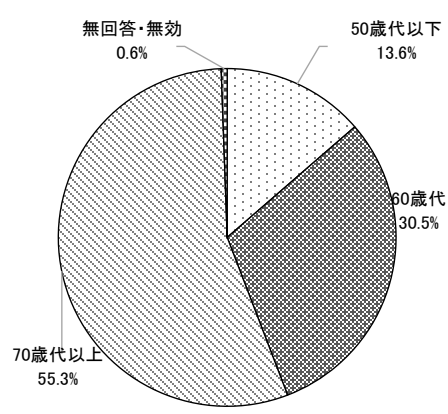
学区	回答数(人)	割合(%)	地域区分	回答数(人)	割合(%)
20歳代	0	0.0%	50歳代以下	96	13.6%
30歳代	4	0.6%			
40歳代	15	2.1%			
50歳代	77	10.9%			
60歳代	215	30.5%	60歳代	215	30.5%
70歳代	246	34.9%	70歳代以上	389	55.3%
80歳以上	143	20.3%			
無回答・無効	4	0.6%	無回答・無効	4	0.6%
回答者総数	704	100.0%	回答者総数	704	100.0%

年齢 (割合)



(n=704)

年齢区分 (割合)



(n=704)

(2) 農業経営の状況について

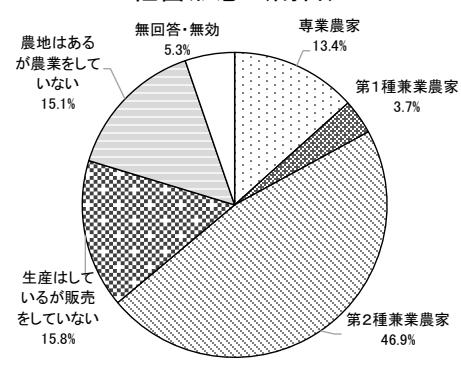
1) 経営形態 (問2)

- ・経営形態は、「第2種兼業農家」が330人(46.9%)と最も多く、「第1種兼業農家」と合わせた、回答者の約5割が兼業農家となります。
- ・「専業農家」94人(13.4%)に対して、「生産はしているが販売をしていない」(＝自給的農家)111人(16.6%)、「農地はあるが農業をしていない」(土地持ち非農家)106人(15.9%)と、それぞれ回答数を上回ります。

経営形態

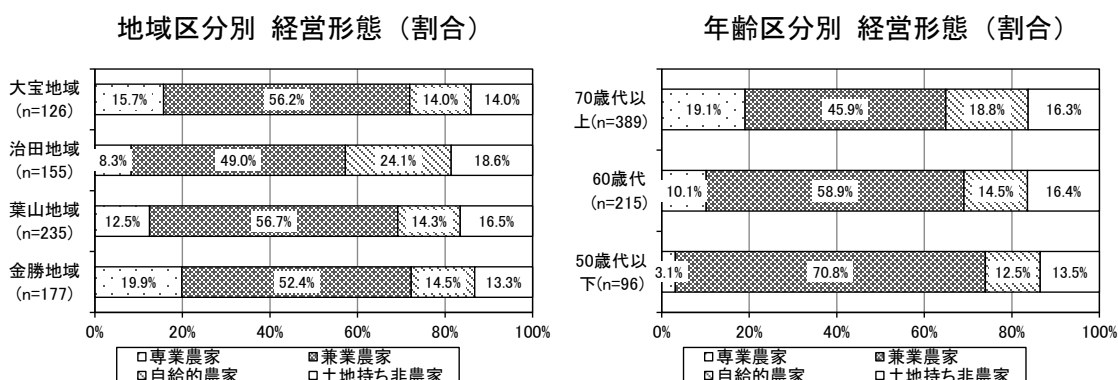
経営形態	回答数(人)	割合(%)	経営形態(再区分)	回答数(人)	割合(%)
専業農家	94	13.4%	専業農家	94	14.1%
第1種兼業農家	26	3.7%	兼業農家	356	50.6%
第2種兼業農家	330	46.9%			
生産はしているが販売をしていない	111	15.8%	自給的農家	111	16.6%
農地はあるが農業をしていない	106	15.1%	土地持ち非農家	106	15.9%
無回答・無効	37	5.3%	無回答・無効	37	5.3%
回答者総数	704	100.0%	回答者総数	704	100.0%

経営形態 (割合)



(n=704)

- ・地域区分（居住地）別にみると、治田地域では「専業農家」「兼業農家」が他地域と比べて比較的少なく、「自給的農家」が多くなります。
- ・「専業農家」は金勝地域が比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「兼業農家」の占める割合が多くなる傾向がみられます。
- ・高齢の年代ほど、「専業農家」及び「自給的農家」の占める割合が多くなる傾向がみられます。



2) 農業以外の就業状況（問3）

- ・前問（問2）で「専業農家以外」とする回答者（n=573）について、農業以外の就業状況を尋ねました。

① 勤務地

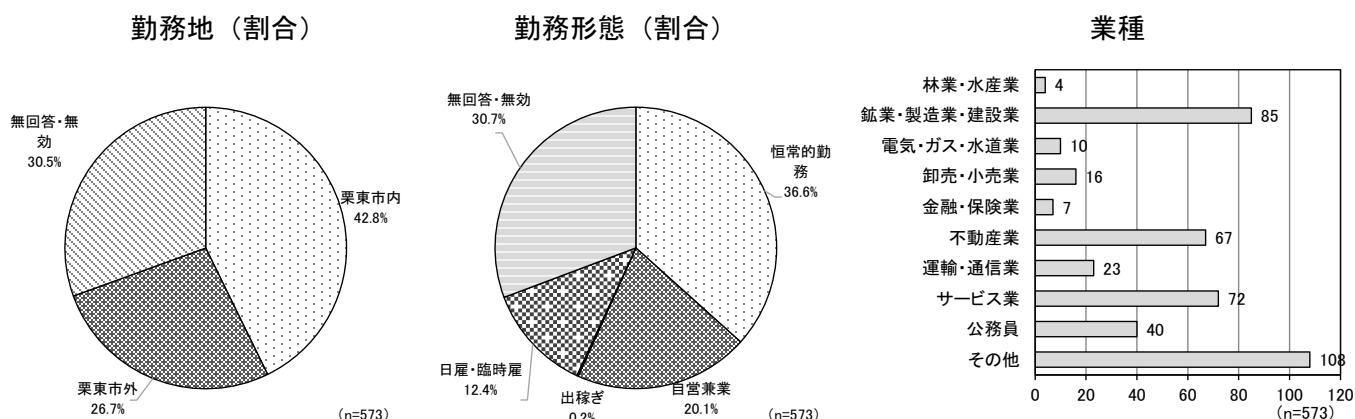
- ・勤務地は「栗東市内」が約4割（42.8%）を占め、「栗東市外」（26.7%）を上回ります。
- ・栗東市外では、主に近隣市町（草津市、守山市、竜王町等）及び京都、大阪方面が挙げられています。

② 勤務形態

- ・勤務形態は、「恒常的勤務」が4割弱（36.6%）を占め、次いで「自営兼業」（20.1%）、「日雇・臨時雇」（12.4%）となります。

③ 業種

- ・業種は、「鉱業・製造業・建設業」が85人と最も多く、次いで「サービス業」72人、「不動産業」67人となります。
- ・「その他」として、「無職（働いていない）」が多く挙げられています。



農業以外の就業状況 整理表

単位：人

形 態 務	業 種	栗東市内			栗東市外			総 計
		男	女	小 計	男	女	小 計	
恒 常 的 勤 務	林業・水産業							
	鉱業・製造業・建設業	17	3	20	33	3	36	56
	電気・ガス・水道業	2		2	5		5	7
	卸売・小売業	1		1	7		7	8
	金融・保険業	2		2	3	2	5	7
	不動産業	3		3				3
	運輸・通信業	5	2	7	8		8	15
	サービス業	19	3	22	15	2	17	39
	公務員	13	2	15	19	2	21	36
	その他	10		10	19	3	22	32
	小 計	72	10	82	109	12	121	203
自 営 兼 業	林業・水産業	1		1				1
	鉱業・製造業・建設業	13		13		1	1	14
	電気・ガス・水道業	1	1	2				2
	卸売・小売業	4		4	1		1	5
	金融・保険業							
	不動産業	41	8	49	3		3	52
	運輸・通信業	1		1	2		2	3
	サービス業	4	3	7	1		1	8
	公務員	1		1				1
	その他	11		11	2		2	13
	小 計	77	12	89	9	1	10	99
出稼ぎ		1		1				1
日 雇 ・ 臨 時 雇	林業・水産業		1	1				1
	鉱業・製造業・建設業	7		7	4	1	5	12
	電気・ガス・水道業				1		1	1
	卸売・小売業	1		1				1
	金融・保険業							
	不動産業	1		1				1
	運輸・通信業		1	1	2		2	3
	サービス業	17	3	20	4	1	5	25
	公務員	2		2	1		1	3
	その他	13	4	17	3		3	20
	小 計	41	9	50	15	2	17	67
総 計		191	31	222	133	15	148	370

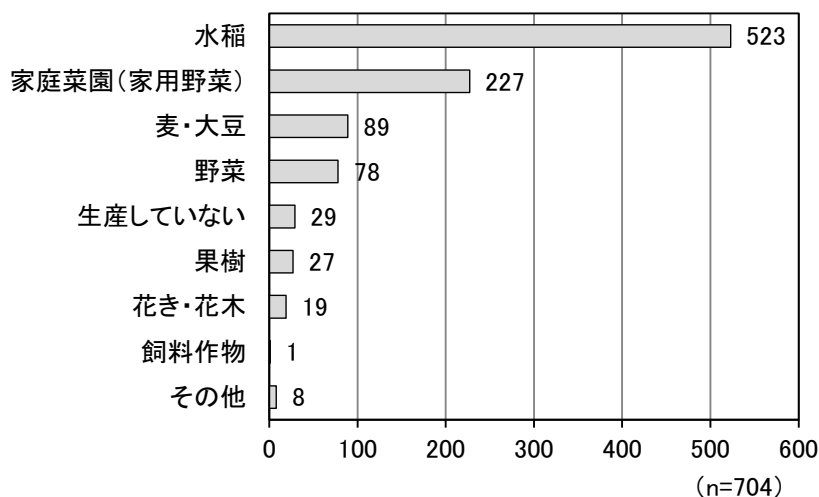
※無回答、無効を除く

3) 主な生産品目（問4 複数回答3つまで）

- ・主な生産品目は、「水稻」が523人と最も多く、次いで「家庭菜園（家用野菜）」227人、「麦・大豆」89人、「野菜」78人となります。
- ・「野菜」として具体的に、玉ねぎ、トマト、ナス、葉物野菜などが挙げられています。
- ・「果樹」として具体的に、いちじく、ぶどう、柿、栗などが挙げられています。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、葉山地域及び大宝地域では、「麦・大豆」を挙げる回答が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、どの年代も概ね同様の傾向を示していますが、70歳代以上では「家庭菜園（家用野菜）」を挙げる回答が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・経営形態区分別にみると、専業農家及び兼業農家は同様の傾向を示しますが、専業農家では「野菜」や「果樹」「花き・花木」を挙げる回答が兼業農家と比べて比較的多くなります。
- ・自給的農家は「家庭菜園（家用野菜）」を、土地持ち非農家は「生産していない」を挙げる回答が他形態と比べて比較的多くなります。

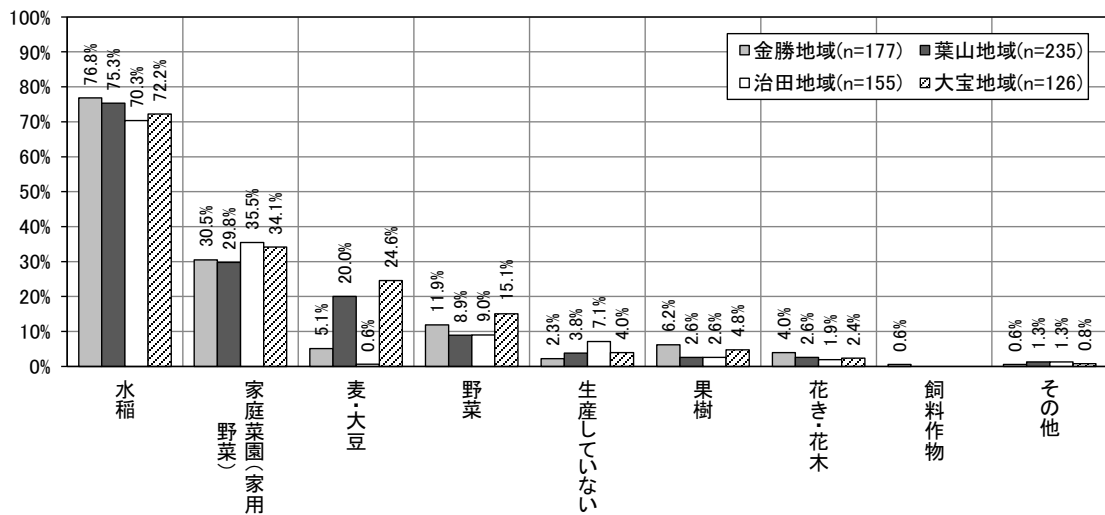
主な生産品目（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50歳代以下	60歳代	70歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
水稻	523	136	177	109	91	76	162	281	81	322	84	15
家庭菜園（家用野菜）	227	54	70	55	43	11	24	52	28	113	44	28
麦・大豆	89	9	47	1	31	13	16	49	19	58	5	3
野菜	78	21	21	14	19	5	6	16	22	44	8	1
生産していない	29	4	9	11	5	2	5	12	1	6	0	22
果樹	27	11	6	4	6	0	1	0	8	11	6	2
花き・花木	19	7	6	3	3	24	56	147	7	6	1	4
飼料作物	1	1	0	0	0	6	10	13	0	1	0	0
その他	8	1	3	2	1	0	3	5	1	3	0	3
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



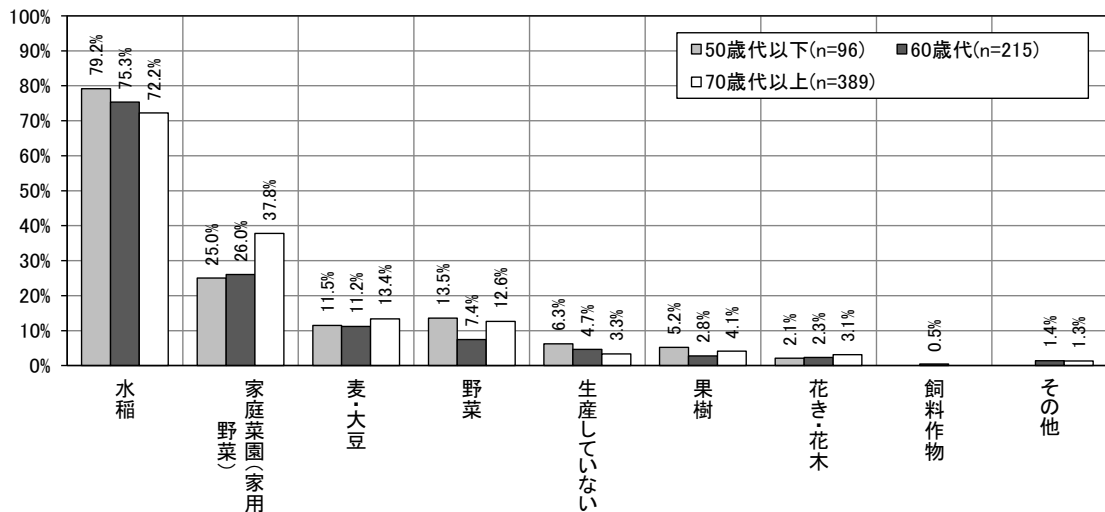
※無回答、無効を除く

地域区分別 主な生産品目（回答者総数に占める割合）



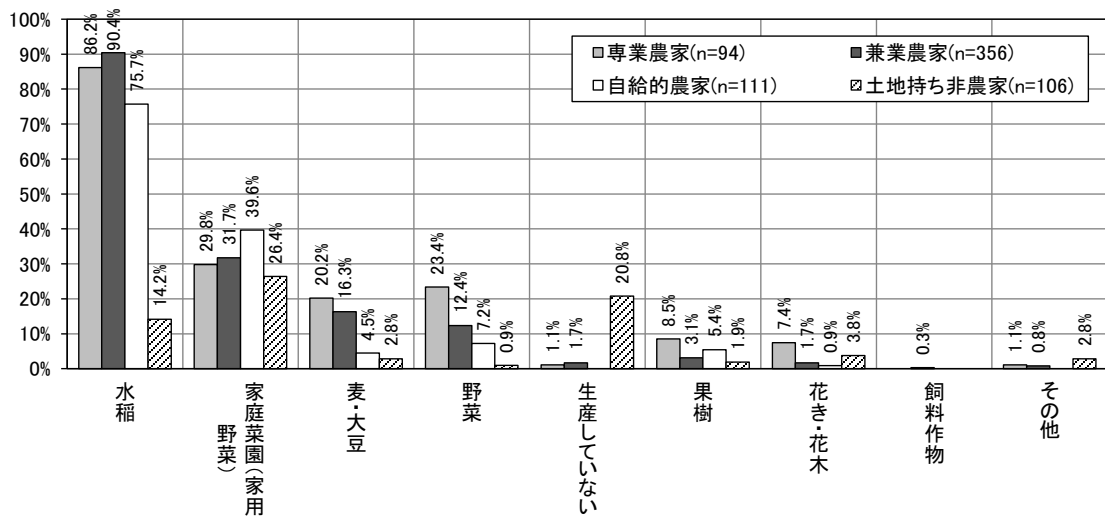
※無回答、無効を除く

年齢区分別 主な生産品目（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別 主な生産品目（回答者総数に占める割合）



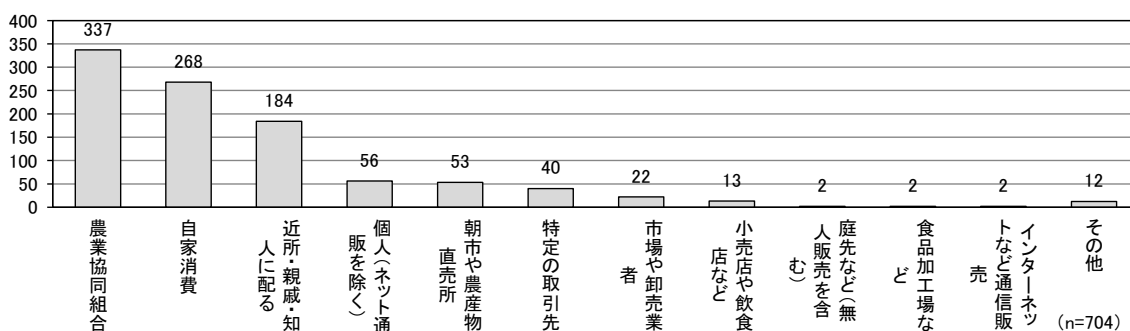
※無回答、無効を除く

4) 主な出荷先（問5 複数回答3つまで）

- ・主な出荷先（販売先）として、「農業協同組合」が337人と最も多く、次いで「自家消費」268人、「近所・親戚・知人に配る」184人となります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、葉山地域では「農業協同組合」を、金勝地域では「近所・親戚・知人に配る」や「個人」を挙げる回答が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「農業協同組合」や「個人」を挙げる回答が多くなる傾向がみられ、また高齢の年代ほど「近所・親戚・知人に配る」を挙げる回答が多くなる傾向がみられます。
- ・経営形態区分別にみると、専業農家及び兼業農家は同様の傾向を示しますが、専業農家では「朝市や農産物直売所」や「市場や卸売業者」を挙げる回答が兼業農家と比べて比較的多くなります。

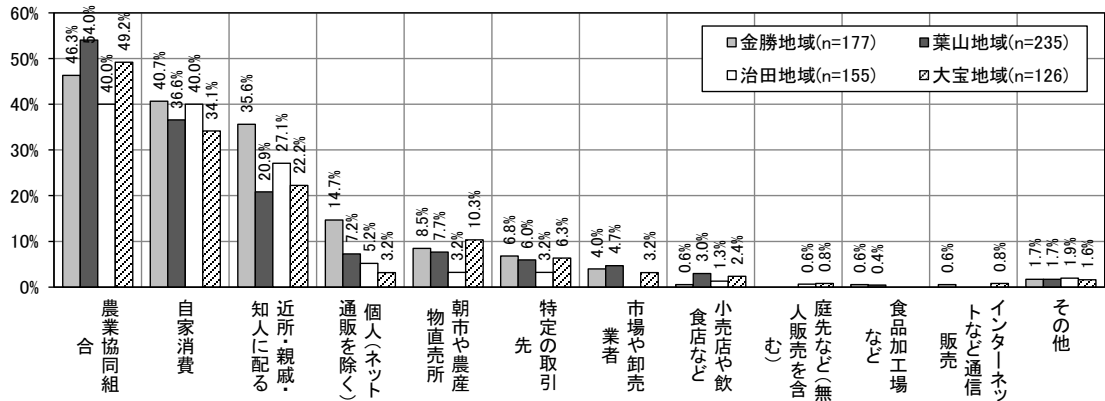
主な出荷先（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50歳代以下	60歳代	70歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
農業協同組合	337	82	127	62	62	55	111	167	81	322	84	15
自家消費	268	72	86	62	43	40	73	155	28	113	44	28
近所・親戚・知人に配る	184	63	49	42	28	15	51	118	19	58	5	3
個人（ネット通販を除く）	56	26	17	8	4	16	17	23	22	44	8	1
朝市や農産物直売所	53	15	18	5	13	6	11	36	1	6	0	22
特定の取引先	40	12	14	5	8	7	11	21	8	11	6	2
市場や卸売業者	22	7	11	0	4	5	8	9	7	6	1	4
小売店や飲食店など	13	1	7	2	3	6	3	4				
庭先など（無人販売を含む）	2	0	0	1	1	1	0	1				
食品加工場など	2	1	1	0	0	1	1	0				
インターネットなど通信販売	2	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0
その他	12	3	4	3	2	0	6	5	1	3	0	3
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



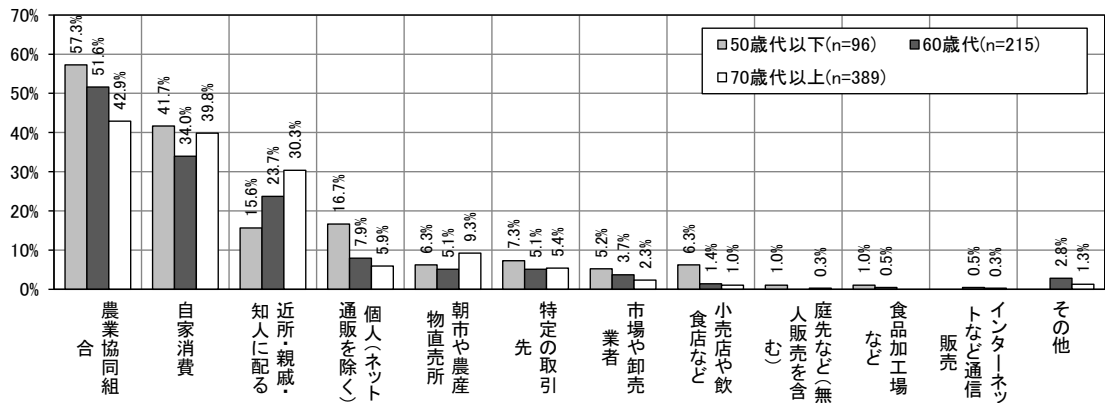
※無回答、無効を除く

地域区分別 主な出荷先（回答者総数に占める割合）



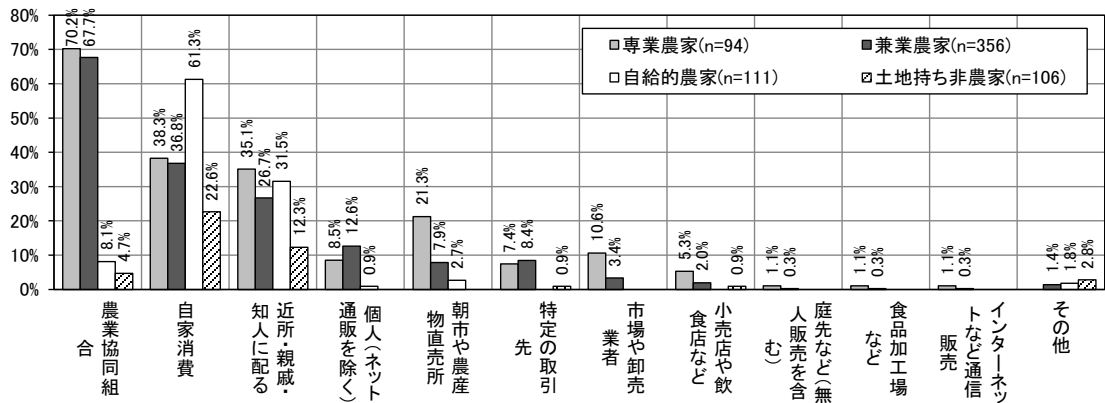
※無回答、無効を除く

年齢区分別 主な出荷先（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別 主な出荷先（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

(3) 農地等の状況について

1) 農地の所有等状況（問6）

- ・農地の所有等状況をみると、回答者合計で自作地約30,802a（うち田約28,859a、畑1,943a）、貸付地約12,387a（うち田約12,218a、畑約169a）となります。また、借入耕地は約8,288a（うち田約7,121a、畑約1,166a）となります。
- ・回答者一人あたりの所有面積は、自作地約62.6a（うち田約55.8a、畑6.8a）、貸付地約71.8a（うち田約66.4a、畑5.4a）となります。また、借入耕地は約100.8a（うち田約61.9a、畑約38.9a）となります。
- ・また、施設園芸の農地は、一人あたり自作地約16.7a、貸付地約13.9a、借入耕地約15.1aとなります。

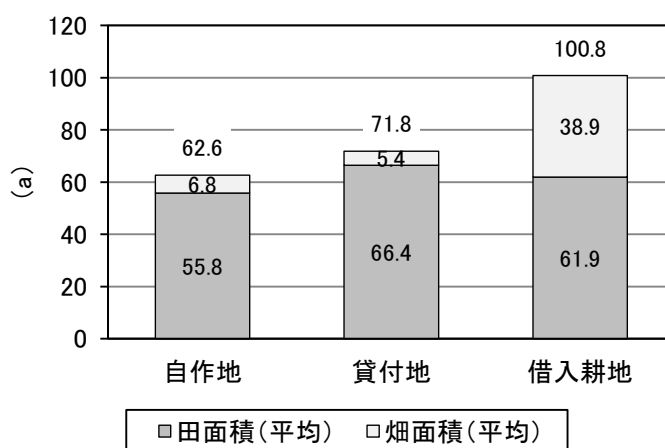
農地の所有等状況

上段：回答数、中段：合計（a）、下段：平均（a）

農地(区分)	所有耕地		借入耕地
	自作地	貸付地	
田	517	184	115
	28,858.6	12,217.7	7,121.2
	(55.8)	(66.4)	(61.9)
畑	285	31	30
	1,943.4	168.8	1,166.4
	(6.8)	(5.4)	(38.9)
うち、施設園芸	36	4	10
	602.3	55.4	150.6
	(16.7)	(13.9)	(15.1)
合計(田及び畑)	30,802.0	12,386.5	8,287.6
	(62.6)	(71.8)	(100.8)

※無回答、無効を除く

農地の所有等状況（一人あたり平均面積）

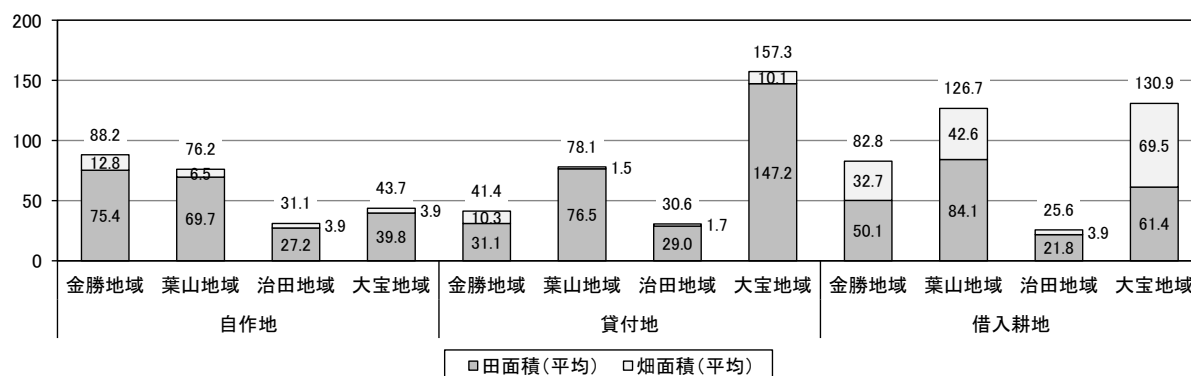


※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域及び葉山地域では、一人あたりの自作地の規模が他地域と比べて比較的大きくなります。
- ・大宝地域は貸付地の規模が他地域と比べて比較的大きく、また治田地域は自作地、貸付地、借入耕地ともに規模が他地域と比べて比較的小さくなります。

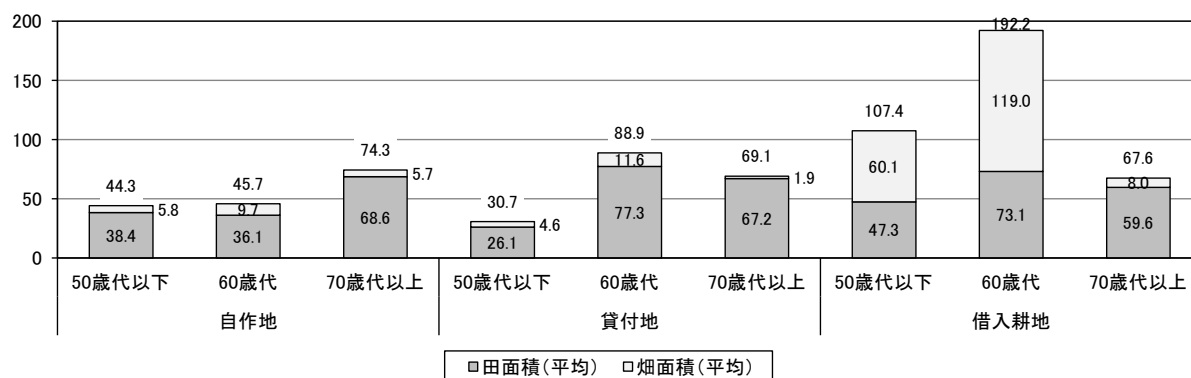
- ・年齢区分別にみると、50 歳代以下及び 60 歳代では自作地及び貸付地に比べて借入耕地の規模が大きくなる傾向がみられます。70 歳代以上では、自作地の規模が他年代と比べて比較的大きくなります。
- ・経営形態区分別にみると、専業農家は自作地に比べて貸付地及び借入耕地の規模が大きくなる傾向がみられます。自給的農家は、自作地、貸付地、借入耕地ともに規模が小さく、また土地持ち非農家は自作地の規模が他形態と比べて比較的大きくなります。

地域区分別 農地の所有等状況（一人あたり平均面積）



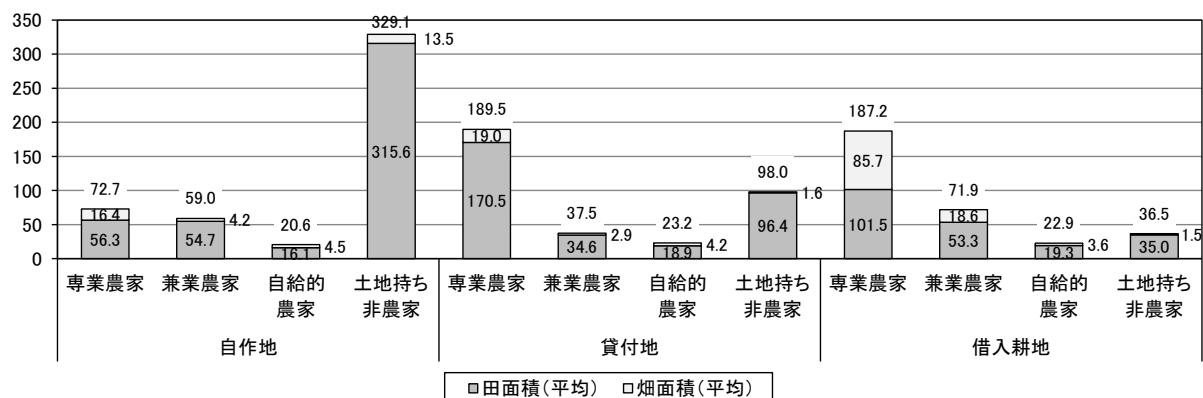
※無回答、無効を除く

年齢区分別 農地の所有等状況（一人あたり平均面積）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別 農地の所有等状況（一人あたり平均面積）



※無回答、無効を除く

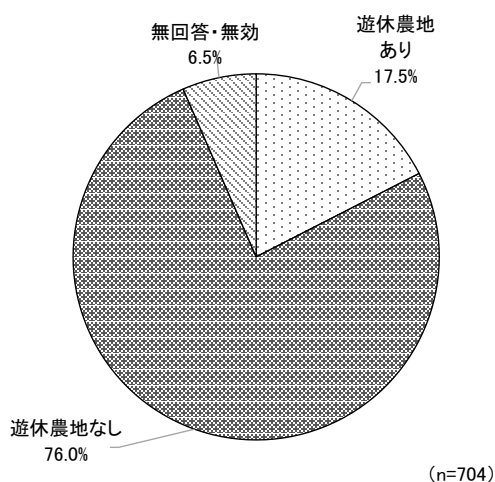
2) 遊休農地の有無（問7）

- ・所有している農地の遊休農地の有無について、123人（17.5%）が「遊休農地あり」と回答しました。
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域及び治田地域で「遊休農地あり」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「遊休農地あり」とする回答が多くなる傾向がみられます。
- ・経営形態区分別にみると、土地持ち非農家について、専業農家で「遊休農地あり」とする回答者が多くなります。

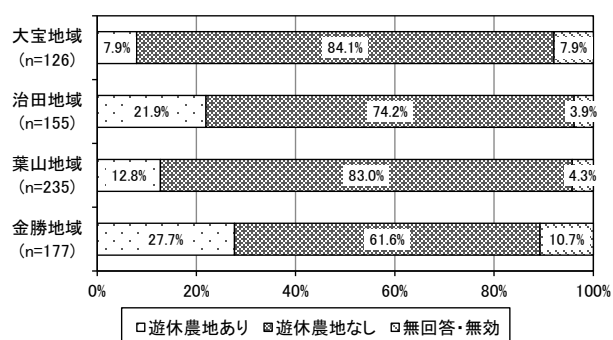
遊休農地の有無

項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50歳代以下	60歳代	70歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
遊休農地あり	123	49	30	34	10	26	42	54	18	53	10	35
遊休農地なし	535	109	195	115	106	69	162	301	71	293	93	56
無回答・無効	46	19	10	6	10	1	11	34	5	10	8	15
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

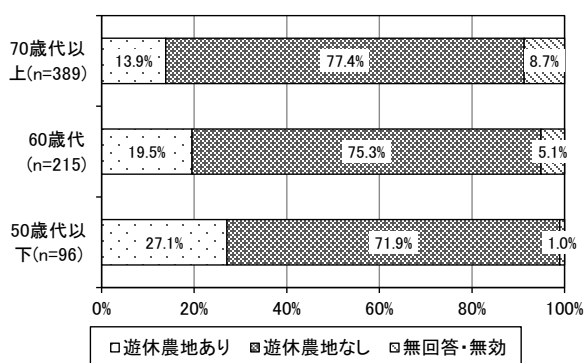
遊休農地の有無（割合）



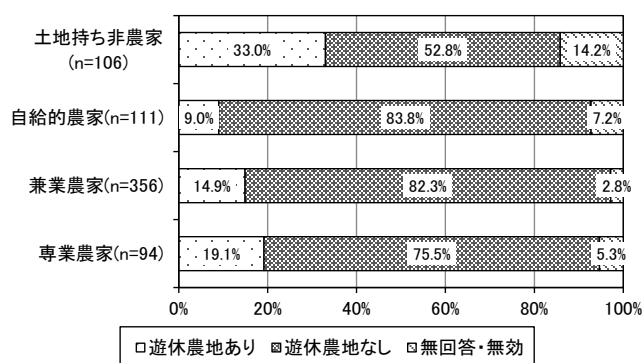
地域区分別 遊休農地の有無（割合）



年齢区分別 遊休農地の有無（割合）



経営形態区分別 遊休農地の有無（割合）



3) 遊休農地の状況（問8）

- ・前問（問7）で「遊休農地あり」とする回答者（n=123）について、遊休農地の状況を尋ねました。

① 遊休農地の規模

- ・所有する遊休農地の規模は、回答者合計で約1,917a、一人あたり約16.8aとなります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、最も遊休農地の一人あたり規模が大きい地域は葉山地域（約24.2a）となり、規模が小さい地域は治田地域（約13.7a）となります。

上段：回答数、中段：合計（a）、下段：平均（a）

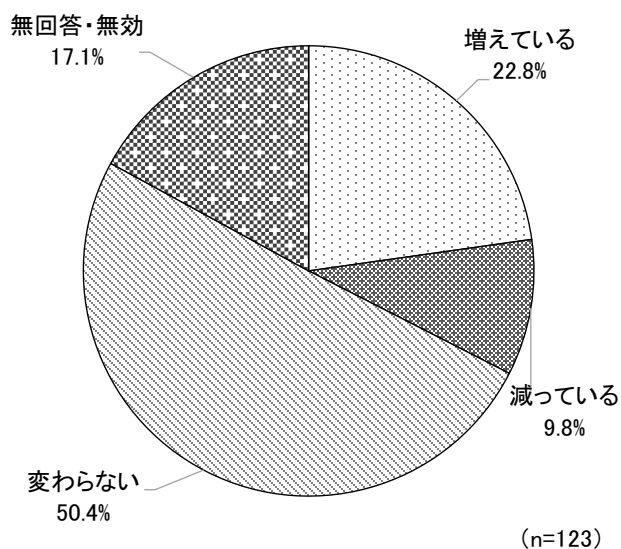
農地(区分)	市全域				
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域
遊休農地	114	48	24	32	10
	1,917.1	704.4	579.9	438.1	194.7
	(16.8)	(14.7)	(24.2)	(13.7)	(19.5)

※無回答、無効を除く

② 遊休農地の増減

- ・遊休農地の規模について、10年前からの変化は、「変わらない」が約半数（50.4%）を占めています。
- ・「増えている」は22.8%となり、「減っている」（9.8%）を上回っています。

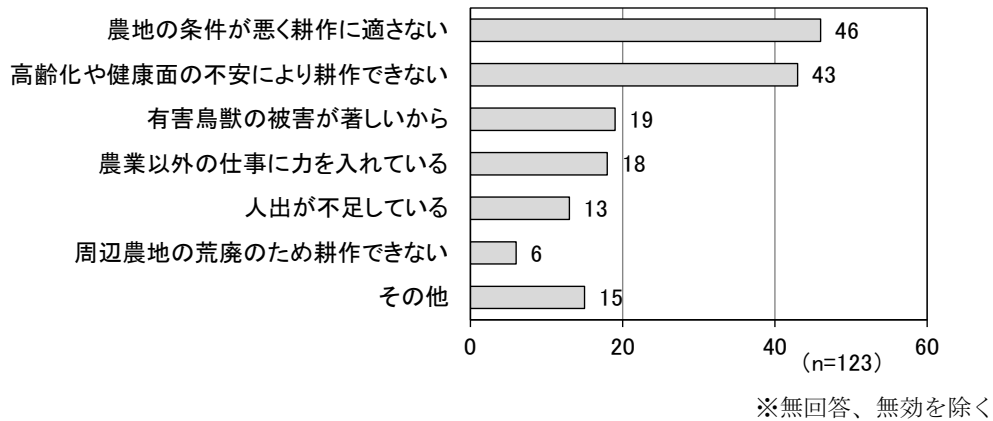
遊休農地の増減（割合）



1) 耕作していない理由（複数回答2つまで）

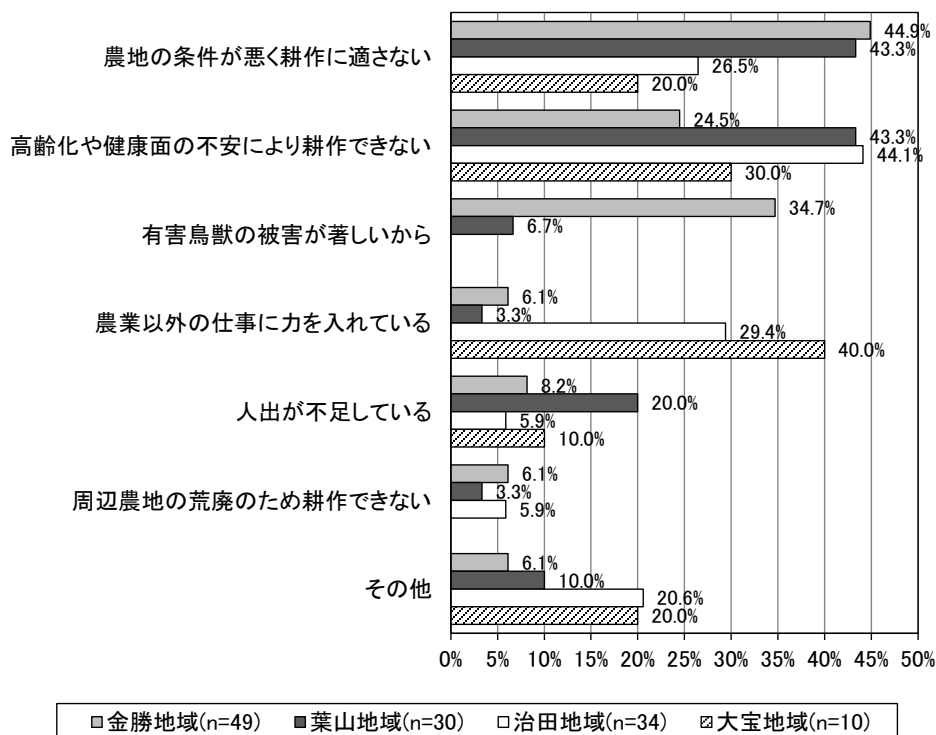
- ・当該遊休農地について、耕作していない理由として、「農地の条件が悪く耕作に適さない」が46人と最も多く、次いで「高齢化や健康面の不安により耕作できない」43人となります。
- ・その他の理由として、「農機具を搬入することができない」「水が確保できない」など農地としての不適であるとの理由などが挙げられています。

耕作しない理由（複数回答）



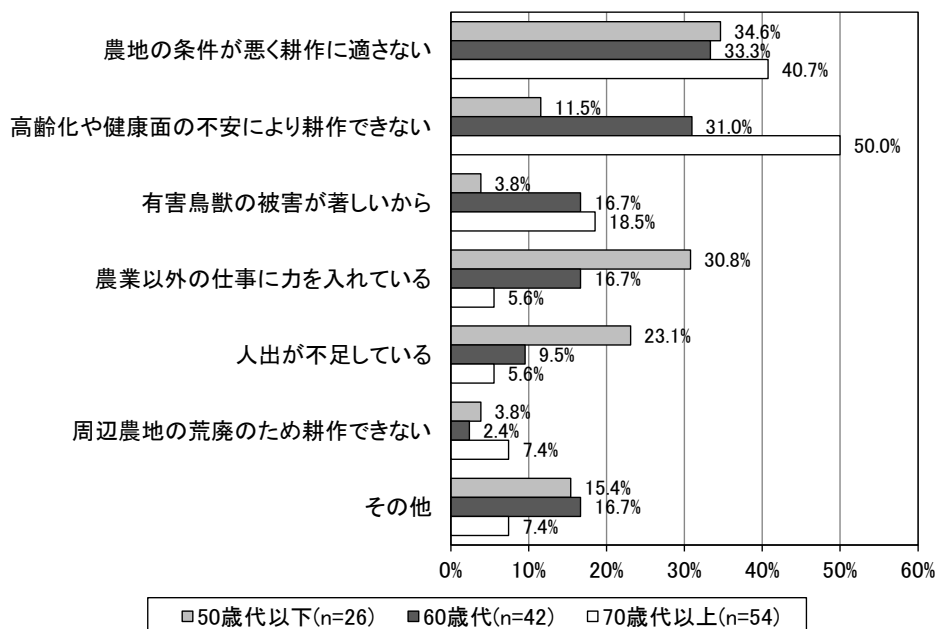
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「農地の条件が悪く耕作に適さない」に次いで「有害鳥獣の被害が著しいから」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域及び治田地域では、「高齢化や健康面の不安により耕作できない」が最も多く挙げられています。
- ・大宝地域では、「農業以外の仕事に力を入れている」が最も多く挙げられています。

地域区分別 耕作しない理由（回答者総数に占める割合）



- ・年齢区分別にみると、50歳代以下では「農業以外の仕事に力を入れている」や「人手が不足している」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・70歳代以上では「高齢化や健康面の不安により耕作できない」が最も多く挙げられています。

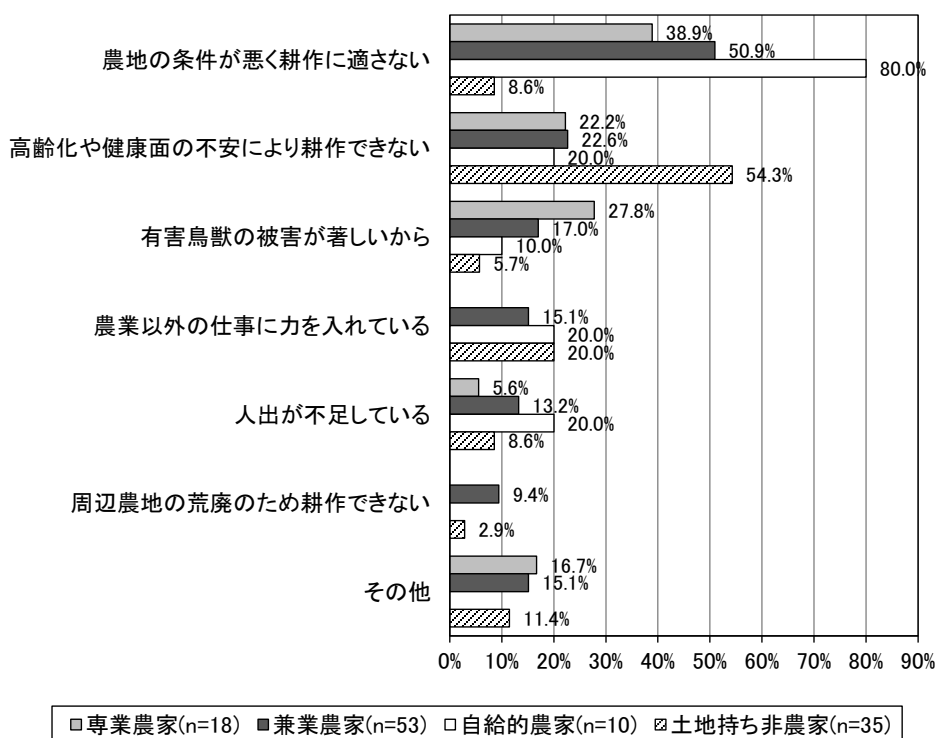
年齢区分別 耕作しない理由（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区分別にみると、自給的農家では「農地の条件が悪く耕作に適さない」が最も多く挙げられています。
- ・土地持ち非農家では、「高齢化や健康面の不安により耕作できない」が最も多く挙げられています。

経営形態区分別 耕作しない理由（回答者総数に占める割合）

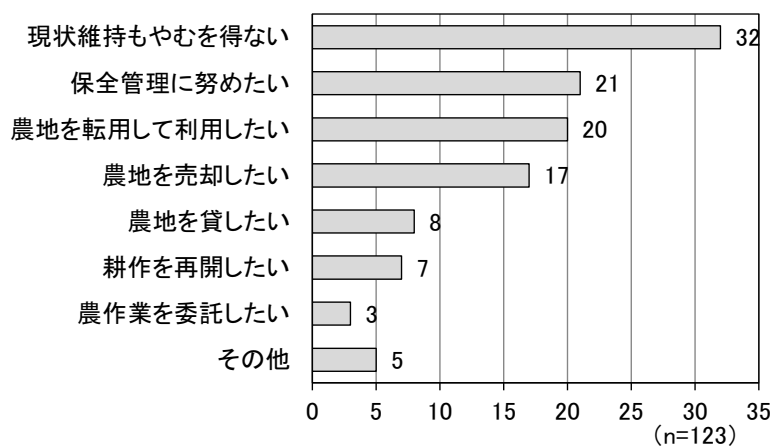


※無回答、無効を除く

2) 遊休農地の今後

- ・遊休農地を今後どのようにしていきたいかについて、「現状維持もやむを得ない」が 32 人と最も多くなります。
- ・農地として「保全管理に努めたい」(21 人) との意見も多く挙げられる一方、「農地を転用して利用したい」(20 人) や「農地を売却したい」(17 人) など、農地としての利用を断念する意見もみられます。

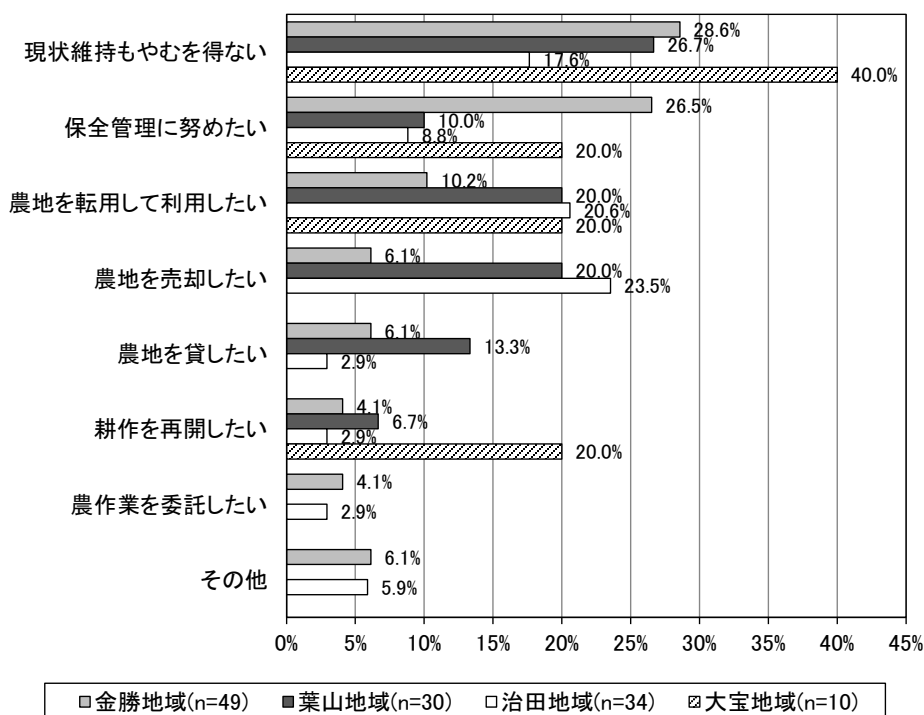
遊休農地の今後



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「保全管理に努めたい」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・大宝地域では「現状維持もやむを得ない」及び「耕作を再開したい」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

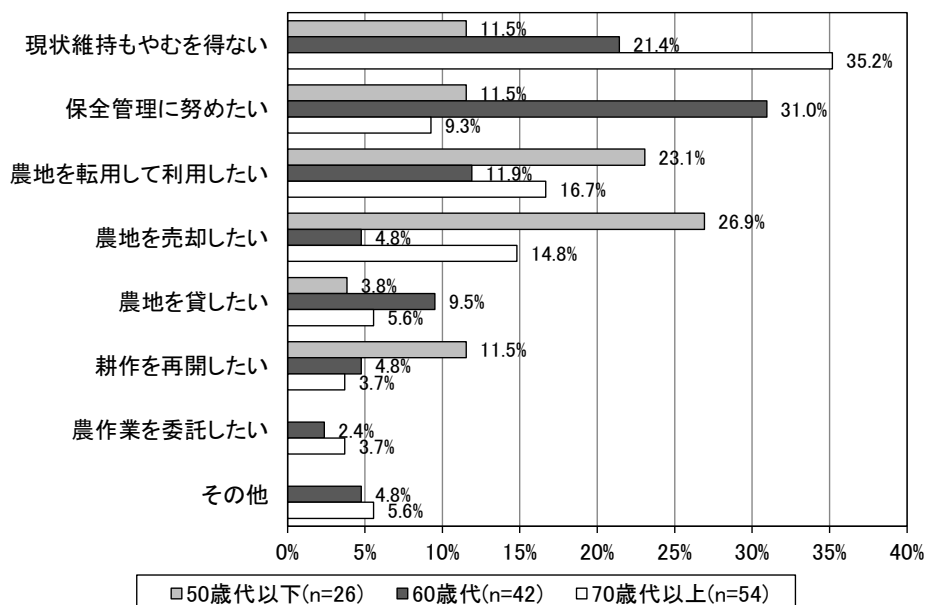
地域区分別 遊休農地の今後（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、高齢の年代ほど「現状維持もやむを得ない」を挙げる回答者が多くなります。
- ・50歳代以下では「農地を転用して利用したい」や「農地を売却したい」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

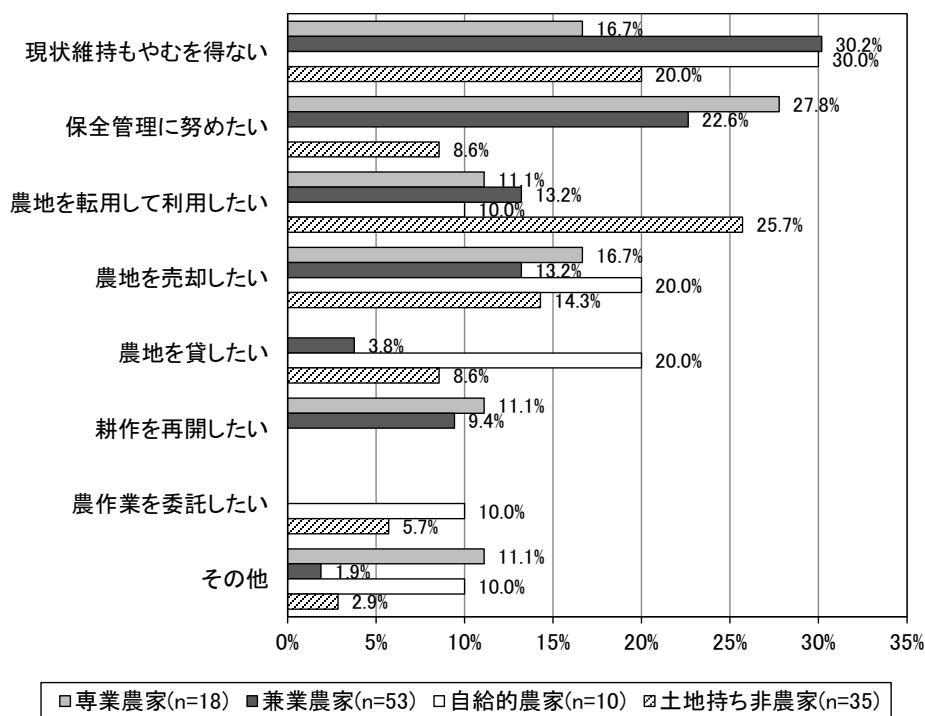
年齢区分別 遊休農地の今後（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区分別にみると、土地持ち非農家では「農地を転用して利用したい」が最も多く挙げられています。
- ・自給的農家では、「農地を貸したい」が他形態と比べて比較的多く挙げられています。

経営形態区分別 遊休農地の今後（回答者総数に占める割合）



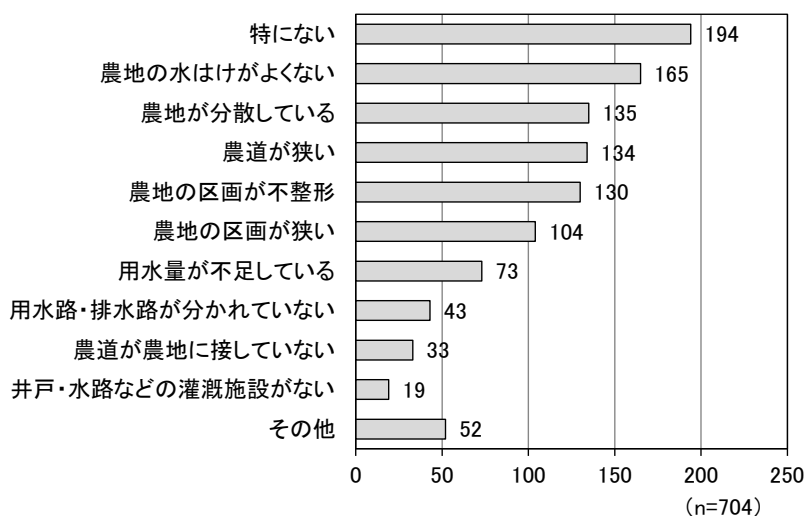
※無回答、無効を除く

3) 農業生産基盤の課題（問9 複数回答3つまで）

- ・改善等が必要と考える農業生産基盤について、「特にない」が194人と最も多く、次いで「農地の水はけがよくない」165人、「農地が分散している」135人、「農道が狭い」134人、「農地の区画が不整形」130人となります。
- ・その他として、水路の整備や保全に関する意見などが挙げられています。

農業生産基盤の課題（複数回答）

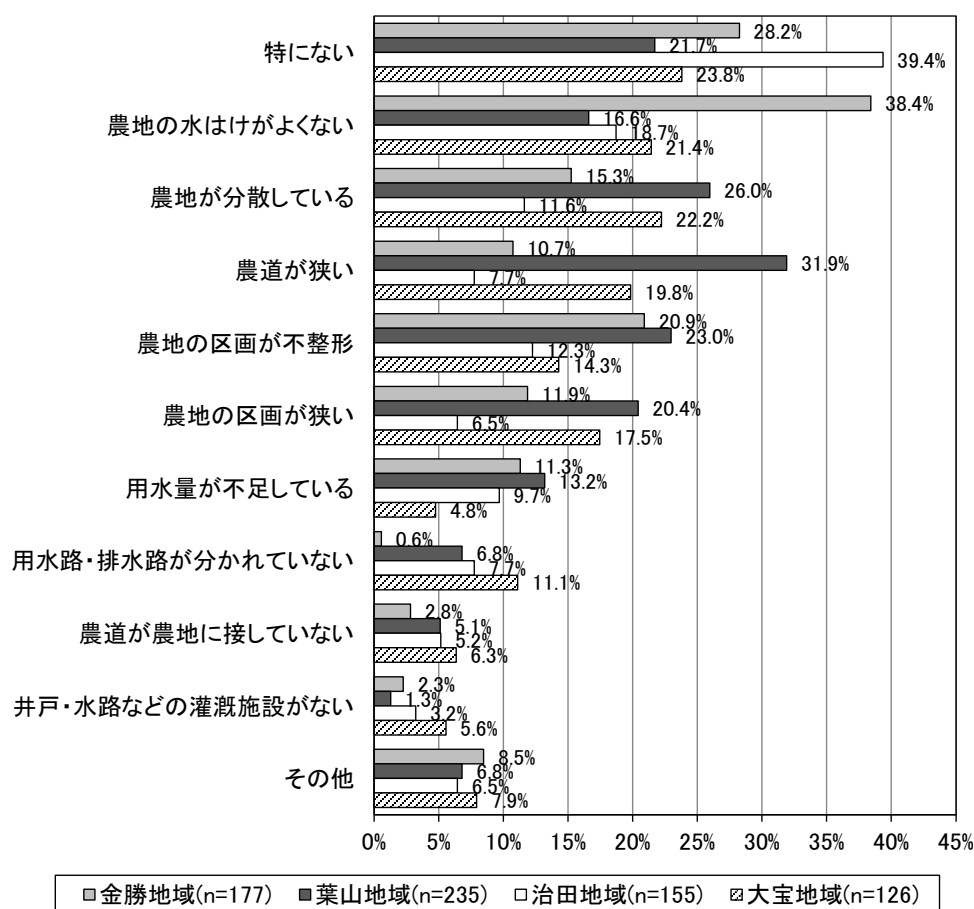
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50歳代以下	60歳代	70歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
特にない	194	50	51	61	30	21	58	115	92	39	37	92
農地の水はけがよくない	165	68	39	29	27	27	53	82	92	24	10	92
農地が分散している	135	27	61	18	28	21	36	78	75	19	10	75
農道が狭い	134	19	75	12	25	14	50	70	71	20	14	71
農地の区画が不整形	130	37	54	19	18	23	41	65	77	13	16	77
農地の区画が狭い	104	21	48	10	22	15	30	57	59	14	11	59
用水量が不足している	73	20	31	15	6	15	18	40	46	10	5	46
用水路・排水路が分かれていない	43	1	16	12	14	7	12	24	25	7	2	25
農道が農地に接していない	33	5	12	8	8	3	9	21	19	6	4	19
井戸・水路などの灌漑施設がない	19	4	3	5	7	1	7	11	9	4	4	9
その他	52	15	16	10	10	13	17	22	29	4	6	29
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「農地の水はけがよくない」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域では、「農道が狭い」が最も多く挙げられており、その他「農地が分散している」や「農地の区画が不整形」、「農地の区画が狭い」などを挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・治田地域では、「特にない」とする回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・大宝地域では、「用水路・排水路が分かれていない」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

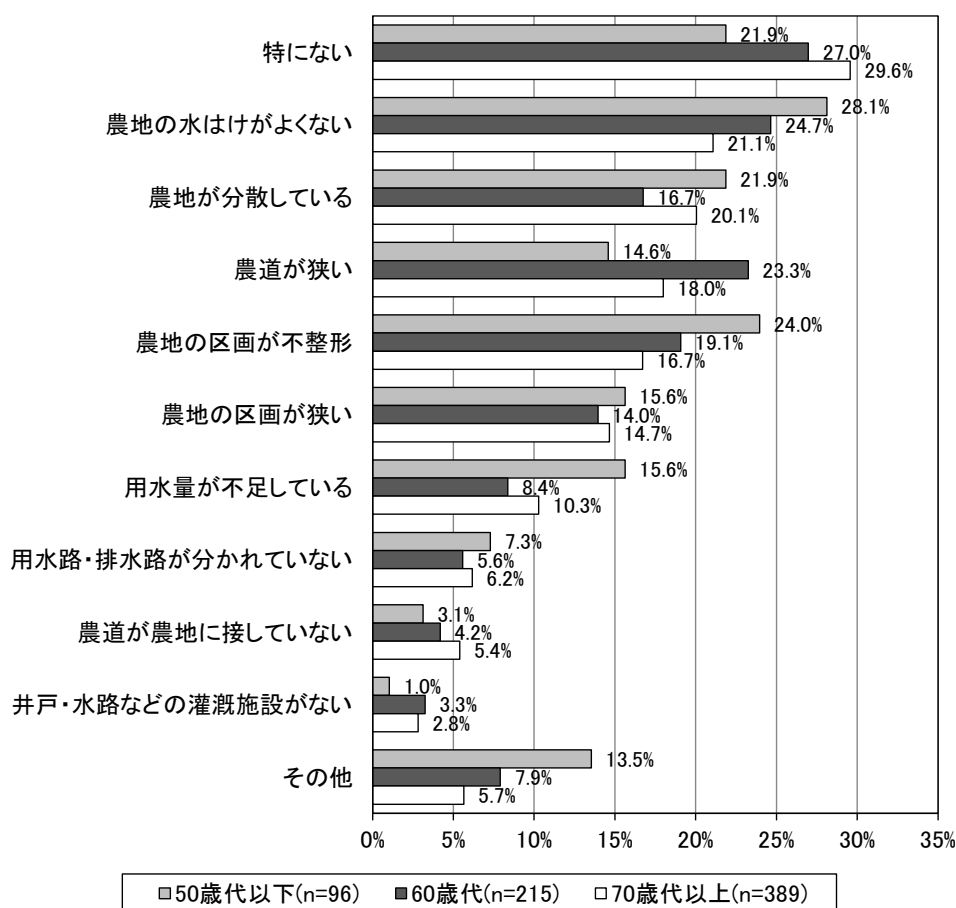
地域区分別 農業生産基盤の課題（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、50 歳代以下では、「農地の水はけがよくない」が最も多く挙げられており、その他「農地の区画が不整形」「用水量が不足している」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・60 歳代では、「農道が狭い」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・70 歳代以上では、「特にない」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

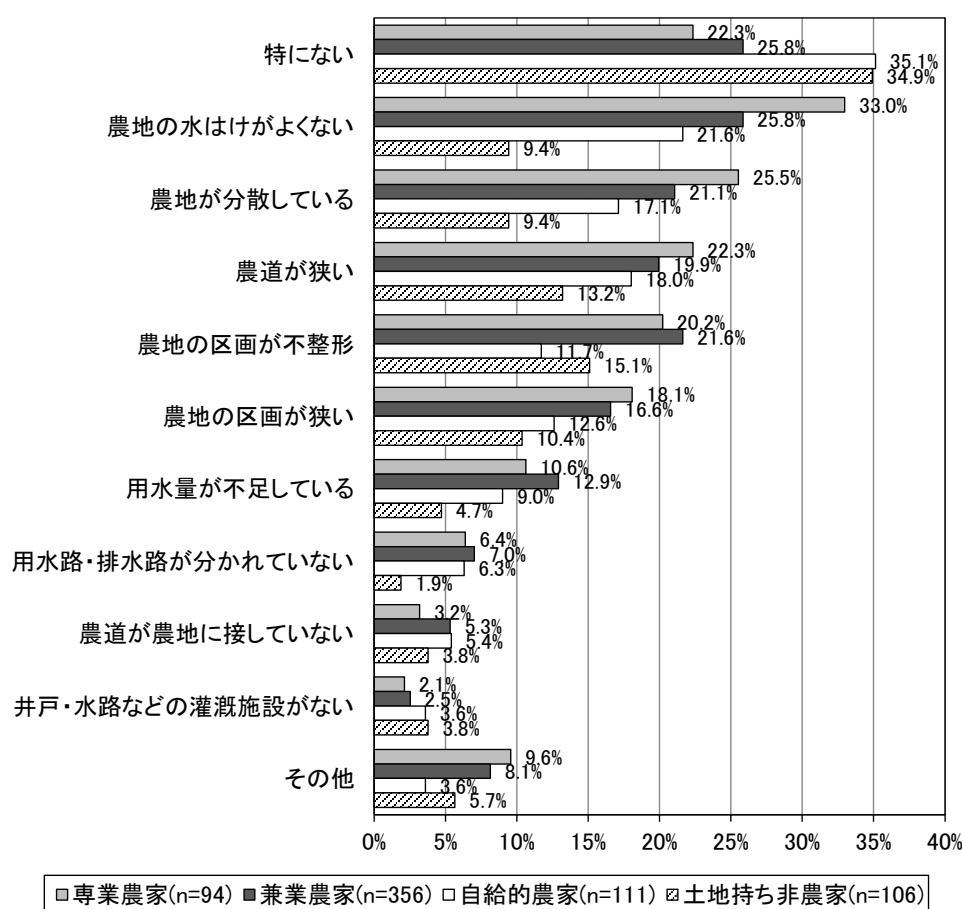
年齢区分別 農業生産基盤の課題（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、専業農家では「農地の水はけがよくない」が最も多く挙げられ、その他「農地が分散している」「農道が狭い」「農地の区画が狭い」など、農地の集約化と規模の確保に関する意見について、他形態と比べて比較的多くなります。
- ・兼業農家は、専業農家と概ね同様の傾向を示していますが、「農地の区画が不整形」や「用水量が不足している」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・自給的農家及び土地持ち非農家は、「特にない」とする回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

経営形態区別 農業生産基盤の課題（回答者総数に占める割合）



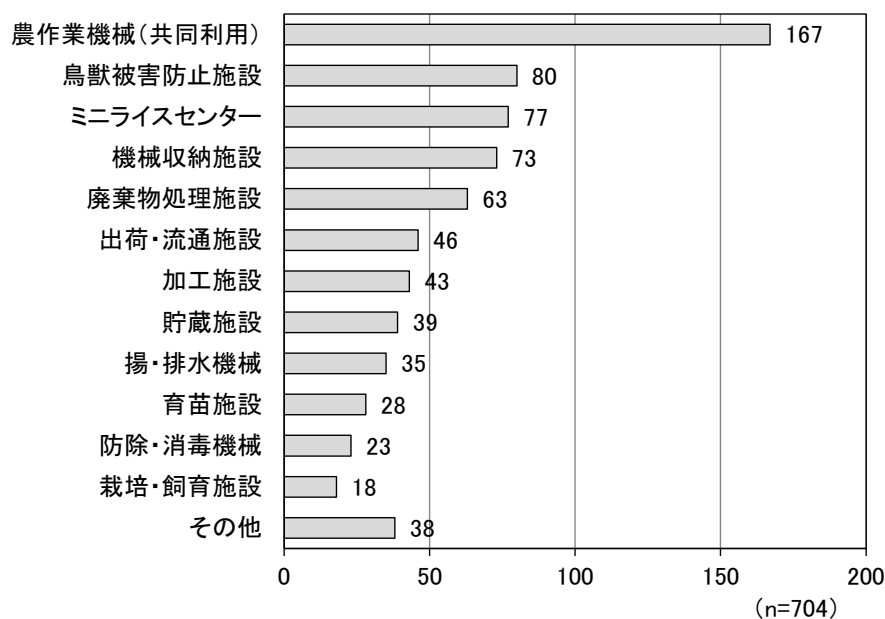
※無回答、無効を除く

4) 地域に必要な施設、機械（問 10 複数回答 3 つまで）

- ・地域に必要な施設、機械について、「農作業機械（共同利用）」が 167 人と最も多く、次いで「鳥獣被害防止施設」80 人、「ミニライスセンター」77 人、「機械収納施設」73 人となります。
- ・その他として、水路の清掃や流量のコントロール、また農道の除草等のための整備との意見のほか、「特に必要ない」との意見も挙げられています。

地域に必要な施設、機械（複数回答）

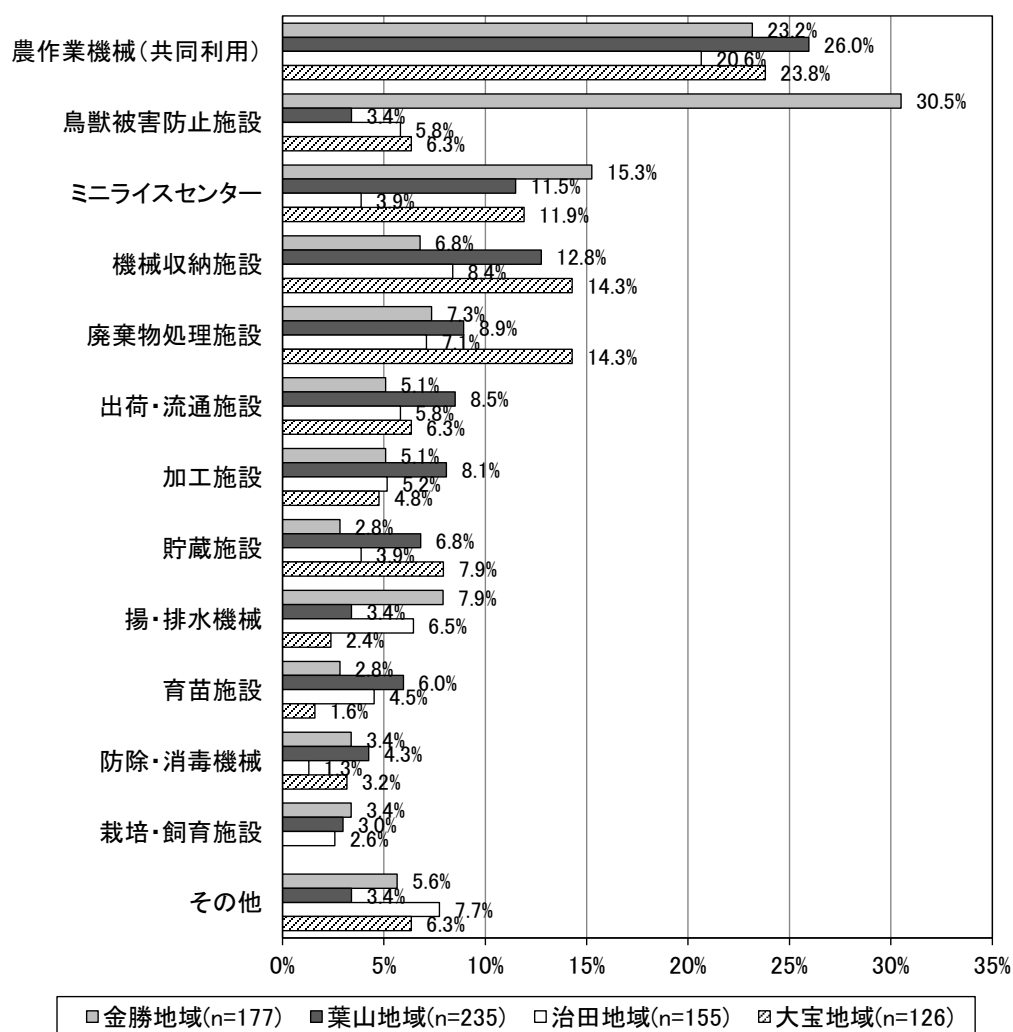
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
農作業機械（共同利用）	167	41	61	32	30	30	53	84	26	93	35	9
鳥獣被害防止施設	80	54	8	9	8	8	25	46	16	35	18	7
ミニライスセンター	77	27	27	6	15	14	27	36	16	42	12	4
機械収納施設	73	12	30	13	18	14	22	36	15	45	6	3
廃棄物処理施設	63	13	21	11	18	9	23	31	7	36	10	8
出荷・流通施設	46	9	20	9	8	10	13	23	7	28	3	6
加工施設	43	9	19	8	6	9	14	20	9	24	4	4
貯蔵施設	39	5	16	6	10	3	13	23	10	22	3	3
揚・排水機械	35	14	8	10	3	6	10	19	7	22	3	2
育苗施設	28	5	14	7	2	0	9	19	1	20	2	2
防除・消毒機械	23	6	10	2	4	1	8	14	6	16	1	0
栽培・飼育施設	18	6	7	4	0	0	2	15	1	9	3	1
その他	38	10	8	12	8	7	11	20	3	17	8	7
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「鳥獣被害防止施設」を挙げる回答者が特に多く、また「ミニライスセンター」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域では、「農作業機械（共同利用）」が最も多く挙げられており、その他「出荷・流通施設」「加工施設」などを挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・治田地域では、「農作業機械（共同利用）」が最も多く挙げられ、次いで「機械収納施設」などが挙げられています。
- ・大宝地域では、「機械収納施設」「廃棄物処理施設」などを挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

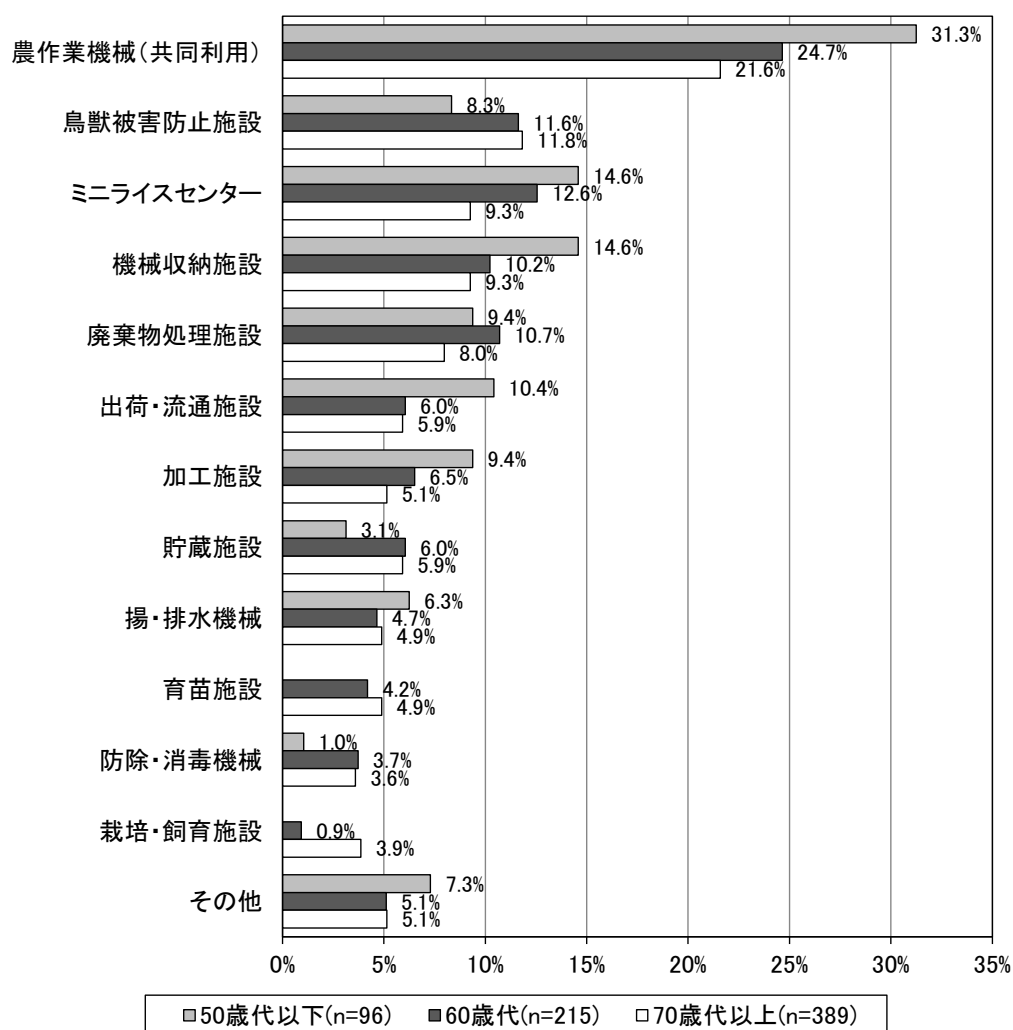
地域区分別 地域に必要な施設、機械（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区別にみると、50歳代以下では、「農作業機械（共同利用）」が最も多く挙げられており、その他「ミニライスセンター」「機械収納施設」「出荷・流通施設」「加工施設」などを挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・60歳代では、「廃棄物処理施設」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・70歳代以上では、概ね他年代と同様の傾向を示しています。

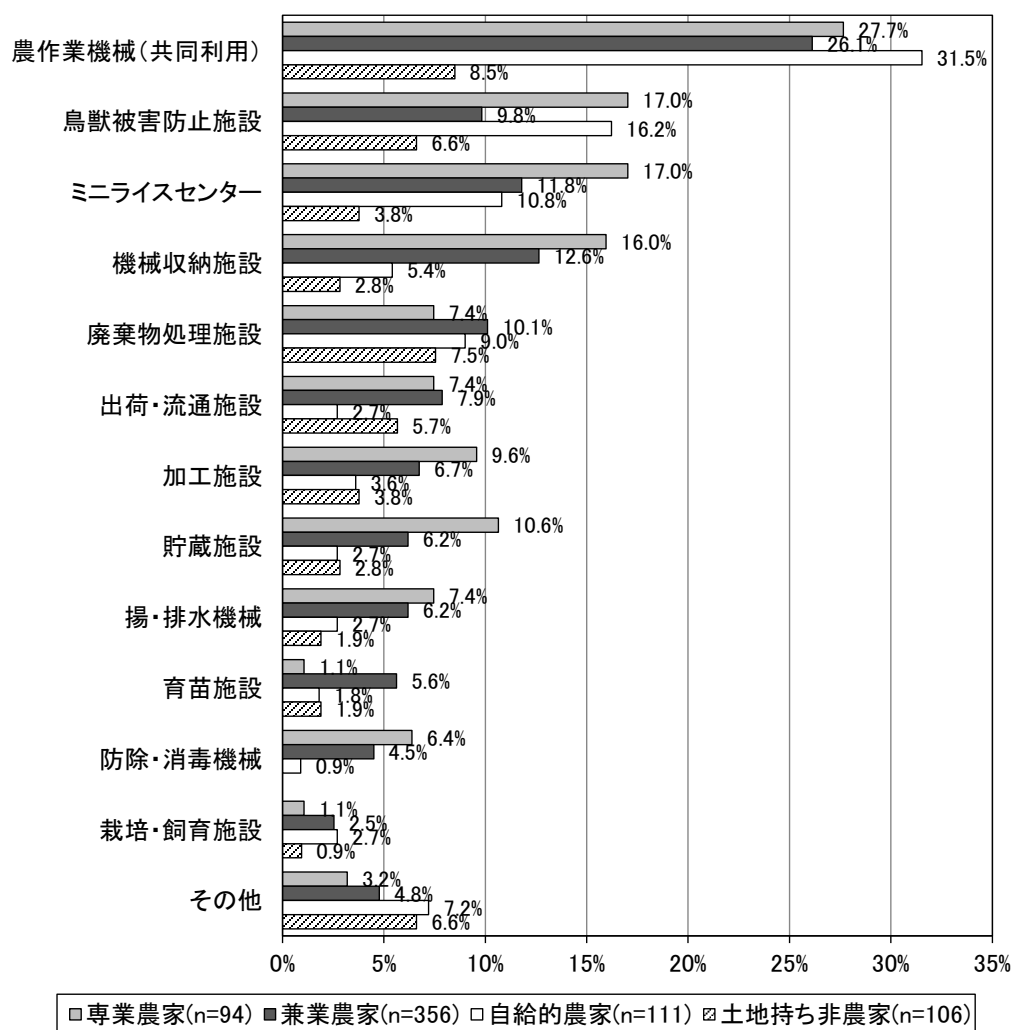
年齢区分別 地域に必要な施設、機械（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、専業農家では「鳥獣被害防止施設」「ミニライスセンター」「機械収納施設」「加工施設」「貯蔵施設」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・兼業農家は、専業農家と概ね同様の傾向を示していますが、「育苗施設」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・自給的農家は、「農作業機械（共同利用）」を挙げる回答者が特に多く、また「鳥獣被害防止施設」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・土地持ち非農家は無回答が多く、必要な施設、機械についての意見はあまりみられません。

経営形態区分別 地域に必要な施設、機械（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

(4) 今後の農業経営について

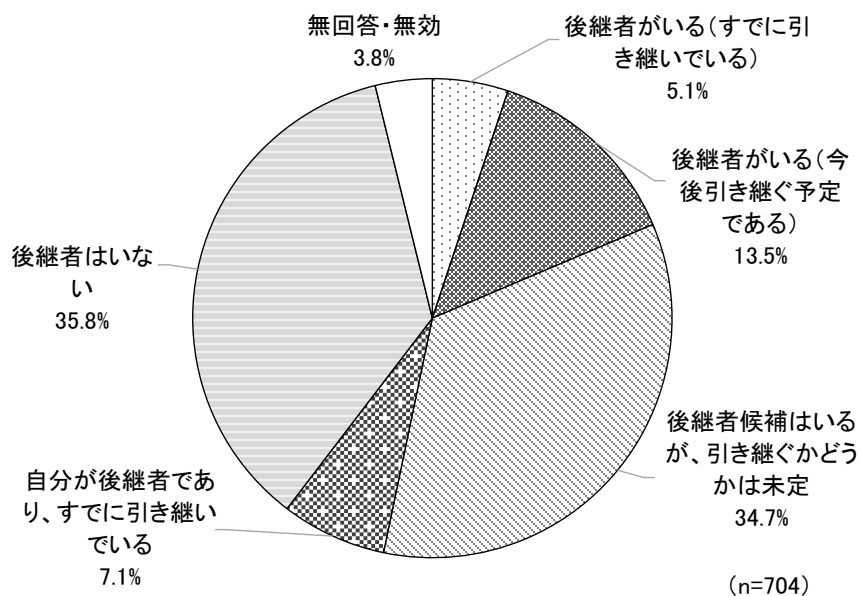
1) 後継者の有無 (問 11)

- ・後継者の有無について、「後継者がいる（すでに引き継いでいる）」(36 人) 及び「後継者がいる（今後引き継ぐ予定である）」(95 人)「自分が後継者であり、すでに引き継いでいる」(50 人) を合わせた 181 人 (25.7%) について後継者が存在しており、「後継者候補はいるが、引き継ぐかどうかは未定」(244 人) を含めて回答者の約 6 割について、後継の可能性がります。
- ・一方、「後継者はいない」とする回答者も 252 人 (35.8%) にのびります。

後継者の有無

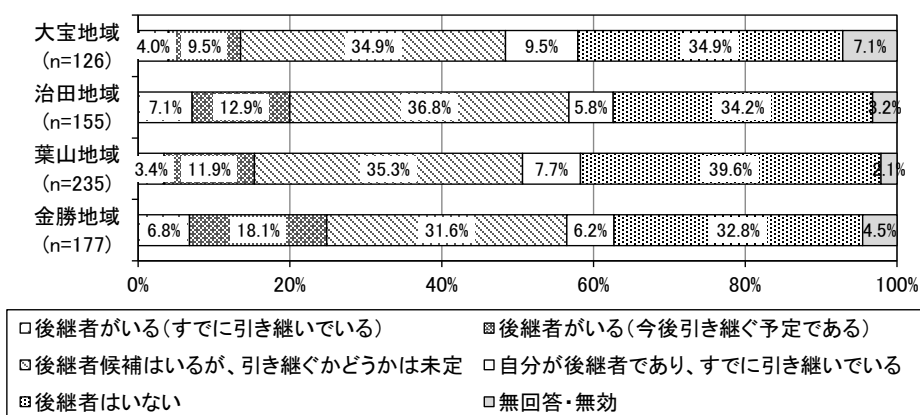
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
後継者がいる（すでに引き継いでいる）	36	12	8	11	5	2	5	28	9	24	1	1
後継者がいる（今後引き継ぐ予定である）	95	32	28	20	12	5	16	72	17	58	12	4
後継者候補はいるが、引き継ぐかどうかは未定	244	56	83	57	44	32	76	136	30	135	44	22
自分が後継者であり、すでに引き継いでいる	50	11	18	9	12	26	18	6	3	38	6	3
後継者はいない	252	58	93	53	44	31	93	128	34	95	46	65
無回答・無効	27	8	5	5	9	0	7	19	1	6	2	11
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

後継者の有無（割合）



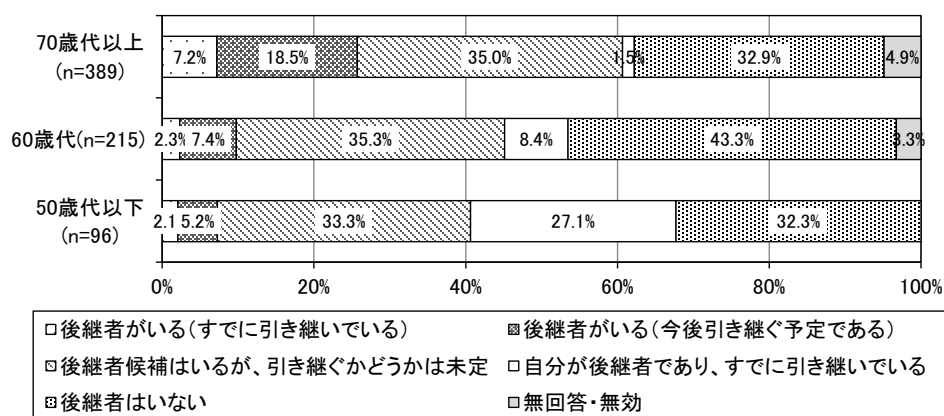
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示しています。
- ・年齢区分別にみると、60歳代で「後継者はいない」とする回答者が多くみられます。また、50歳代以下では、「自分が後継者であり、すでに引き継いでいる」が多くなります。
- ・経営形態区分別にみると、専業農家及び兼業農家では、6割を超える回答者がいずれかの後継者ありとする一方、土地持ち非農家は、「後継者はいない」とする回答者が6割を超えています。

地域区分別（割合）



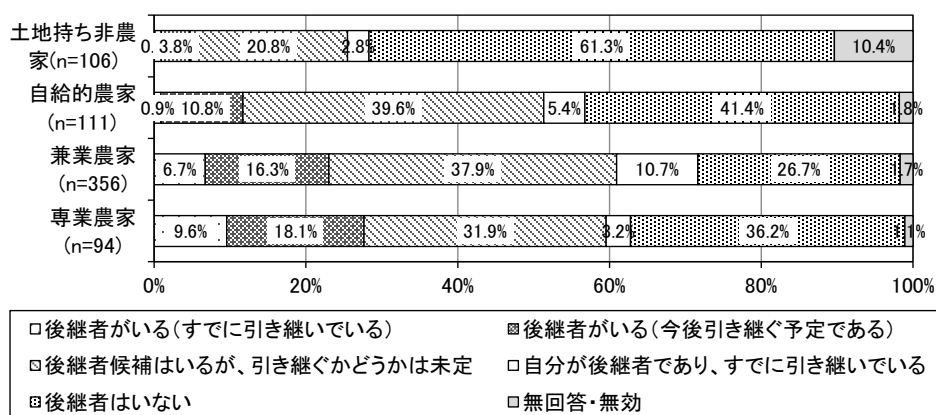
※無回答、無効を除く

年齢区分別（割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別（割合）



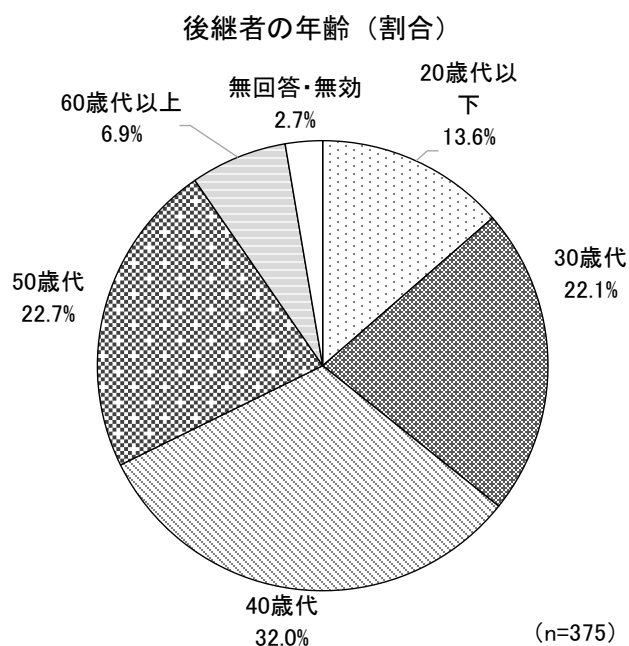
※無回答、無効を除く

2) 後継者の状況 (問 12)

- ・前問 (問 11) で「後継者あり」とする回答者 (n=375、「自分が後継者であり、すでに引き継いでいる」を除く) について、後継者の状況を尋ねました。

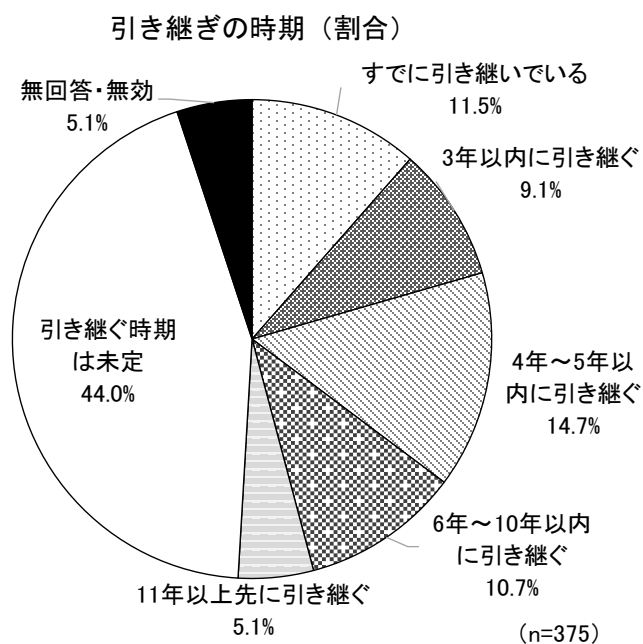
① 後継者の年齢

- ・後継者の年齢は、「40 歳代」が約 3 割 (32.0%) を最も多く、次いで「50 歳代」(22.7%)、「30 歳代」(22.1%) となります。



② 引き継ぎの時期

- ・引き継ぎの時期について、約 4 割が「引き継ぐ時期は未定」(44.0%) と最も多く、次いで「4 年～5 年以内に引き継ぐ」(14.7%)、「すでに引き継いでいる」(11.5%) となります。



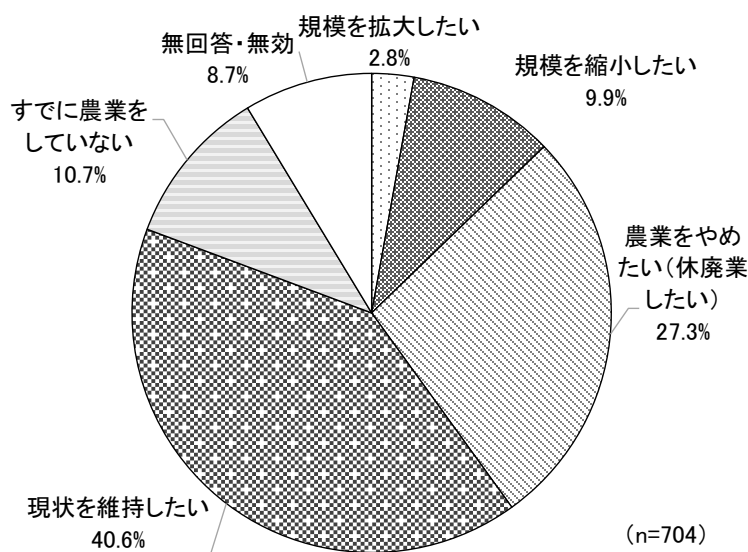
3) 今後の農業経営について（問13）

- ・今後の農業経営について、「現状を維持したい」が286人（40.6%）と最も多く、次いで「農業をやめたい（休廃業したい）」192人（27.3%）となります。
- ・「規模を拡大したい」は20人（2.8%）にとどまります。

今後の農業経営について

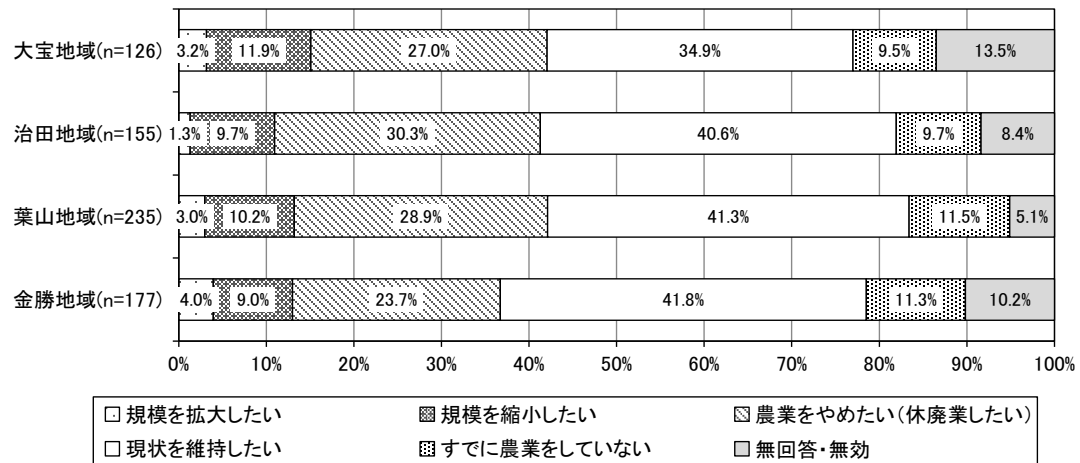
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50歳代以下	60歳代	70歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
規模を拡大したい	20	7	7	2	4	11	4	4	6	12	1	0
規模を縮小したい	70	16	24	15	15	11	21	38	6	56	7	1
農業をやめたい（休廃業したい）	192	42	68	47	34	21	58	113	24	93	41	23
現状を維持したい	286	74	97	63	44	40	89	154	49	166	50	11
すでに農業をしていない	75	20	27	15	12	9	24	42	1	6	3	61
無回答・無効	61	18	12	13	17	4	19	38	8	23	9	10
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

今後の農業経営について（割合）



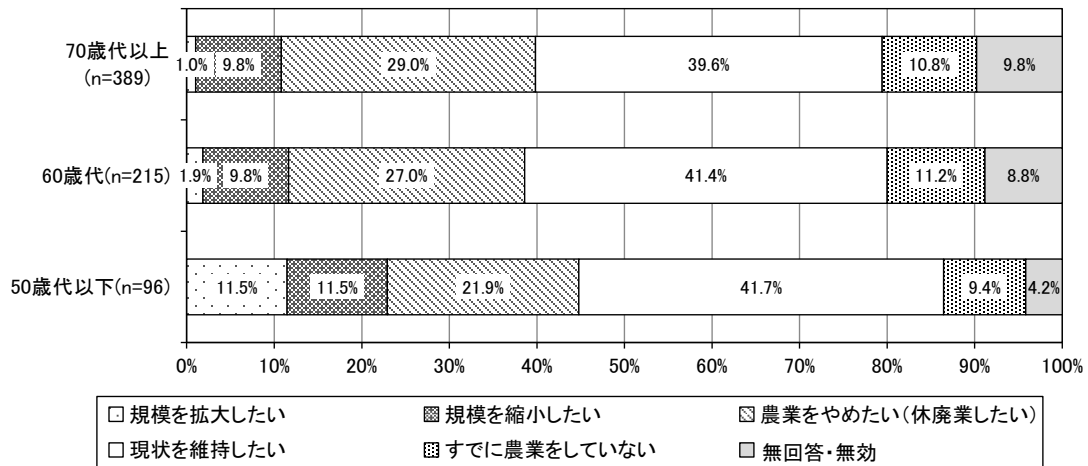
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示しています。
- ・年齢区分別にみると、50歳代以下で「規模を拡大したい」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・経営形態区分別にみると、専業農家で「規模を拡大したい」とする回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・土地持ち非農家は、「すでに農業をしていない」が約6割と回答者の多数を占めており、「規模を拡大したい」は0人、「現状を維持したい」も1割程度にとどまります。

地域区分別（割合）



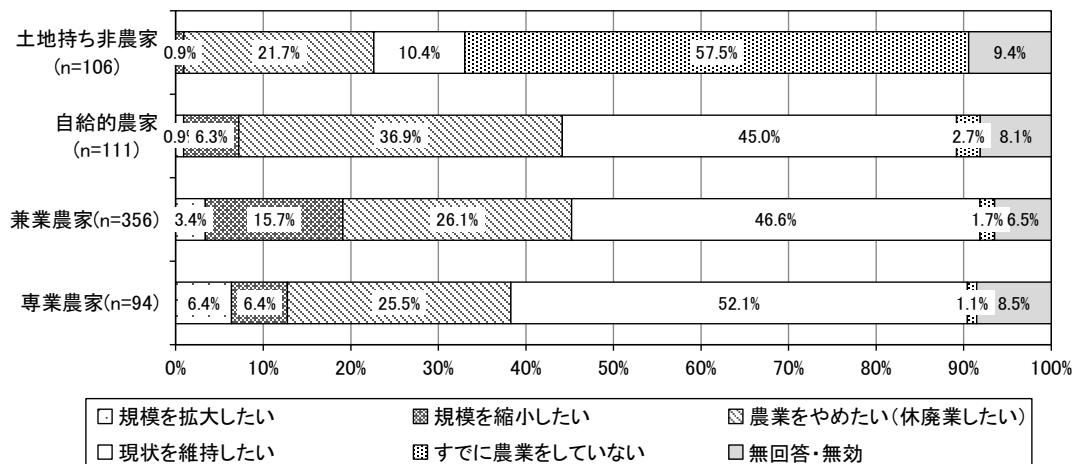
※無回答、無効を除く

年齢区分別（割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別（割合）



※無回答、無効を除く

4) 農地規模の拡大意向（問 14）

- ・前問（問 13）で「農地規模を拡大したい」とする回答者（n=20）について、拡大の意向及び内容を尋ねました。

① 拡大の規模

- ・拡大したい農地のおおよその面積について、一人あたりの平均で現状 498.3a から将来 850.8a まで拡大したい（352.5a 増）との意向を示しています。

拡大の規模

上段：回答数、中段：合計（a）、下段：平均（a）

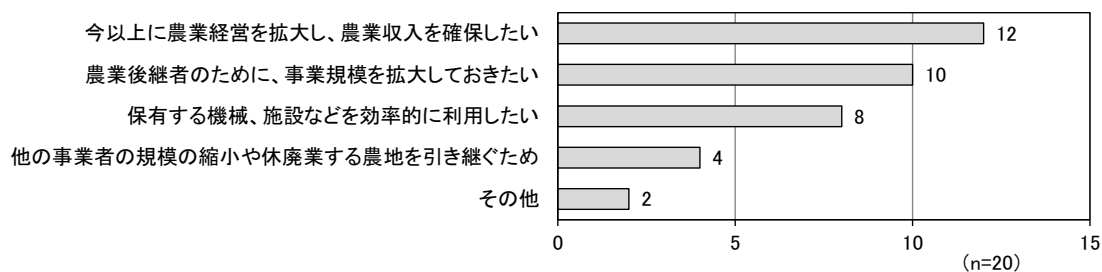
項目	耕地規模		差分
	現状	将来	
拡大意向	19	18	-
	9,467.5 (498.3)	15,315.0 (850.8)	+5,847.5 (+352.5)

※無回答、無効を除く

② 拡大したい理由（複数回答 2 つまで）

- ・拡大したい理由として、「今以上に農業経営を拡大し、農業収入を確保したい」が 12 人と最も多く、次いで「農業後継者のために、事業規模を拡大しておきたい」10 人、「保有する機械、施設などを効率的に利用したい」8 人となります。

拡大したい理由（複数回答）

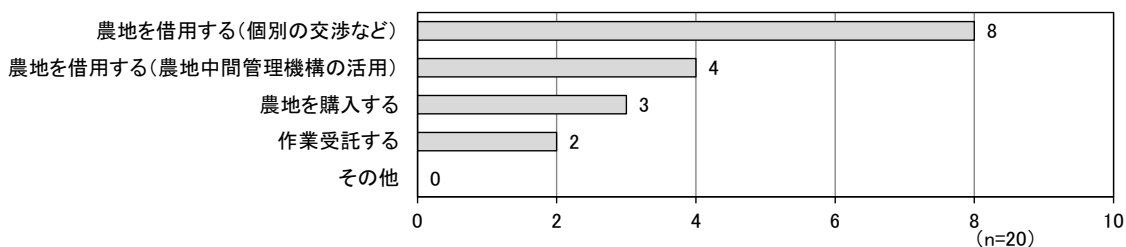


※無回答、無効を除く

③ 拡大する農地の確保の方法

- ・拡大する農地の確保の方法について、「農地を借用する（個別の交渉など）」が 8 人と最も多く、次いで「農地を借用する（農地中間管理機構の活用）」4 人となります。

拡大する農地の確保の方法



※無回答、無効を除く

5) 規模の縮小意向（問 15）

- ・前問（問 13）で「農地規模を縮小したい」「農業をやめたい（休廃業したい）」とする回答者（n=262）について、拡大の意向及び内容を探りました。

① 縮小の規模

- ・縮小したい農地のおおよその面積について、一人あたりの平均で現状 46.1a から将来 8.9a まで縮小したい（37.2a 減）との意向を示しています。

縮小の規模

上段：回答数、中段：合計（a）、下段：平均（a）

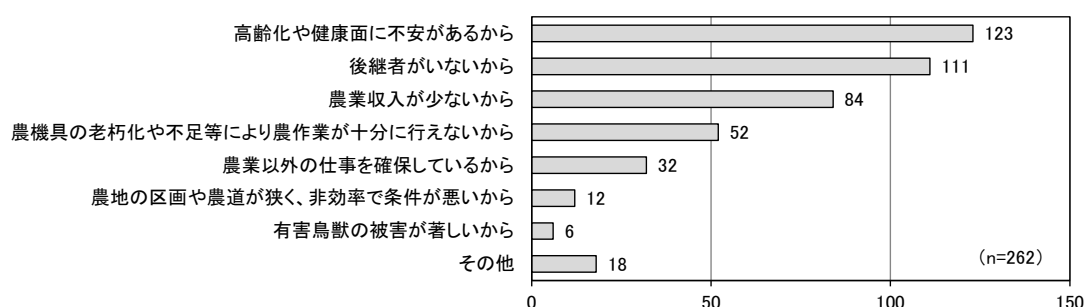
項目	耕地規模		差分
	現状	将来	
縮小意向	204	171	—
	9,410.9	1,519.8	-7,891.1
	(46.1)	(8.9)	(-37.2)

※無回答、無効を除く

② 縮小したい理由（複数回答 2 つまで）

- ・縮小したい理由として、「高齢化や健康面に不安があるから」が 123 人と最も多く、次いで「後継者がいないから」111 人、「農業収入が少ないから」84 人となります。

縮小したい理由（複数回答）

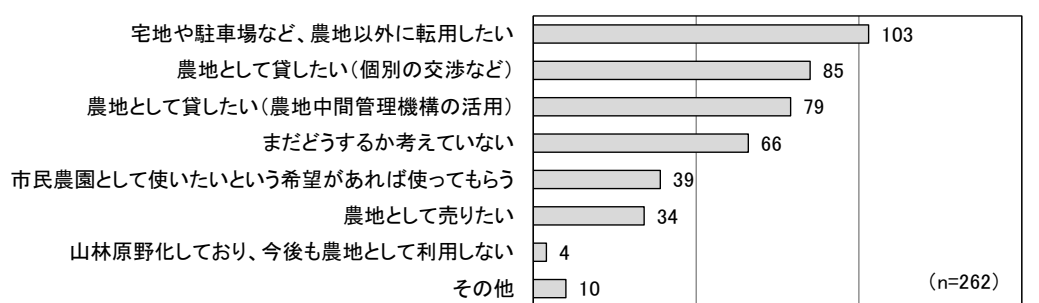


※無回答、無効を除く

③ 縮小する農地の今後（複数回答 3 つまで）

- ・縮小する農地の今後について、「宅地や駐車場など、農地以外に転用したい」が 103 人と最も多く、農地以外の利用に関する意見が挙げられています。
- ・次いで、「農地として貸したい（個別の交渉など）」85 人、「農地として貸したい（農地中間管理機構の活用）」79 人など、農地としての利活用に関する意見が挙げられています。

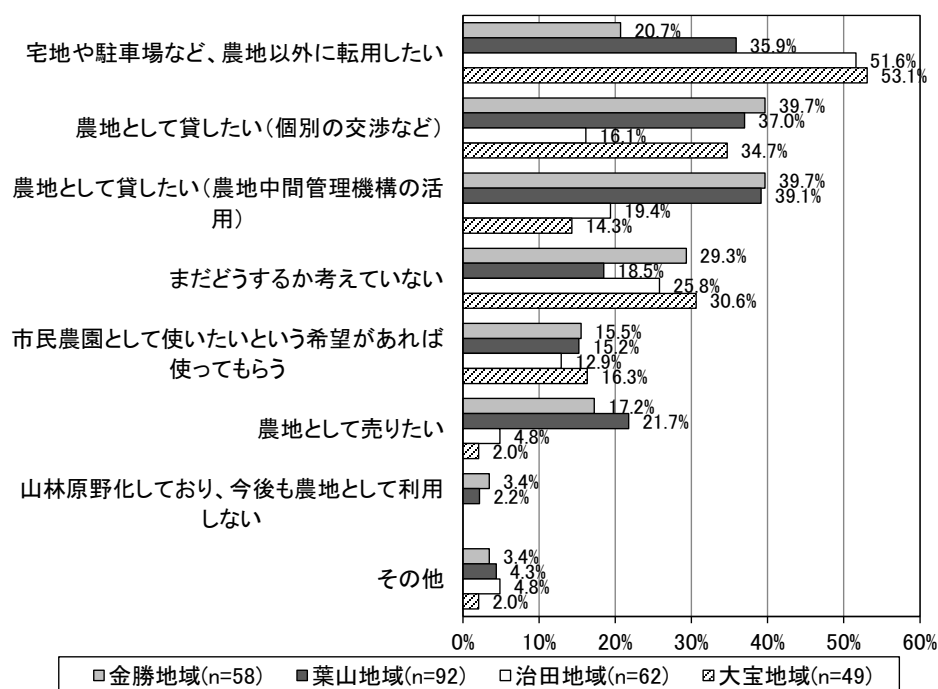
縮小する農地の今後（複数回答）



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域及び葉山地域では農地として貸したい（農地中間管理機構の活用）」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・治田地域及び大宝地域では「宅地や駐車場など、農地以外に転用したい」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

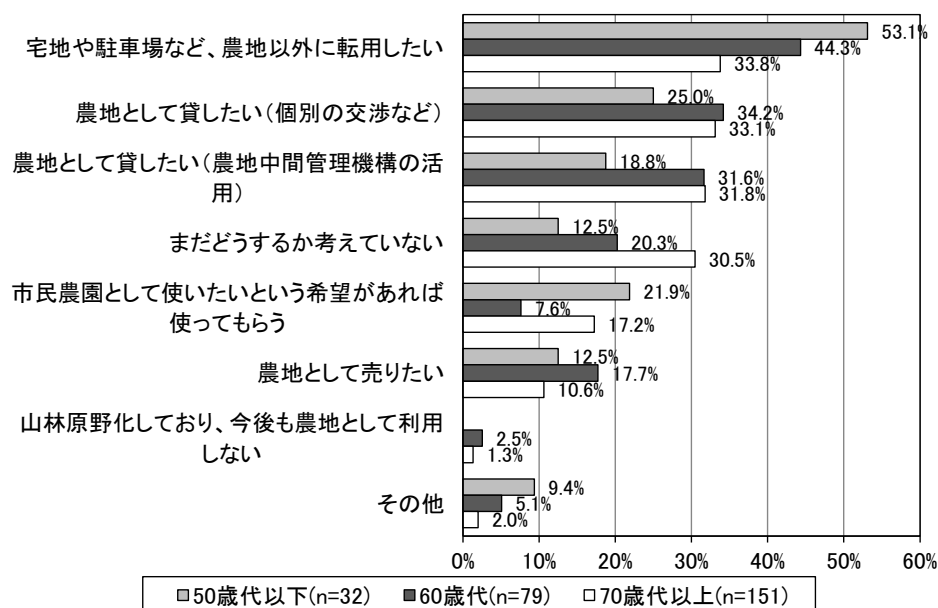
地域区分別 縮小する農地の今後（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、若い年代ほど「宅地や駐車場など、農地以外に転用したい」を挙げる回答者が多くなります。
- ・70歳代以上では、「まだどうするか考えていない」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

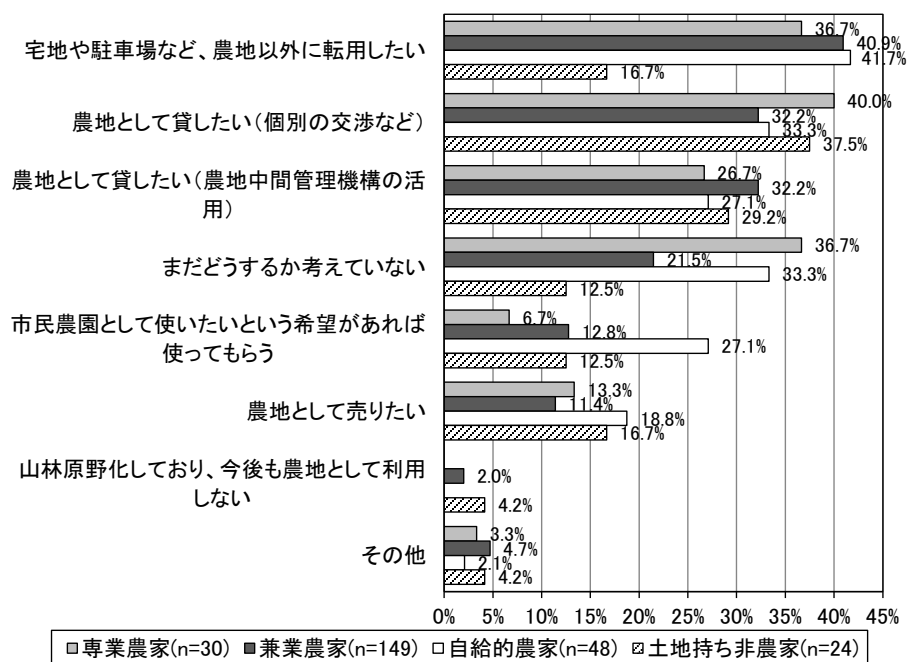
年齢区分別 縮小する農地の今後（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、自給的農家では、「市民農園として使いたいという希望があれば使ってもら」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

経営形態区別 縮小する農地の今後（回答者総数に占める割合）

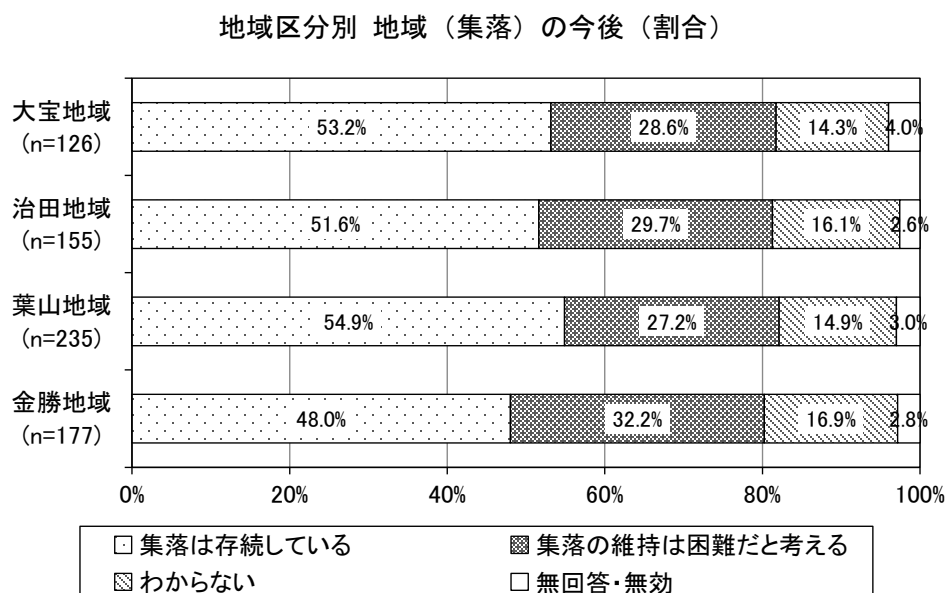
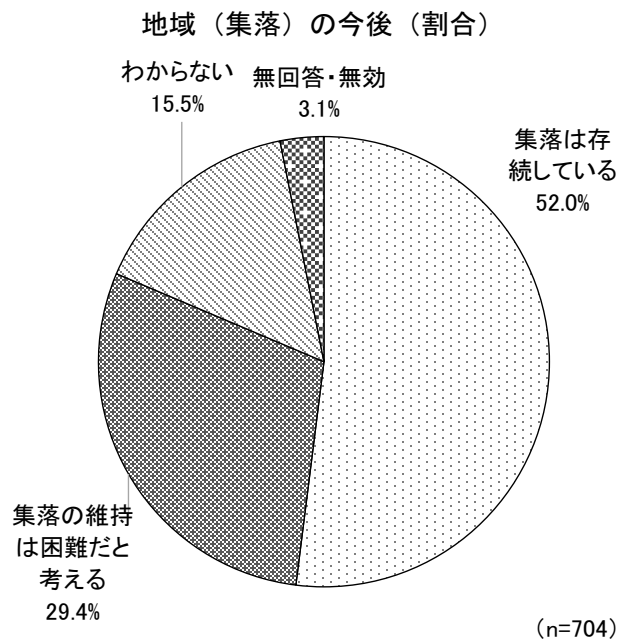


※無回答、無効を除く

（５）栗東市の農業の振興について

１）地域（集落）の今後（問 16）

- ・地域（集落）の 10 年後の姿について、「集落は存続している」が過半数（52.0%）を占め、「集落の維持は困難だと考える」（29.4%）を大きく上回ります。
- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域は「集落の維持は困難だと考える」の割合が最も高く、回答者の 3 割（32.2%）を超えています。



2) 農業振興に向けた取組（問 17 複数回答 3 つまで）

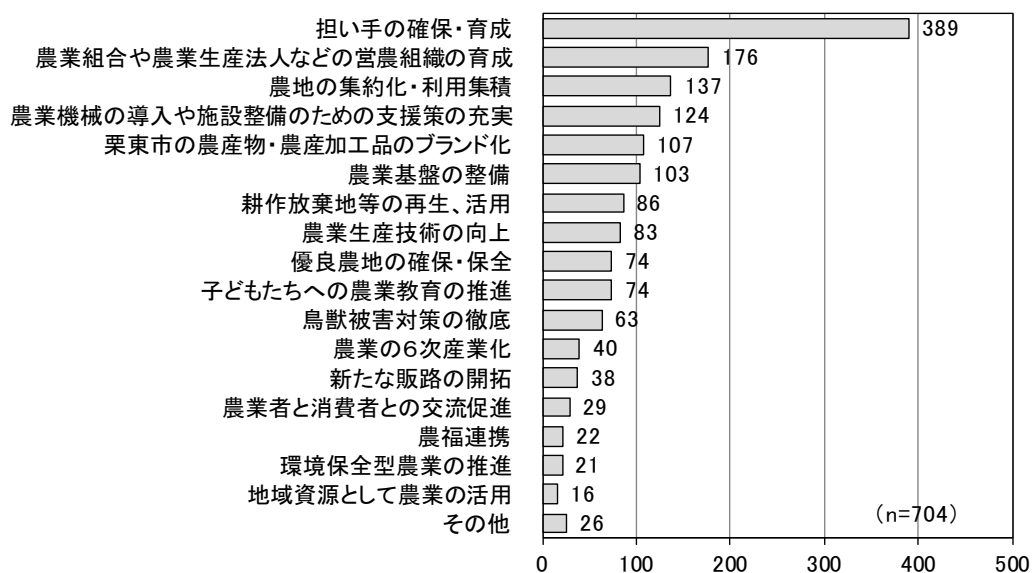
- ・栗東市の農業振興に向けた取組として、「担い手の確保・育成」が 389 人と最も多く、次いで「農業組合や農業生産法人などの営農組織の育成」176 人、「農地の集約化・利用集積」137 人、「農業機械の導入や施設整備のための支援策の充実」124 人となります。

農業振興に向けた取組（複数回答）

項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
担い手の確保・育成	389	96	129	88	71	55	125	206	57	210	61	46
農業組合や農業生産法人などの営農組織の育成	176	43	72	27	32	24	55	96	19	91	32	24
農地の集約化・利用集積	137	16	57	27	36	18	56	62	25	74	19	16
農業機械の導入や施設整備のための支援策の充実	124	37	48	18	20	19	42	62	22	65	16	14
栗東市の農産物・農産加工品のブランド化	107	26	31	27	19	19	24	64	14	61	15	10
農業基盤の整備	103	15	51	13	23	14	32	57	13	61	13	11
耕作放棄地等の再生、活用	86	28	25	22	10	12	29	45	8	38	22	15
農業生産技術の向上	83	27	29	16	10	17	24	41	17	42	12	8
優良農地の確保・保全	74	10	16	21	24	3	27	43	12	40	11	6
子どもたちへの農業教育の推進	74	19	17	23	13	7	18	49	10	33	17	12
鳥獣被害対策の徹底	63	51	2	4	4	5	25	33	12	36	10	3
農業の6次産業化	40	9	21	6	4	7	16	17	5	17	8	8
新たな販路の開拓	38	8	14	6	10	8	8	22	5	20	9	3
農業者と消費者との交流促進	29	8	12	8	1	4	5	20	5	18	4	2
農福連携	22	7	6	2	6	5	6	11	2	12	4	3
環境保全型農業の推進	21	8	8	3	2	3	6	11	3	11	2	2
地域資源として農業の活用	16	2	3	6	5	3	2	11	0	9	6	1
その他	26	6	8	6	6	13	4	9	3	17	4	2
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

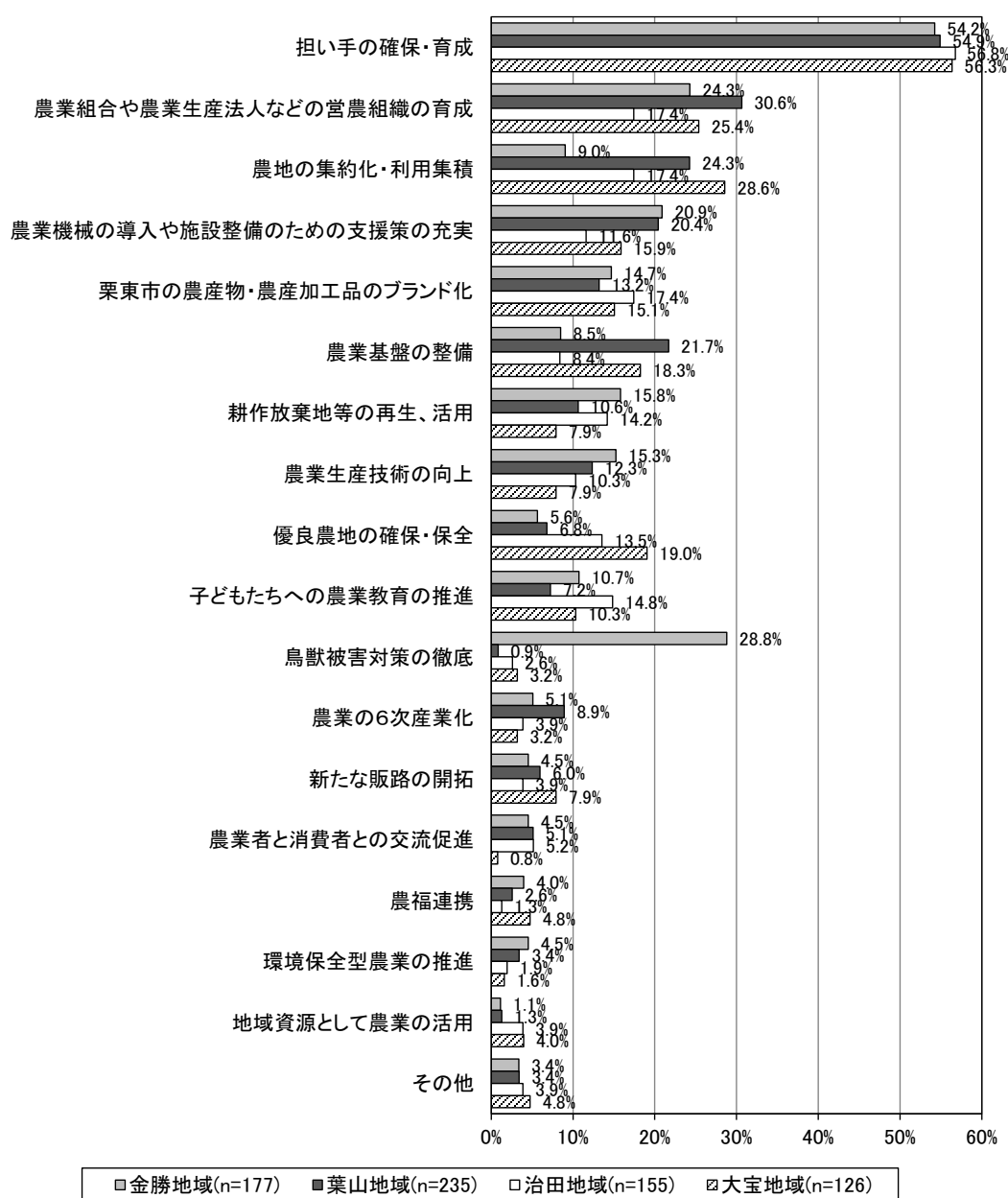
※無回答、無効を除く

農業振興に向けた取組（複数回答）



- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域では「鳥獣被害対策の徹底」を挙げる回答者が他地域と比べて特に多くなります。
- ・葉山地域では、「農業組合や農業生産法人などの営農組織の育成」や「農業基盤の整備」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・治田地域では、「子どもたちへの農業教育の推進」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・大宝地域では、「農地の集約化・利用集積」や「有料農地の確保・保全」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

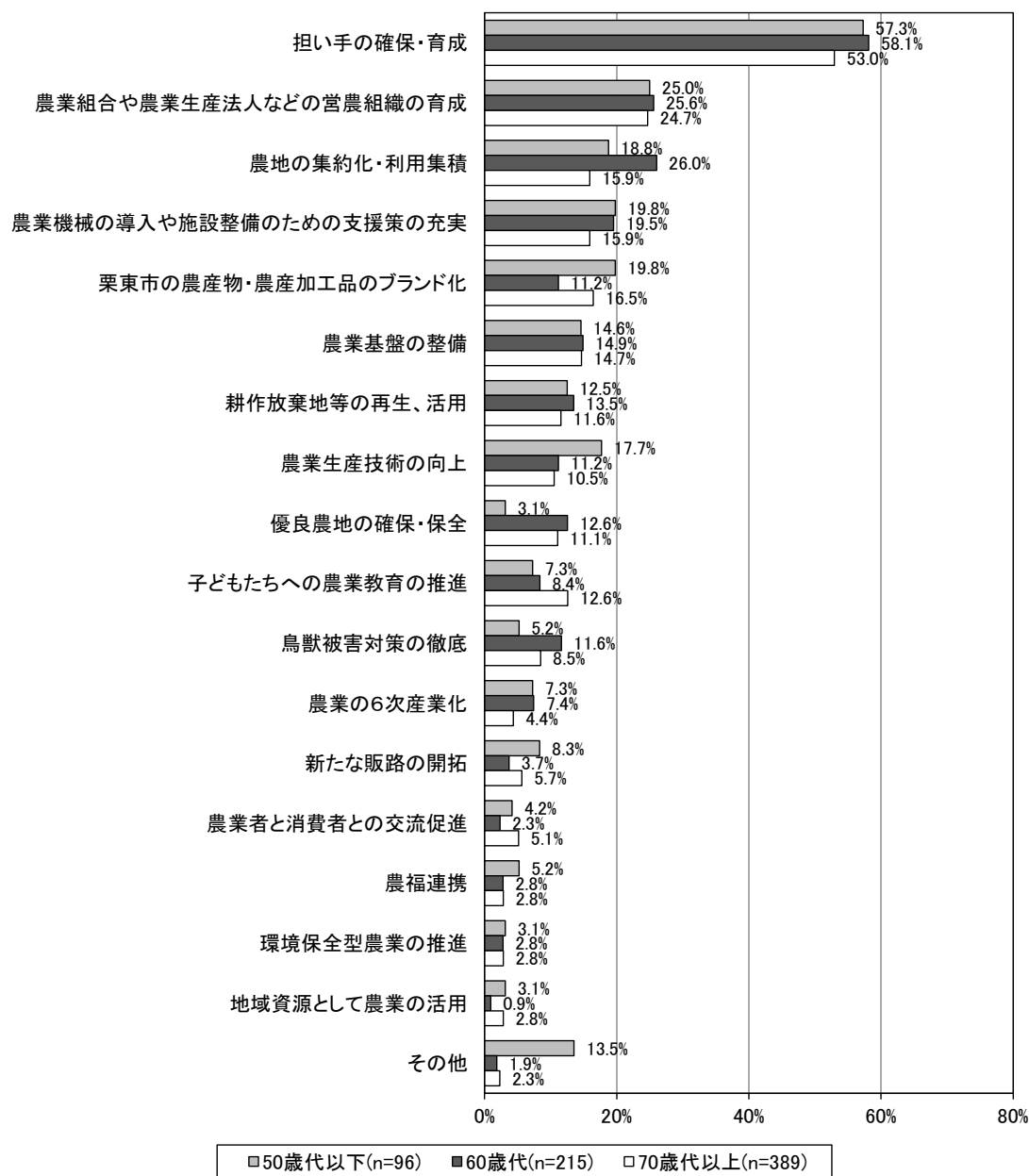
地域区分別 農業振興に向けた取組（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、どの年代も概ね同様の傾向を示していますが、50歳代以下では「農業生産技術の向上」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・また50歳代以下では、その他の意見として、農家の負担軽減や収益確保のための支援などの意見が挙げられています。

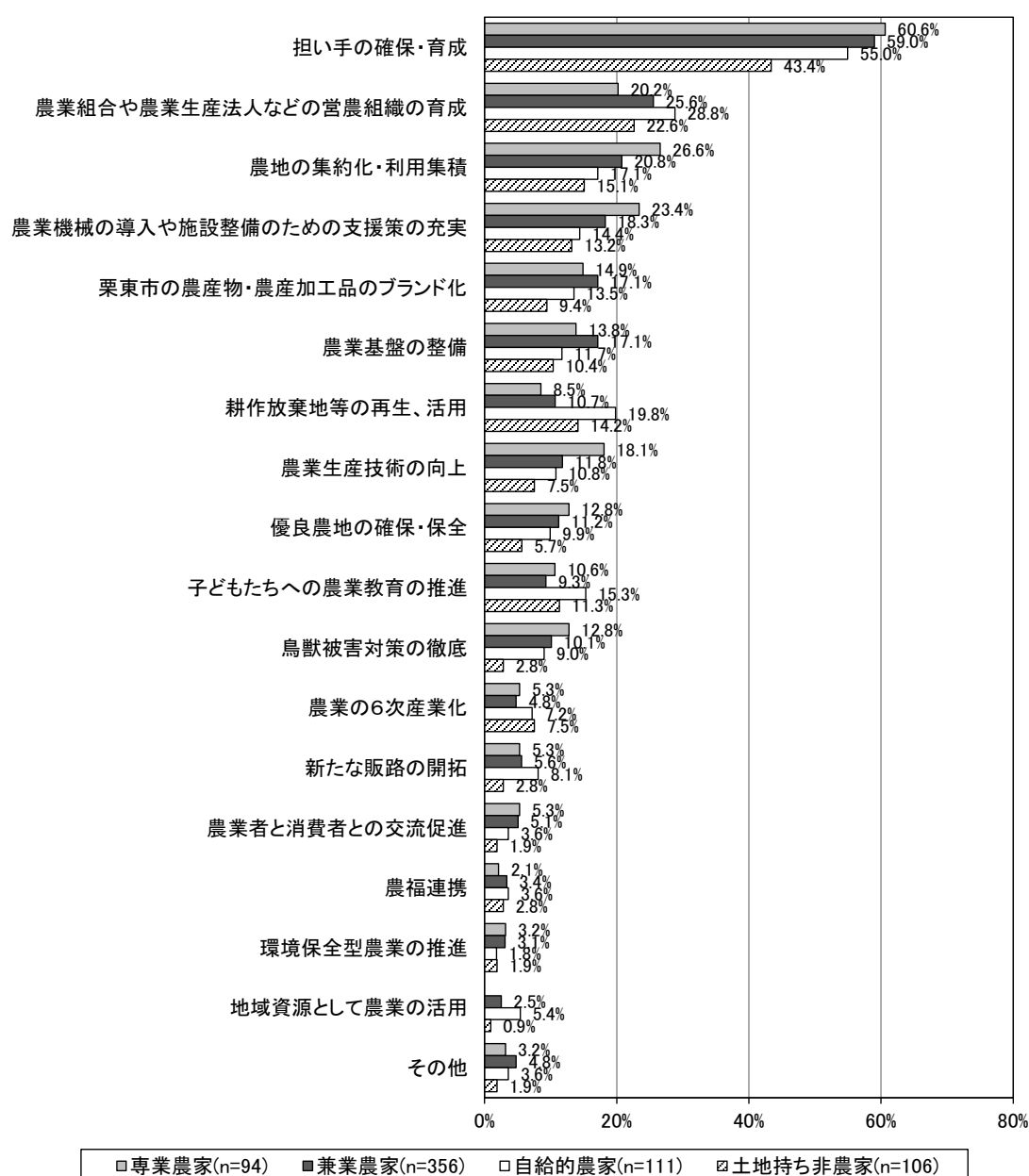
年齢区分別 農業振興に向けた取組（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、どの形態も概ね同様の傾向を示していますが、専業農家では「農地の集約化・利用集積」や「農業機械の導入や施設整備のための支援策の充実」「農業生産技術の向上」などを挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・自給的農家は、「耕作放棄地の再生、活用」や「子どもたちへの農業教育の推進」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

経営形態区分別 農業振興に向けた取組（回答者総数に占める割合）



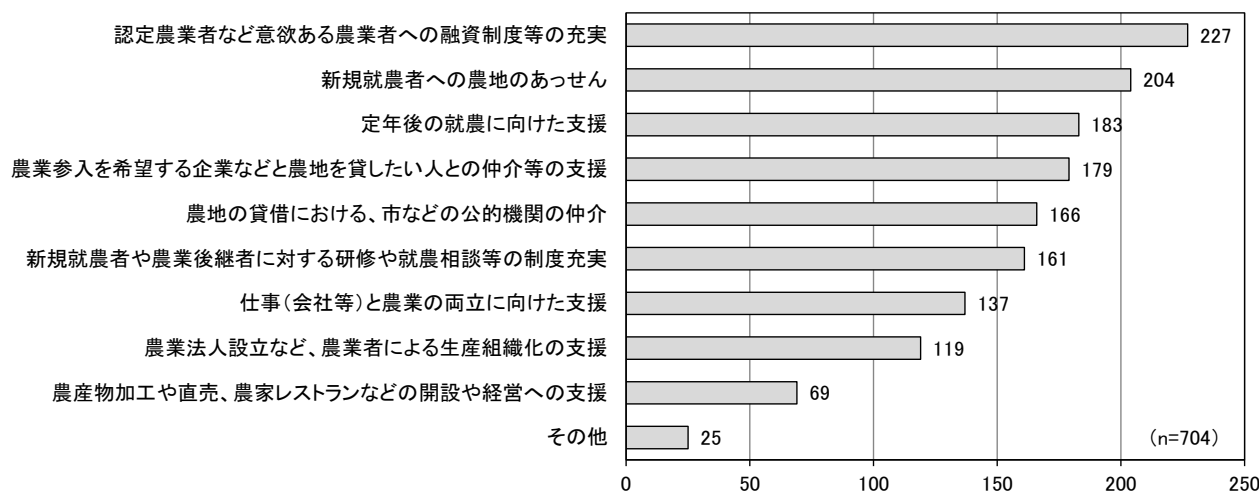
※無回答、無効を除く

3) 担い手の確保・育成に向けた取組（問 18 複数回答 3 つまで）

- ・担い手の確保・育成に向けて重点的に取り組む支援等について、「認定農業者など意欲ある農業者への融資制度等の充実」が 227 人と最も多く、次いで「新規就農者への農地のあつせん」204 人、「定年後の就農に向けた支援」183 人、「農業参入を希望する企業などと農地を貸したい人との仲介等の支援」179 人となります。

担い手の確保・育成に向けた取組（複数回答）

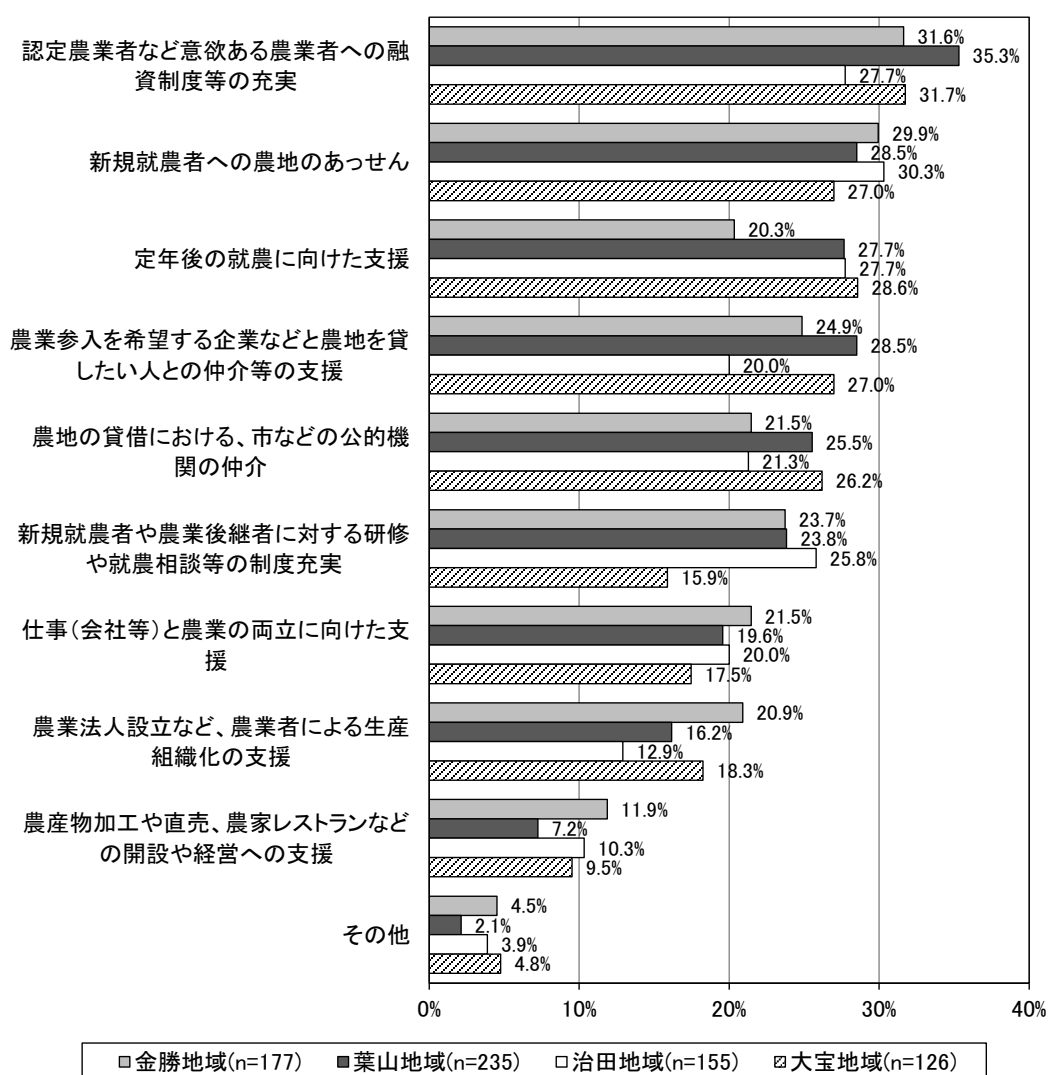
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
認定農業者など意欲ある農業者への融資制度等の充実	227	56	83	43	40	38	78	111	34	112	43	31
新規就農者への農地のあつせん	204	53	67	47	34	26	71	107	27	107	32	32
定年後の就農に向けた支援	183	36	65	43	36	34	55	91	27	111	23	15
農業参入を希望する企業などと農地を貸したい人との仲介等の支援	179	44	67	31	34	21	74	84	23	89	25	32
農地の貸借における、市などの公的機関の仲介	166	38	60	33	33	13	63	90	31	84	28	19
新規就農者や農業後継者に対する研修や就農相談等の制度充実	161	42	56	40	20	19	40	101	18	87	28	20
仕事(会社等)と農業の両立に向けた支援	137	38	46	31	22	33	37	67	16	86	24	6
農業法人設立など、農業者による生産組織化の支援	119	37	38	20	23	18	37	64	20	58	20	14
農産物加工や直売、農家レストランなどの開設や経営への支援	69	21	17	16	12	13	18	37	12	31	11	10
その他	25	8	5	6	6	4	4	16	6	12	2	1
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、金勝地域では「農業法人設立など、農業者による生産組織化の支援」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。
- ・葉山地域では「認定農業者など意欲ある農業者への融資制度等の充実」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

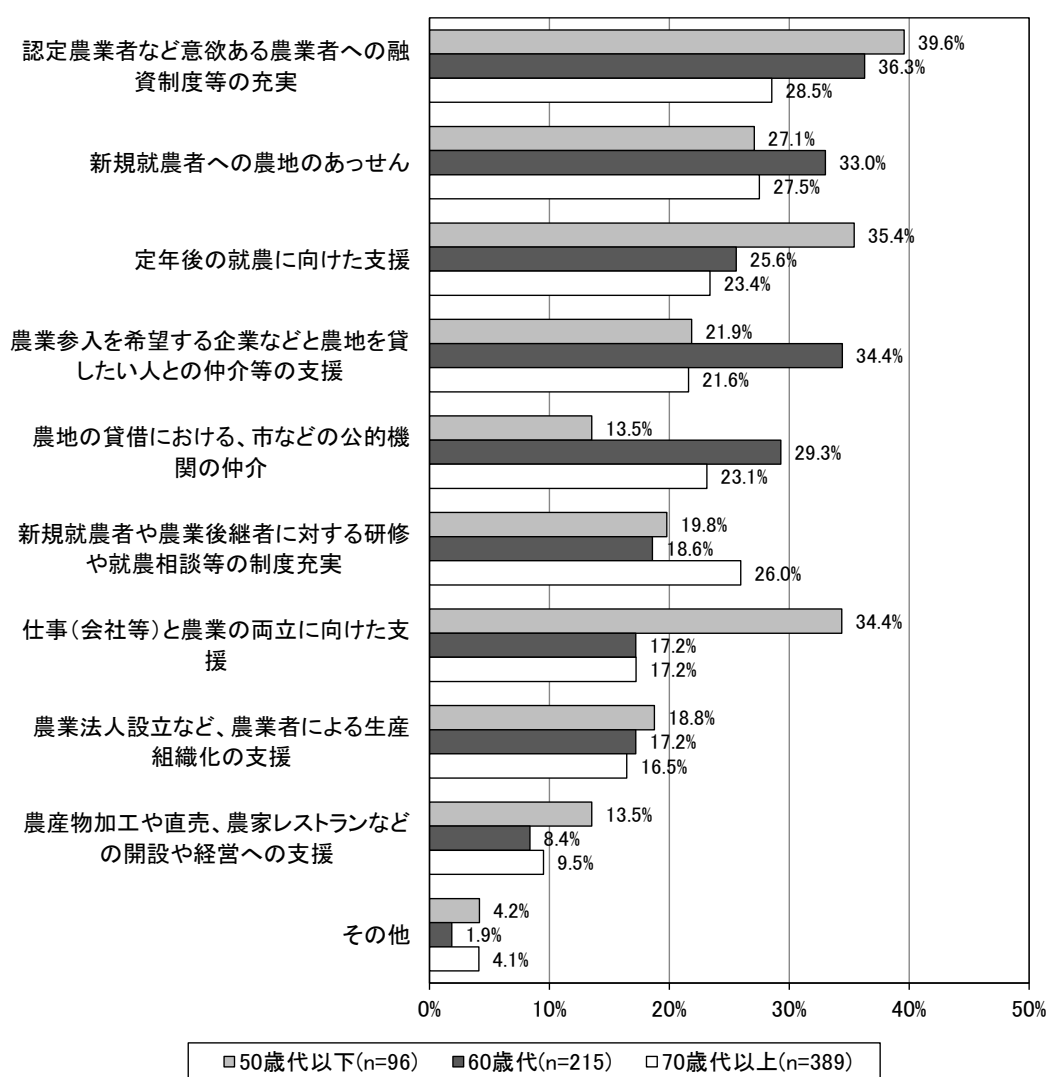
地域区分別 担い手の確保・育成に向けた取組（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、50歳代以下では、「定年後の就農に向けた支援」及び「仕事（会社等）と農業の両立に向けた支援」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・60歳代では、「新規就農者への農地のあっせん」や「農業参入を希望する企業などと農地を貸したい人との仲介等の支援」「農地の貸借における、市などの公的機関の仲介」などを挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・70歳代以上では、「新規就農者や農業後継者に対する研修や就農相談等の制度充実」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

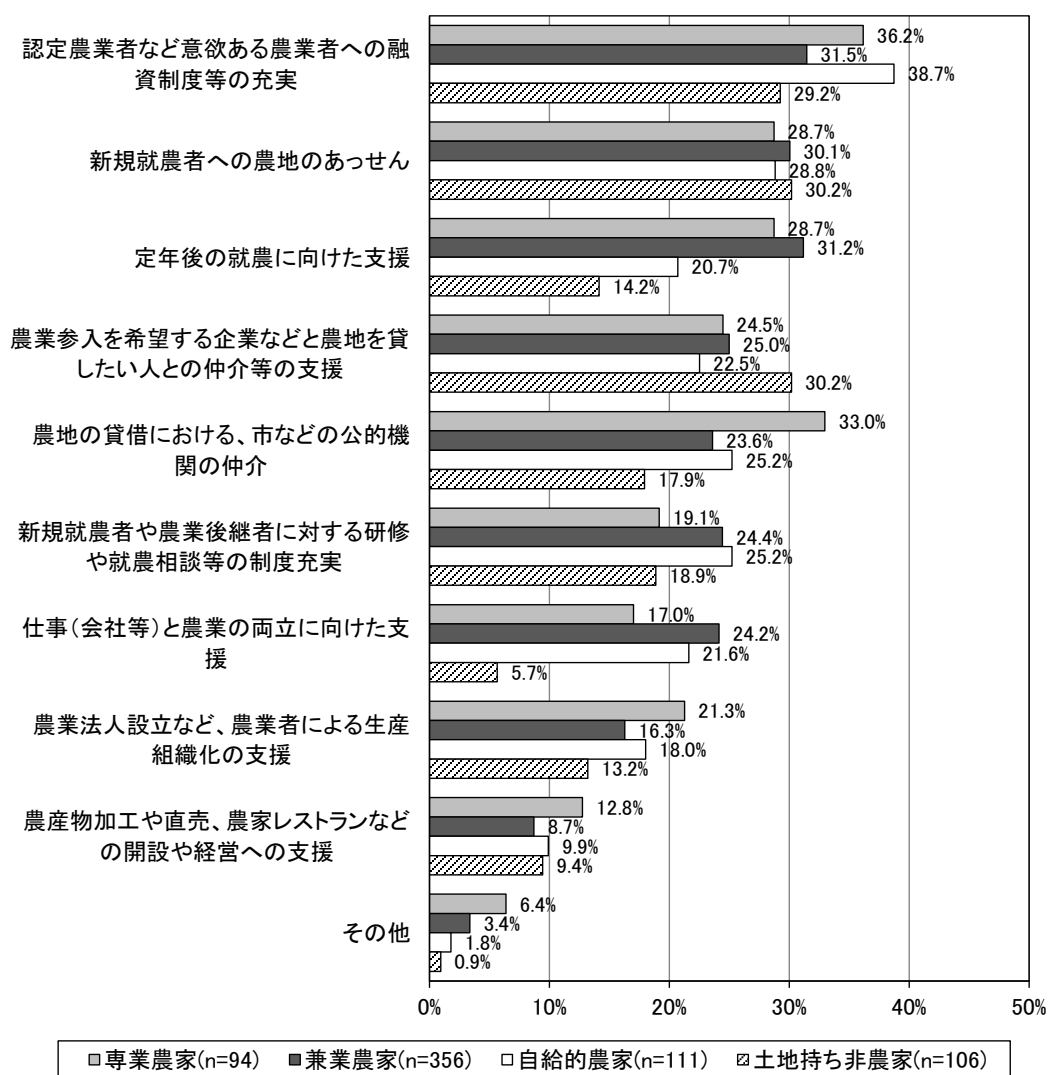
年齢区分別 担い手の確保・育成に向けた取組（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区分別にみると、専業農家では、「農地の貸借における、市などの公的機関の仲介」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・兼業農家及び自給的農家では、「新規就農者や農業後継者に対する研修や就農相談等の制度充実」や「仕事（会社等）と農業の両立に向けた支援」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・土地持ち非農家では、「農業参入を希望する企業などと農地を貸したい人との仲介等の支援」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

経営形態区分別 担い手の確保・育成に向けた取組（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

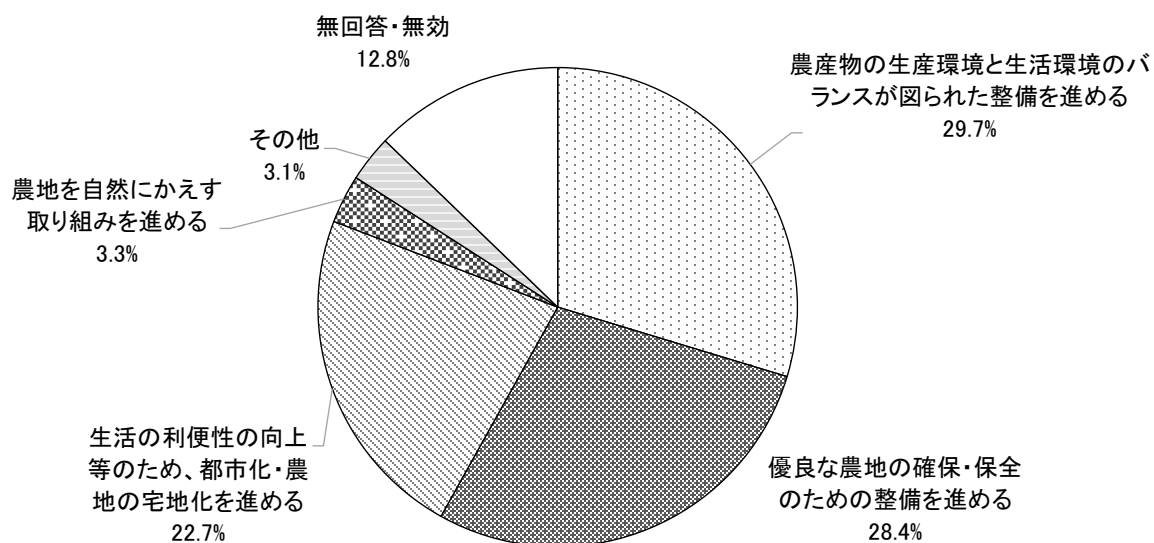
4) 地域（集落）の農地整備の方向性（問 19）

- ・地域（集落）や周辺における農地の整備の将来の方向性として、「農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める」が 209 人（29.7%）と最も多く、次いで「優良な農地の確保・保全のための整備を進める」200 人（28.4%）、「生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める」160 人（22.7%）となります。

地域（集落）の農地整備の方向性

項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める	209	64	64	37	40	34	61	114	34	113	28	23
優良な農地の確保・保全のための整備を進める	200	53	66	45	32	29	70	99	30	101	38	22
生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める	160	24	68	33	33	27	53	80	16	82	27	32
農地を自然にかえす取り組みを進める	23	8	7	6	2	0	5	18	3	11	3	5
その他	22	4	7	7	4	4	6	12	3	14	3	2
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

地域（集落）の農地整備の方向性（割合）

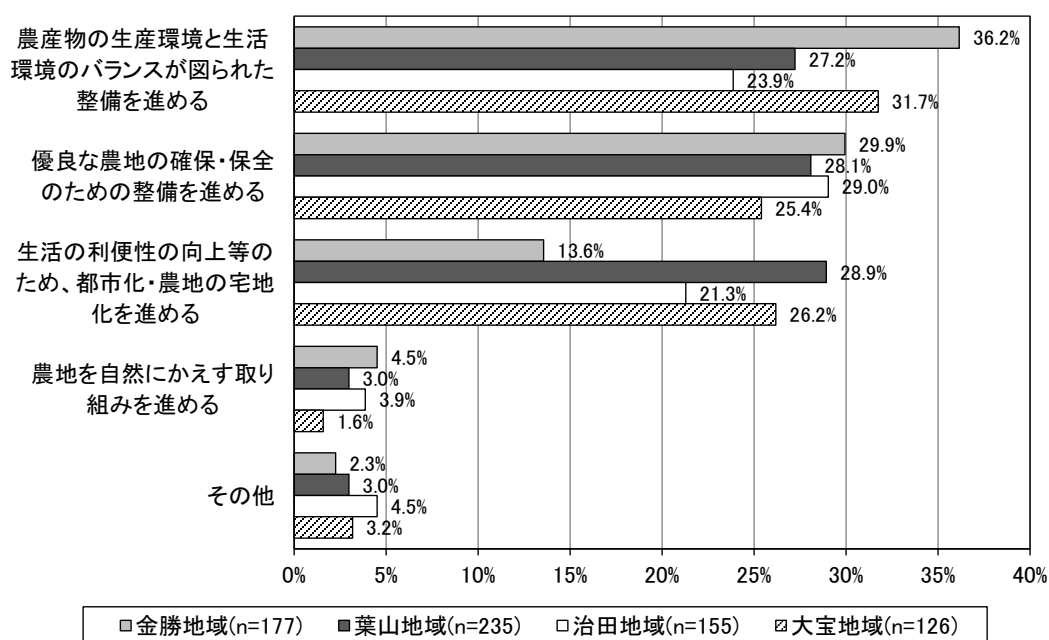


(n=704)

※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別に見ると、金勝地域では「農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなる一方、葉山地域では「生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める」を挙げる回答者が最も多くなります。
- ・治田地域では、「優良な農地の確保・保全のための整備を進める」を挙げる回答者が最も多くなります。

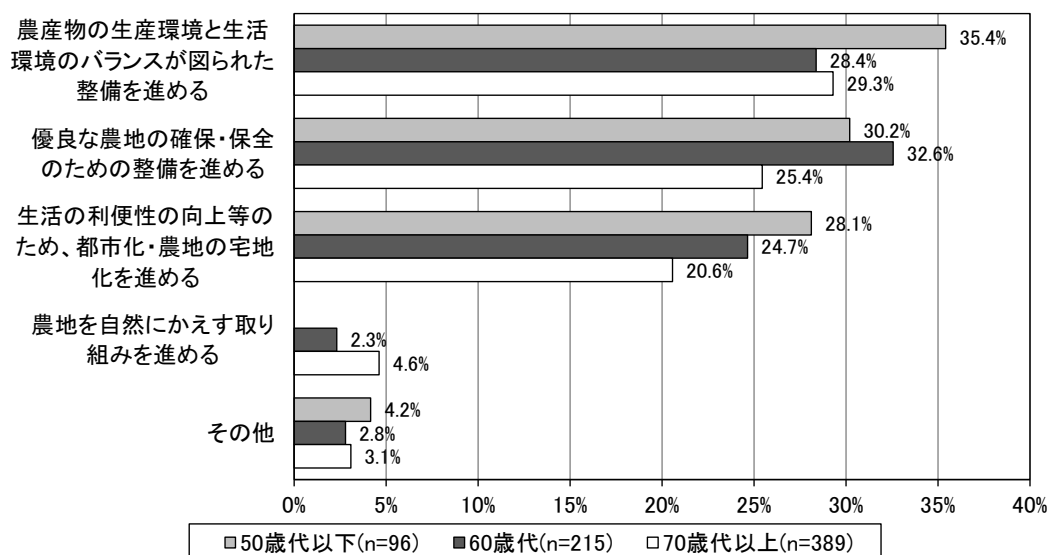
地域区分別 地域（集落）の農地整備の方向性（割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別に見ると、50歳代以下で「農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・また、若い年代ほど「生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める」を挙げる回答が多くなる傾向がみられます。

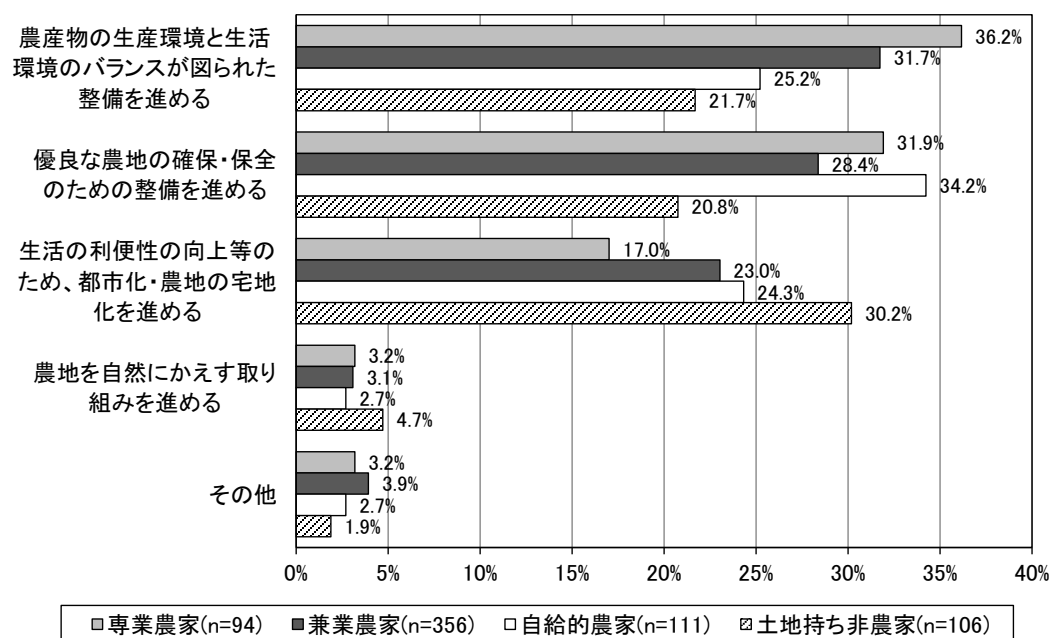
年齢区分別 地域（集落）の農地整備の方向性（割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、専業農家及び兼業農家では、「農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・土地持ち非農家では、「生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

経営形態区分別 地域（集落）の農地整備の方向性（割合）



※無回答、無効を除く

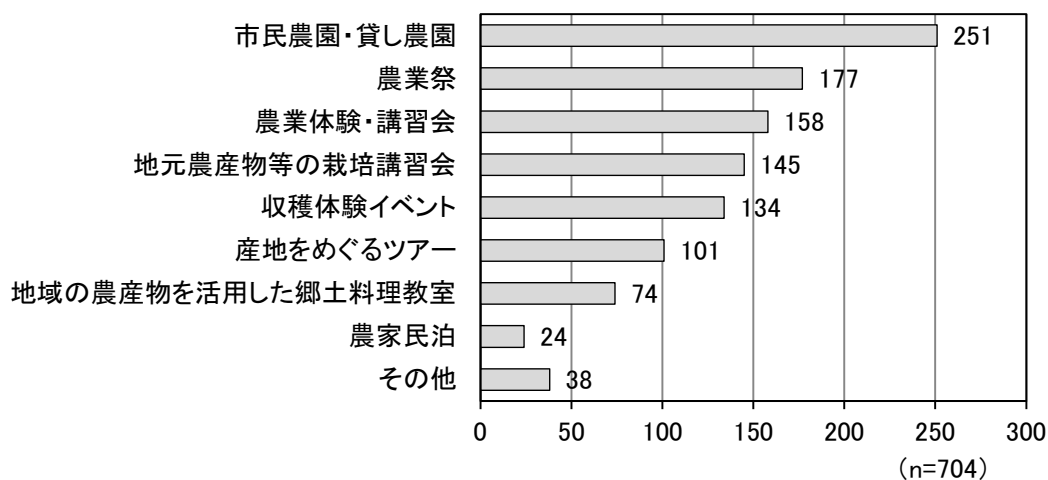
(6) 市民と農業の交流等について

1) 参画してもよいと思う交流、イベント (問 20 複数回答全て)

- ・農業従事者の立場から参画してもよいと思う交流、イベントとして、「市民農園・貸し農園」が 251 人と最も多く挙げられ、次いで「農業祭」177 人、「農業体験・講習会」158 人、「地元農産物等の栽培講習会」145 人、「収穫体験イベント」134 人となります。

参画してもよいと思う交流、イベント

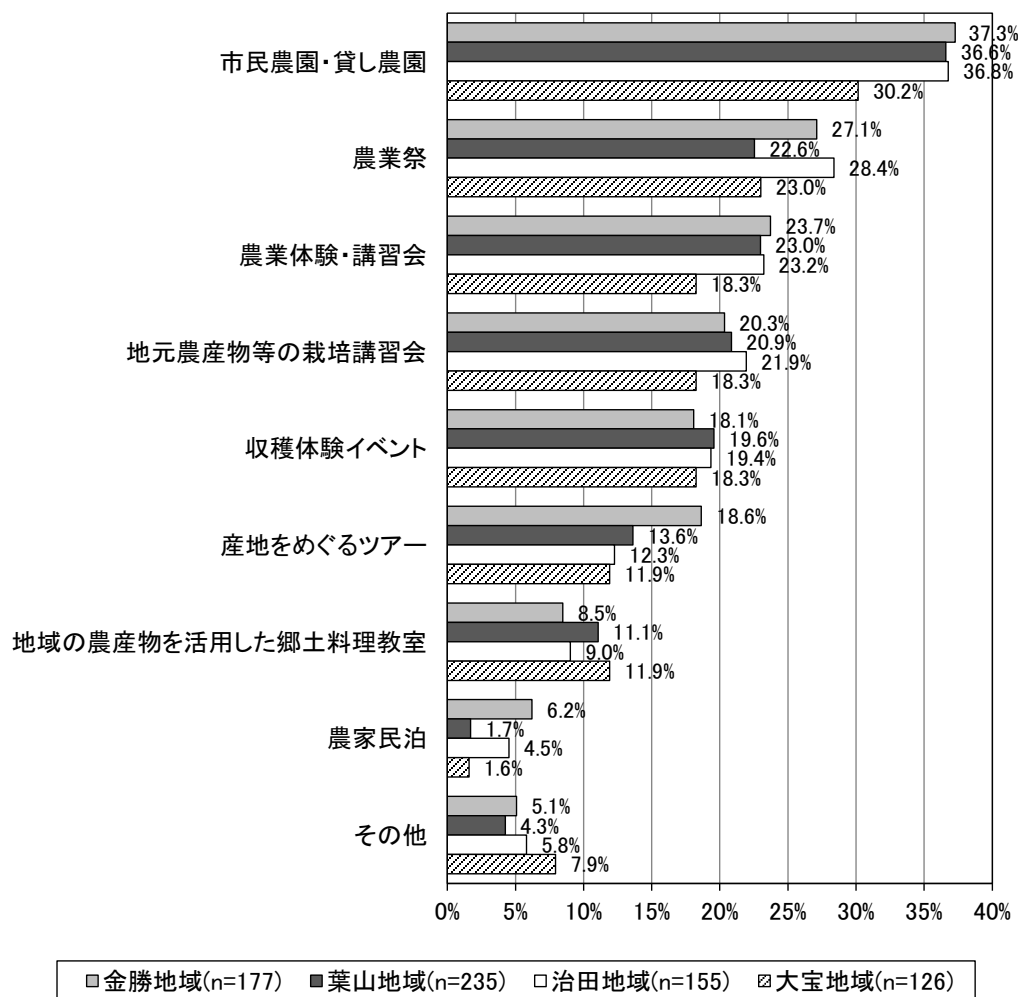
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
市民農園・貸し農園	251	66	86	57	38	37	84	130	31	124	51	34
農業祭	177	48	53	44	29	29	54	93	21	106	29	17
農業体験・講習会	158	42	54	36	23	28	42	87	22	93	28	9
地元農産物等の栽培講習会	145	36	49	34	23	16	38	91	18	82	20	14
収穫体験イベント	134	32	46	30	23	27	48	59	21	65	25	17
産地をめぐるツアー	101	33	32	19	15	13	31	57	16	56	14	13
地域の農産物を活用した郷土料理教室	74	15	26	14	15	12	10	52	12	36	17	7
農家民泊	24	11	4	7	2	2	6	16	7	11	3	1
その他	38	9	10	9	10	10	10	17	7	23	1	4
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示しています。
- ・金勝地域では「産地をめぐるツアー」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

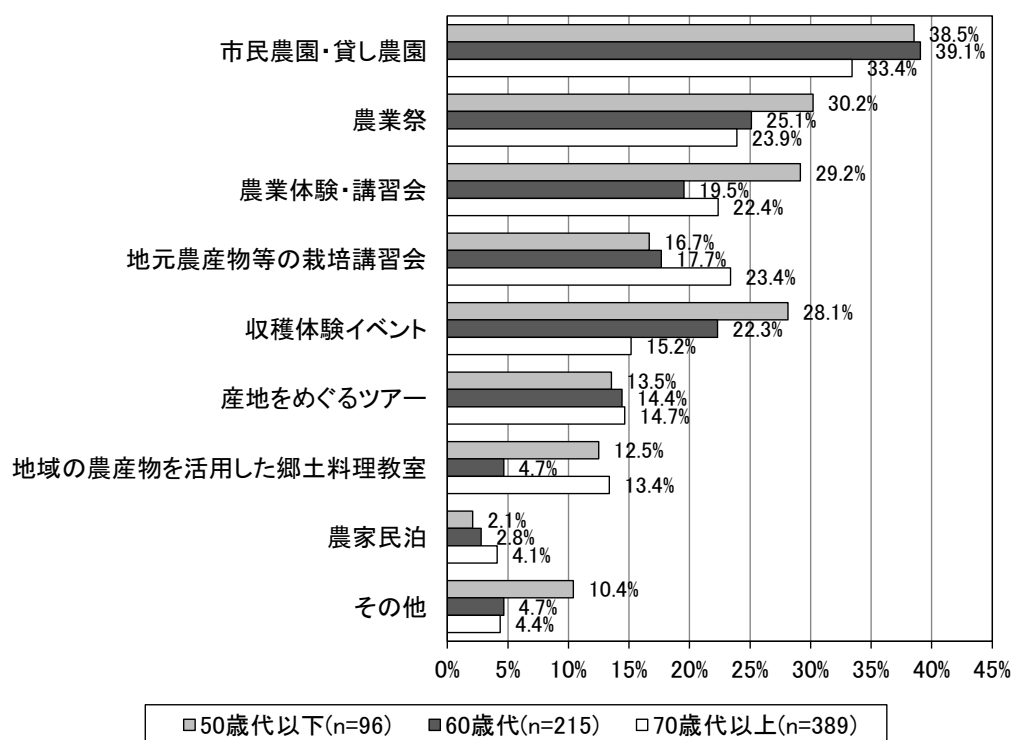
地域区分別 参画してもよいと思う交流、イベント（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

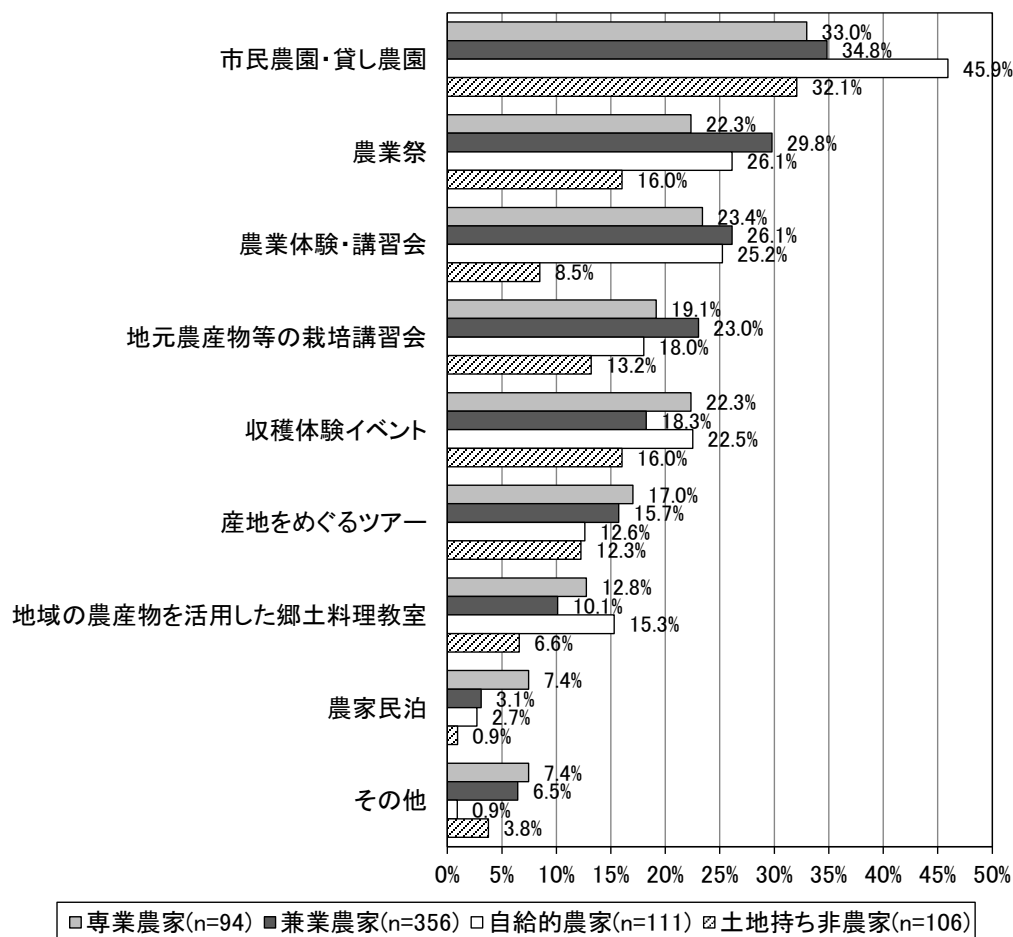
- ・年齢区分別にみると、50 歳代以下では「農業体験・講習会」や「収穫体験イベント」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・70 歳代以上では「地元農産物等の栽培講習会」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。
- ・経営形態区分別にみると、自給的農家では「市民農園・貸し農園」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。

年齢区分別 参画してもよいと思う交流、イベント（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別 参画してもよいと思う交流、イベント（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

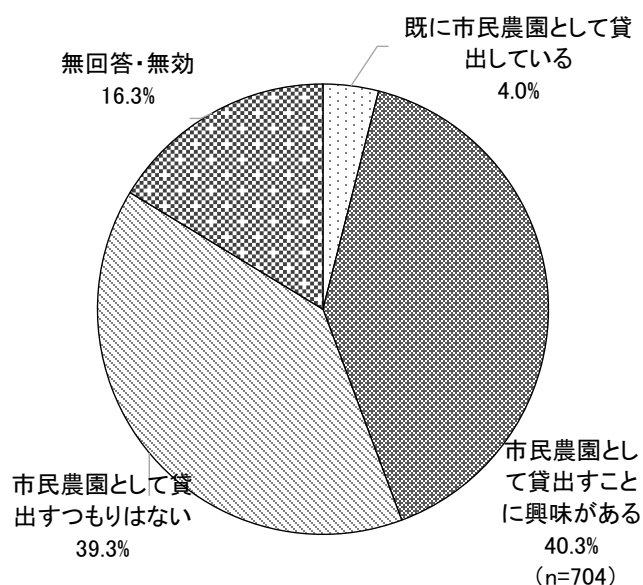
2) 市民農園として農地を貸し出すことについて（問 21）

- ・所有する農地を市民農園として貸し出すことについて、「市民農園として貸出すことに興味がある」が 284 人と最も多く、「既に市民農園として貸出している」28 人と合わせて、回答者の 5 割弱が市民農園に対して肯定的な意見を持っています。

市民農園として農地を貸し出すことについて

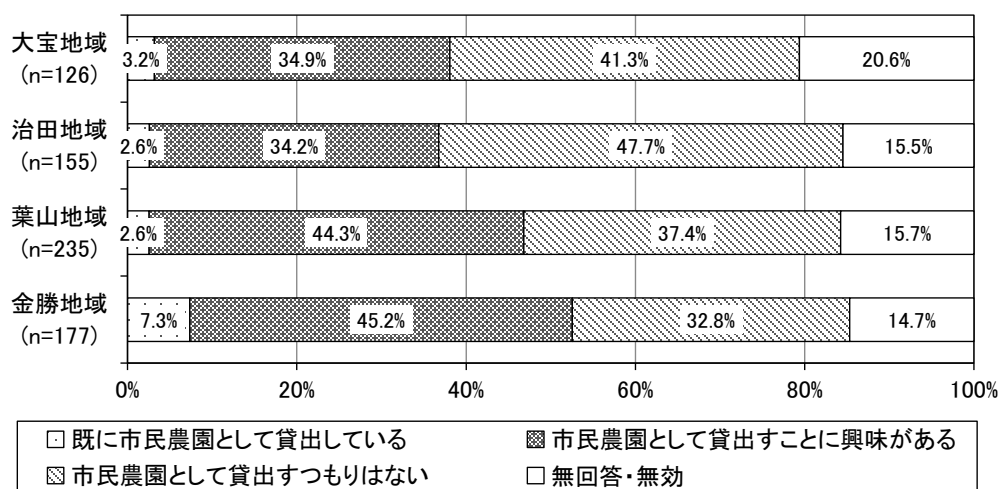
項目	総数	地域区分				年齢区分			経営形態区分			
		金勝地域	葉山地域	治田地域	大宝地域	50 歳代以下	60 歳代	70 歳代以上	専業農家	兼業農家	自給的農家	土地持ち非農家
既に市民農園として貸出している	28	13	6	4	4	7	8	13	4	19	2	3
市民農園として貸出すことに興味がある	284	80	104	53	44	33	89	161	37	141	59	36
市民農園として貸出すつもりはない	277	58	88	74	52	43	88	144	44	151	35	34
無回答・無効	115	26	37	24	26	13	30	71	9	45	15	33
回答者総数	704	177	235	155	126	96	215	389	94	356	111	106

市民農園として農地を貸し出すことについて（割合）



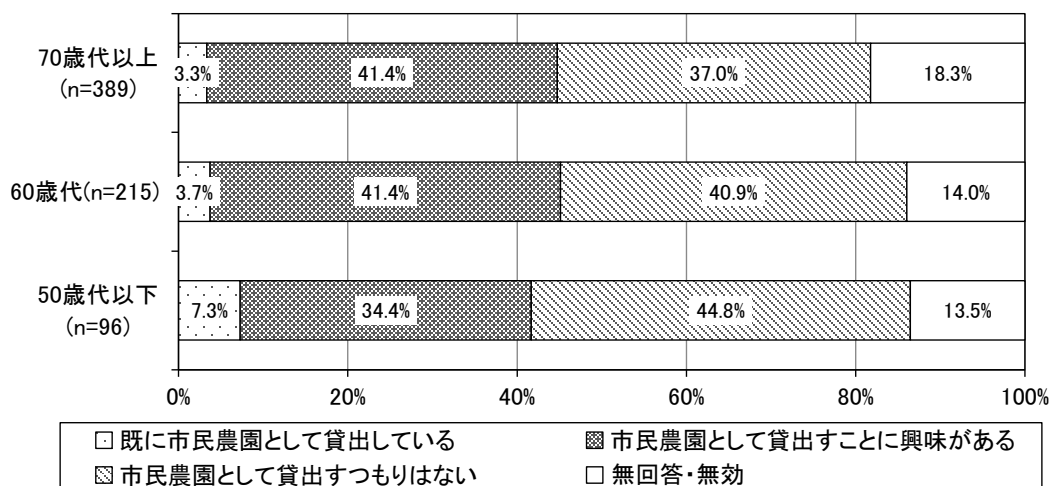
- ・地域区分（居住地）別にみると、金勝地域及び葉山地域では市民農園として貸し出すことについて肯定的な意見が過半数に達するなど、他地域と比べて比較的多くなっています。
- ・年齢区分別にみると、各年代とも市民農園として貸し出すことについて肯定的な意見が 4 割程度となり、どの年代も概ね同様の傾向を示しています。
- ・経営形態区分別にみると、自給的農家では市民農園として貸し出すことについて肯定的な意見が過半数に達し、高い関心が伺えます。

地域区分別 市民農園として農地を貸し出すことについて（割合）



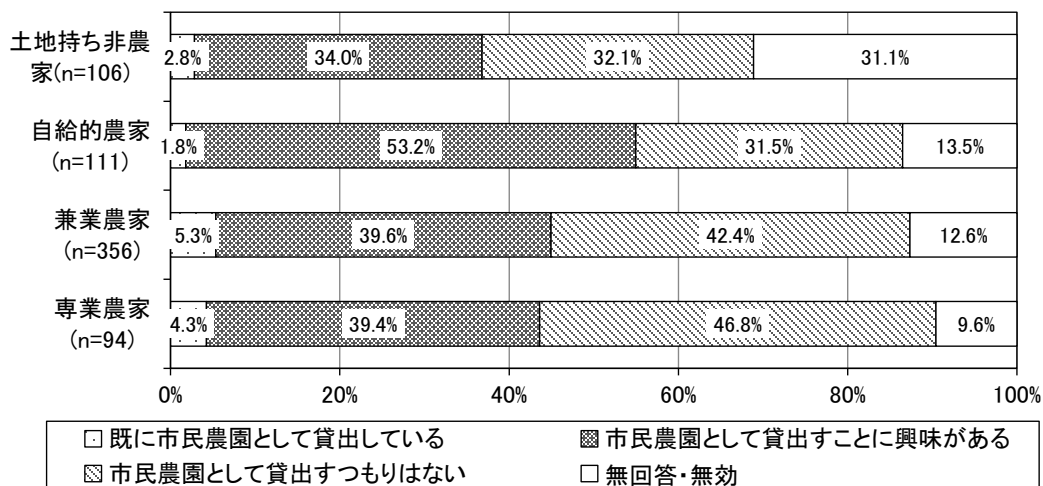
※無回答、無効を除く

年齢区分別 市民農園として農地を貸し出すことについて（割合）



※無回答、無効を除く

経営形態区分別 市民農園として農地を貸し出すことについて（割合）



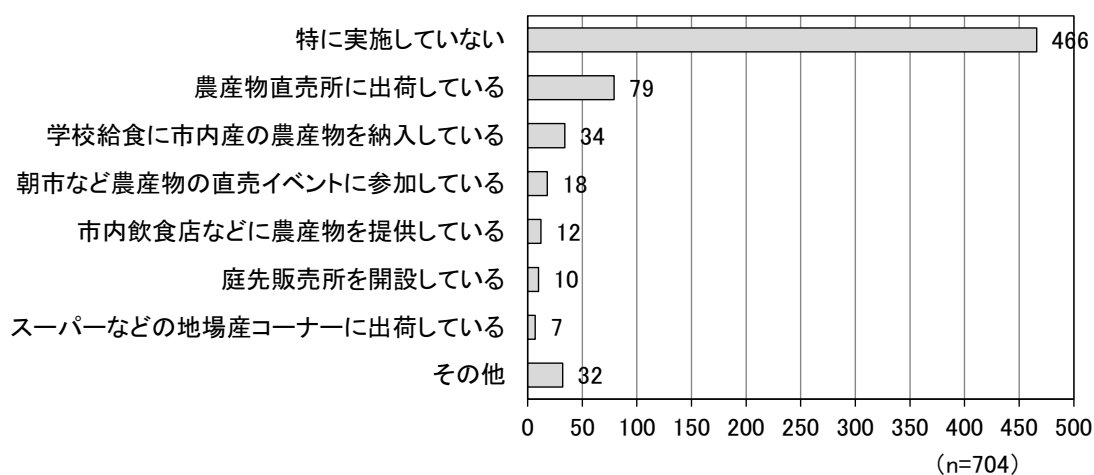
※無回答、無効を除く

3) 地産地消の取組について (問 22)

① 現在実施している地産地消の取組 (複数回答全て)

- ・現在実施している地産地消の取組として、回答者の 7 割近く (466 人) が「特に実施していない」としています。
- ・実施している取組のうち、「農産物直売所に出荷している」が 79 人と最も多く、次いで「学校給食に市内産の農産物を納入している」34 人となります。
- ・その他の意見として、市内の個人に販売等している、などの意見が挙げられています。

現在実施している地産地消の取組 (複数回答)

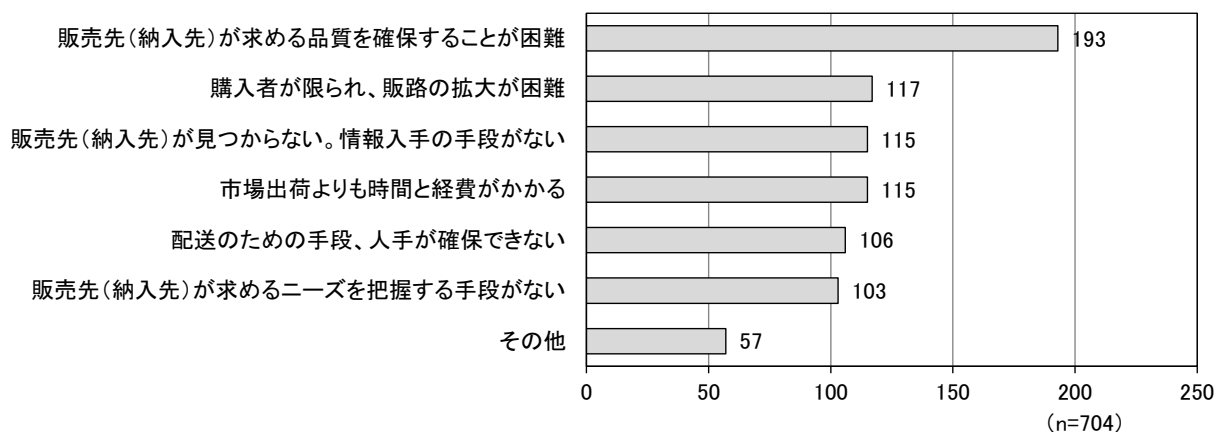


※無回答、無効を除く

② 地産地消の取組の課題 (複数回答 3 つまで)

- ・地産地消の取組を実施または検討するにあたり課題となることについて、「販売先 (納入先) が求める品質を確保することが困難」が 193 人と最も多く、次いで「購入者が限られ、販路の拡大が困難」117 人、「販売先 (納入先) が見つからない。情報入手の手段がない」及び「市場出荷よりも時間と経費がかかる」(ともに 115 人) となります。

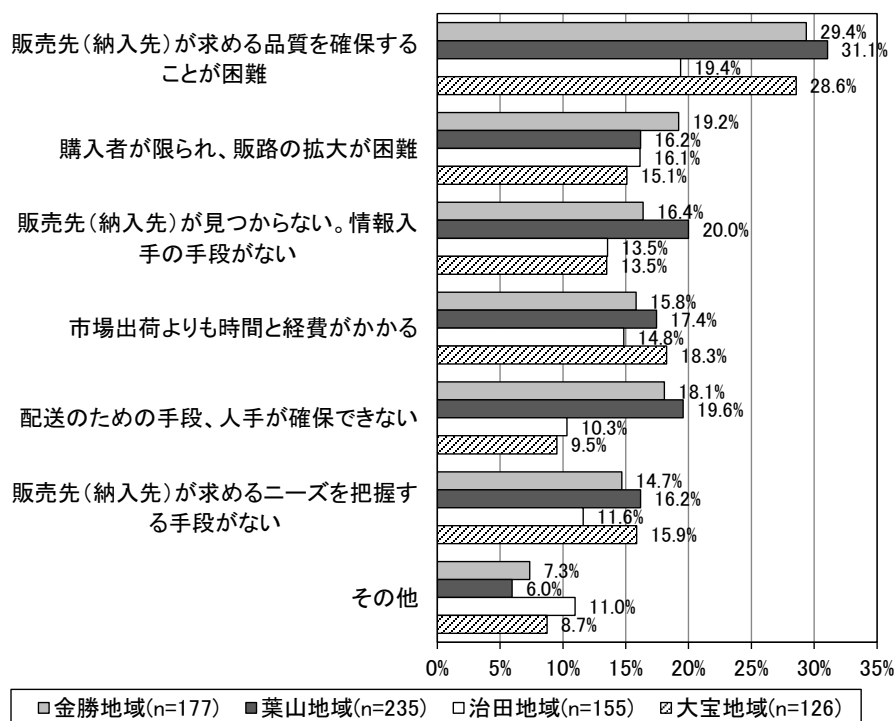
地産地消の取組の課題 (複数回答)



※無回答、無効を除く

- ・地域区分（居住地）別にみると、どの地域も概ね同様の傾向を示していますが、葉山地域では「販売先が見つからない。情報入手の手段がない」を挙げる回答者が他地域と比べて比較的多くなります。

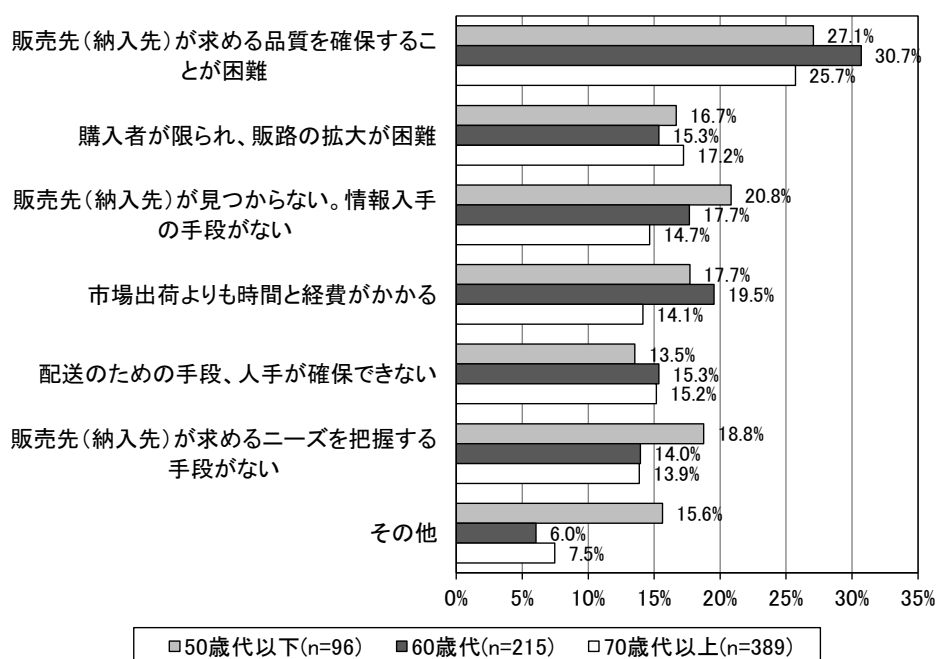
地域区分別 地産地消の取組の課題（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・年齢区分別にみると、どの年代も概ね同様の傾向を示していますが、50歳代以下では、「販売先が見つからない。情報入手の手段がない」や「販売先が求めるニーズを把握する手段がない」を挙げる回答者が他年代と比べて比較的多くなります。

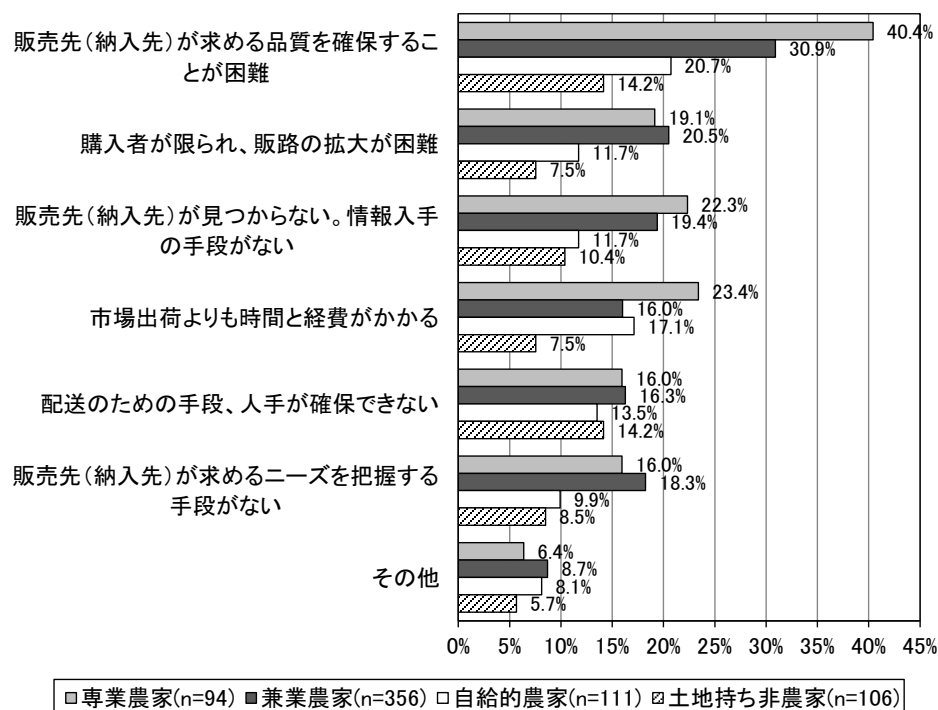
年齢区分別 地産地消の取組の課題（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

- ・経営形態区別にみると、専業農家及び兼業農家ともに、「販売先が求める品質を確保することが困難」を最も多く挙げています。
- ・専業農家では、「市場出荷よりも時間と経費がかかる」を挙げる回答者が他形態と比べて比較的多くなります。
- ・自給的農家及び土地持ち非農家は、各項目に対する回答が専業農家及び兼業農家と比べて全体的に少なくなっています。

経営形態区別 地産地消の取組の課題（回答者総数に占める割合）

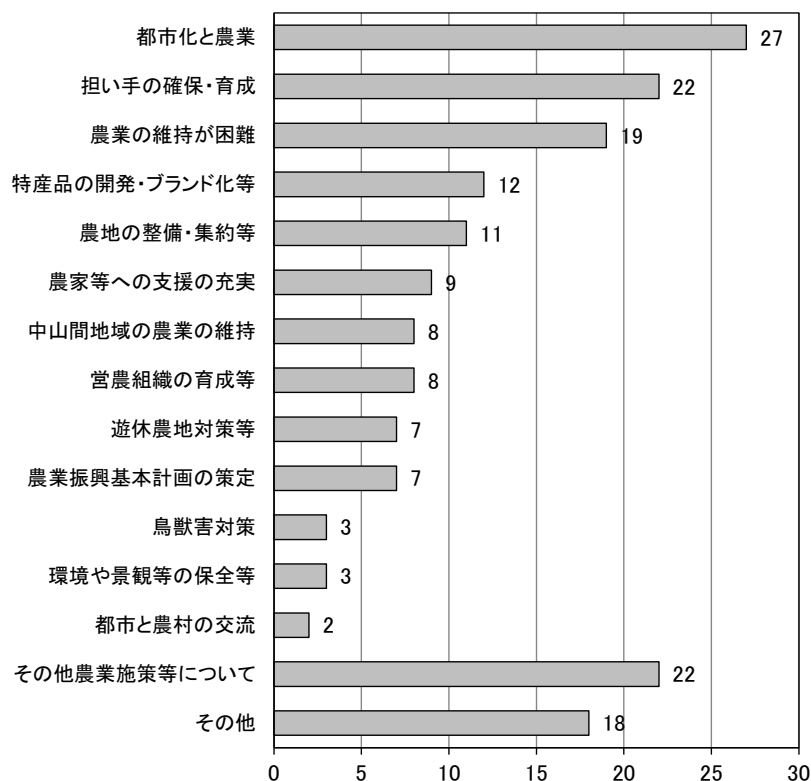


※無回答、無効を除く

（７）栗東市の農業に関する自由意見

- ・栗東市の農業に関する自由意見について、141 件の回答が得られました。
- ・意見の内容に基づく分類をみると、その他に分類される意見を除いて、農地の宅地化や開発に対する危惧や、あるいは地域の活性化のため市街化を進めるべき等の「都市化と農業」に関する意見が 27 件が最も多く挙げられました。
- ・次いで、農業ができなくなった農地の担い手に対する不安や若い世代の参入の必要性などの「担い手の確保・育成」に関する意見（22 件）、農業の収入に対する不満や個人負担の増大の心配などの「農業の維持が困難」とする意見（19 件）などが挙げられました。

栗東市の農業に関する自由意見（内容に基づく分類）



※複数の分類に該当する意見はそれぞれに計上している

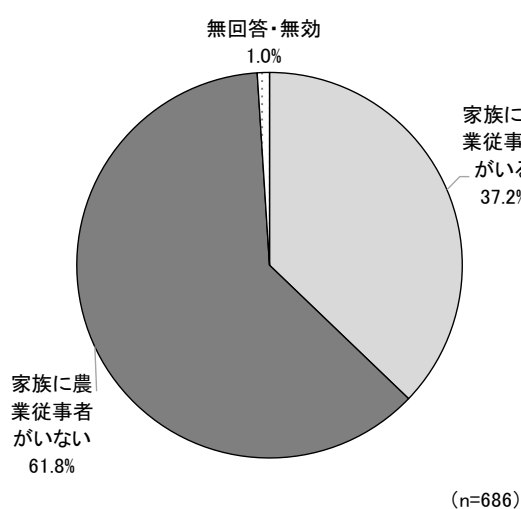
2-3. 中学生アンケート調査結果

(1) 農業との関わりについて

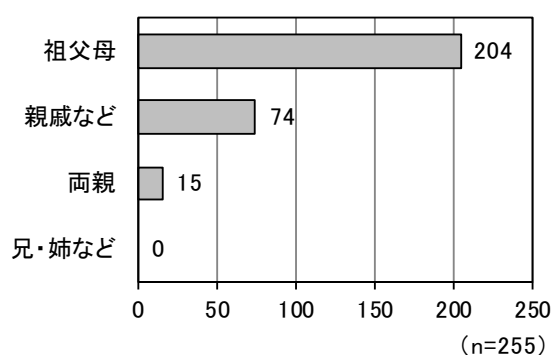
1) 家族の農業従事者の有無（問1）

- ・家族に農業従事者がいる回答者は 225 人（37.2%）となり、具体的には「祖父母」が最も多くあげられています。

家族の農業従事者の有無（割合）



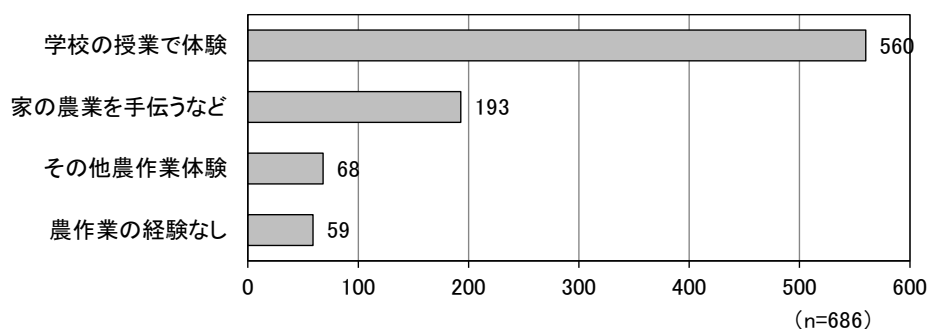
家族の農業従事者（具体的に）（複数回答全て）



2) 農作業の経験（問2 複数回答全て）

- ・農作業の経験の有無として、回答者の 9 割超が経験有りとしており、うち、「学校の授業で体験」が 560 人と最も多く挙げられました。
- ・次いで、「家の農業を手伝うなど」193 人、「その他農作業体験」68 人となります。
- ・その他農業体験の具体として、内の小学生を対象とした JA 栗東市の活動（わんぱくスクール）や幼稚園や保育所での体験、祖父母や友達の家での手伝い・体験などが挙げられました。

農作業の経験（複数回答）



その他農業体験

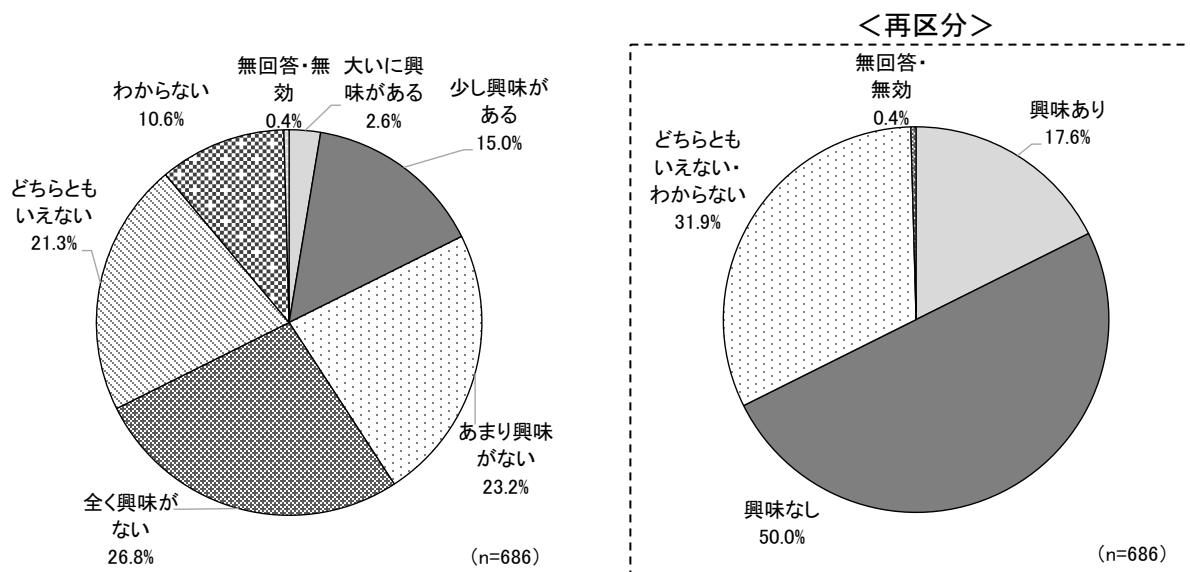
- ・ JA の活動（わんぱくスクール）、幼稚園や保育所での体験、祖父母の家、友達の家など

(2) 農業に対する興味、農業という仕事について

1) 農業に対する興味（問3）

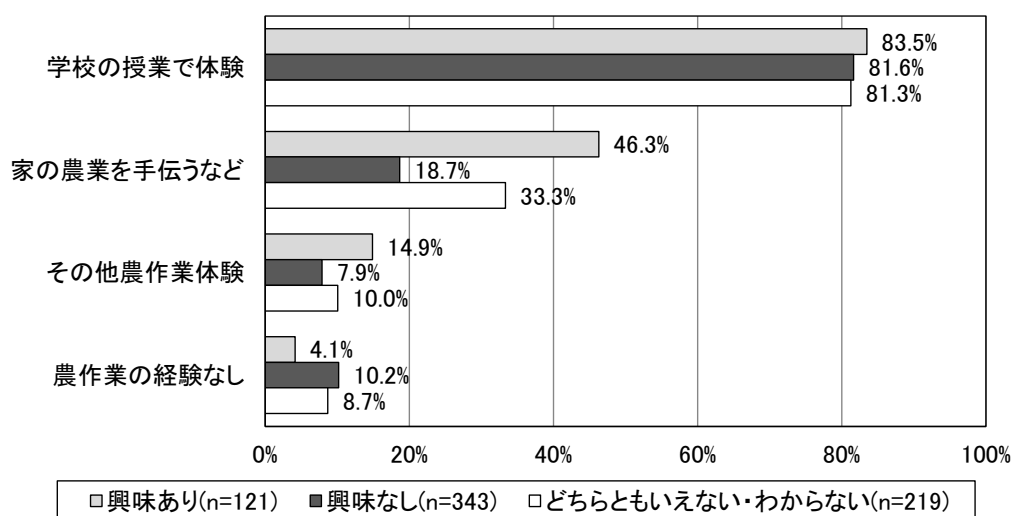
- ・農業に対する興味として「全く興味がない」が184人（26.8%）と最も多く、次いで「あまり興味がない」159人（23.2%）となり、これらを合わせた回答者の半数が農業に興味なしと回答しました。
- ・一方、農業に興味ありとする回答者は、「大いに興味がある」18人（2.6%）及び「少し興味がある」103人（15.0%）をあわせた2割弱に上ります。

農業に対する興味（割合）



- ・農業に対する興味と農作業の経験との相関をみると、「家の農業を手伝うなど」を経験した回答者では、興味ありとの回答が比較的多くなっています。

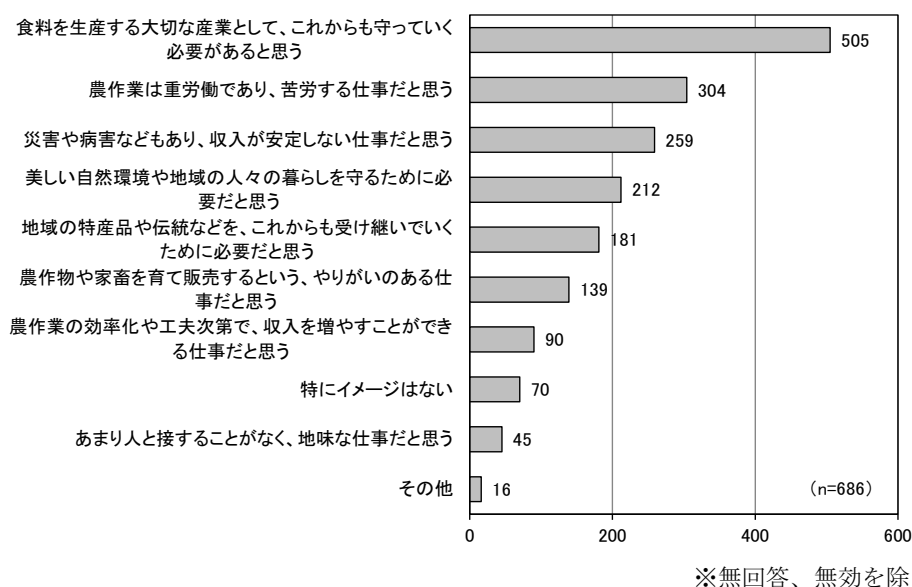
農作業の経験別 農業に対する興味（回答者総数に占める割合）



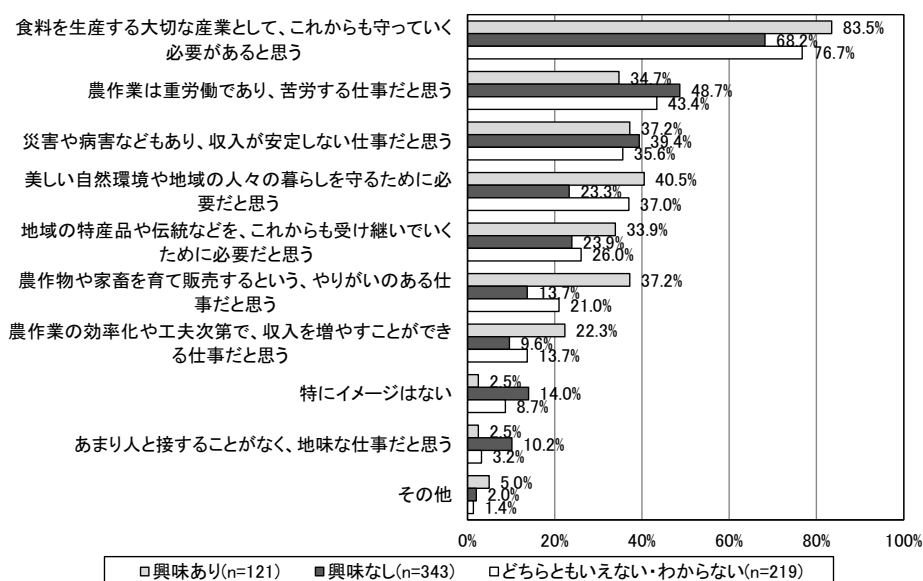
2) 農業という仕事に対するイメージ（問4 複数回答3つまで）

- ・農業という仕事に対するイメージとして、「食料を生産する大切な産業として、これからも守っていく必要があると思う」が 505 人と最も多く、次いで「農作業は重労働であり、苦勞する仕事だと思う」304 人、「災害や病害などもあり、収入が安定しない仕事だと思う」259 人となります。
- ・農業に対する興味別にみると、興味ありとする回答者は、「美しい自然環境や地域の人々の暮らしを守るために必要だと思う」や「地域の特産品や伝統などを、これからも受け継いでいくために必要だと思う」、「農作物や家畜を育て販売するという、やりがいのある仕事だと思う」「農作業の効率化や工夫次第で、収入を増やすことができる仕事だと思う」とする回答が比較的多く挙げられています。
- ・一方、興味なしとする回答者は、「農作業は重労働であり、苦勞する仕事だと思う」とする回答が比較的多く挙げられています。

農業という仕事に対するイメージ（複数回答）



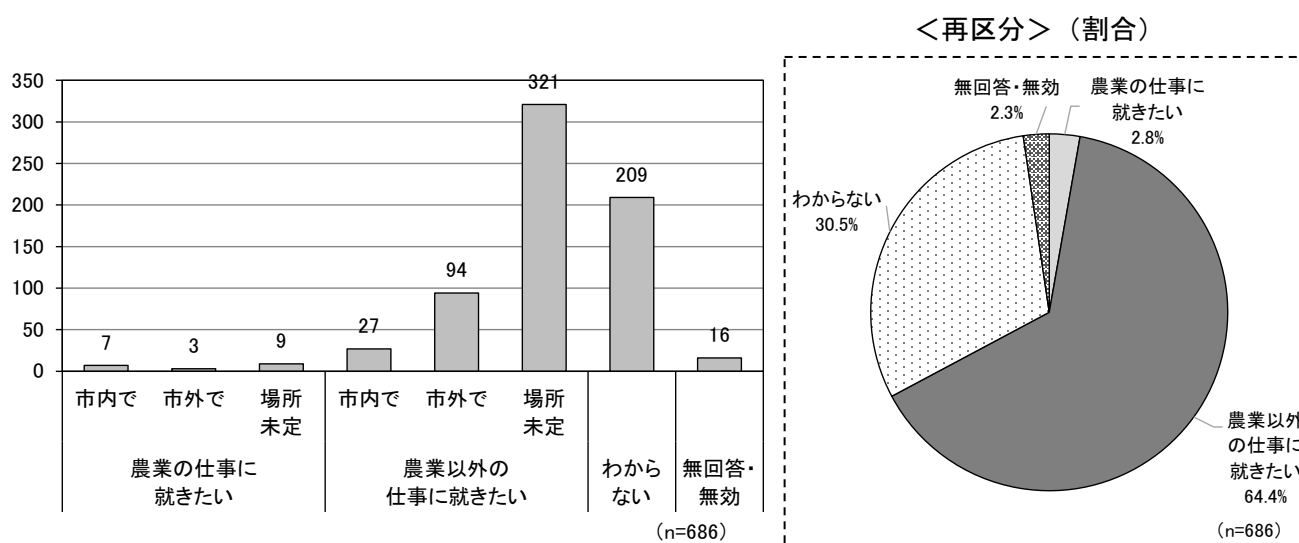
農業に対する興味別 農業という仕事に対するイメージ（回答者総数に占める割合）



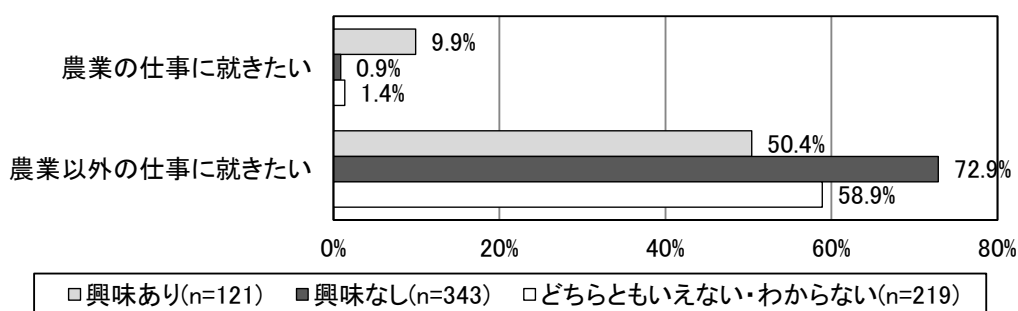
3) 将来農業の仕事に就きたいか（問5）

- ・将来農業の仕事に就きたいかの意向について、「農業以外の仕事に就きたい（場所未定）」が321人と最も多く、次いで「わからない」209人となります。
- ・市内／市外の場所によらず「農業以外の仕事に就きたい」とする回答者は6割強を占める一方、「農業の仕事に就きたい」とする回答者は1割未満（2.8%）にとどまります。
- ・農業に対する興味別にみると、興味ありとする回答者は、「農業の仕事に就きたい」が1割程度にまで増えています。また興味なしとする回答者では、「農業以外の仕事に就きたい」が7割強まで増えています。

将来農業の仕事に就きたいか



農業に対する興味別 将来農業の仕事に就きたいか（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

4) 農業の仕事に就くことについて（問6）

- ・前問（問5）で「農業の仕事に就きたい」とする回答者（n=19）について、その理由及び作ってみたい作物等を尋ねました。

① 農業の仕事に就きたい理由（自由記述）

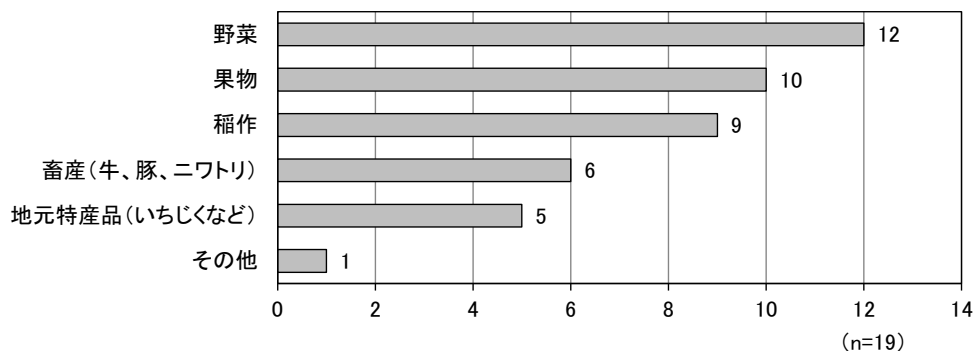
- ・農業の仕事に就きたい理由として、「楽しそうだから」「もうかるから」等の意見が複数挙げられたほか、「自分で作物を育ててみたい」「農家の祖父母の姿にあこがれて」などの意見が挙げられました。

- ・楽しそう、面白そうだから（3件）
- ・もうかるから（2件）
- ・みんなの食事を安定させるため
- ・日本の食糧自給率を少しでも上げたいから。
- ・生活に被害をあたえないようにするため
- ・祖父母、父が農業をしていて野菜を育てる姿を見てあこがれた。人の命の土台となる仕事で人々の役に立つものだと思っているから。
- ・やってみたい
- ・自分で育てたのはおいしいし、もとが取れるから
- ・自分で作った野菜を食べてもらえたりしたらうれしい。作ったかいがありそう。
- ・おいしいから
- ・果物などを育ててる人がどんな苦勞をしているのか体験してみたいから。
- ・主に果物が好きなので果物を地産地消したい。また祖父母の田んぼもやりたい。
- ・それ以外仕事がない可能性が高いから
- ・おばあちゃんとおじいちゃんが昔からずっと田んぼや畑をやっていて、前に手伝ったけどずっとやってられると思ったからです。おばあちゃんとおじいちゃんを手伝いたいです。
- ・作物の研究をしてバイオテクノロジーによって画期的な新品種を作出して世に広めて人々の役に立ちたいから

② 作ってみたい作物等（複数回答全て）

- ・作ってみたい作物等として、「野菜」が12人と最も多く、次いで「果物」10人、稲作「9人」となります。

作ってみたい作物等（複数回答）

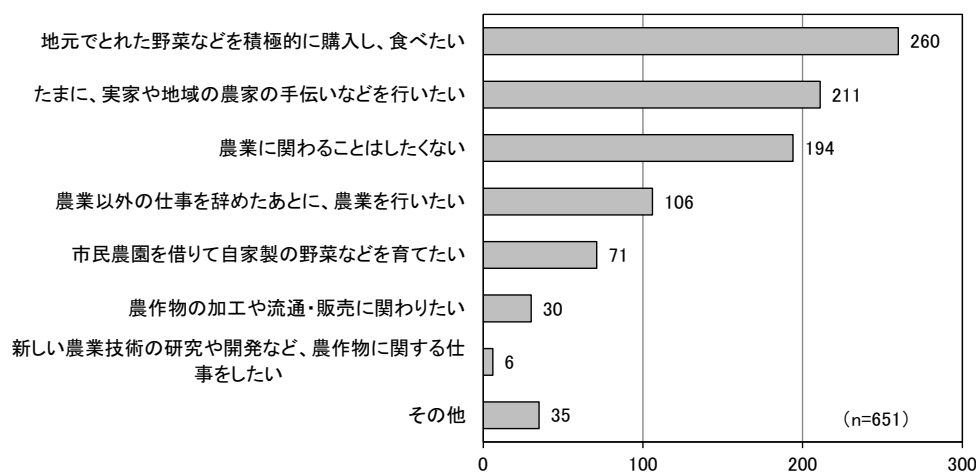


※無回答、無効を除く

5) 将来の農業との関わりについて（問7 複数回答全て）

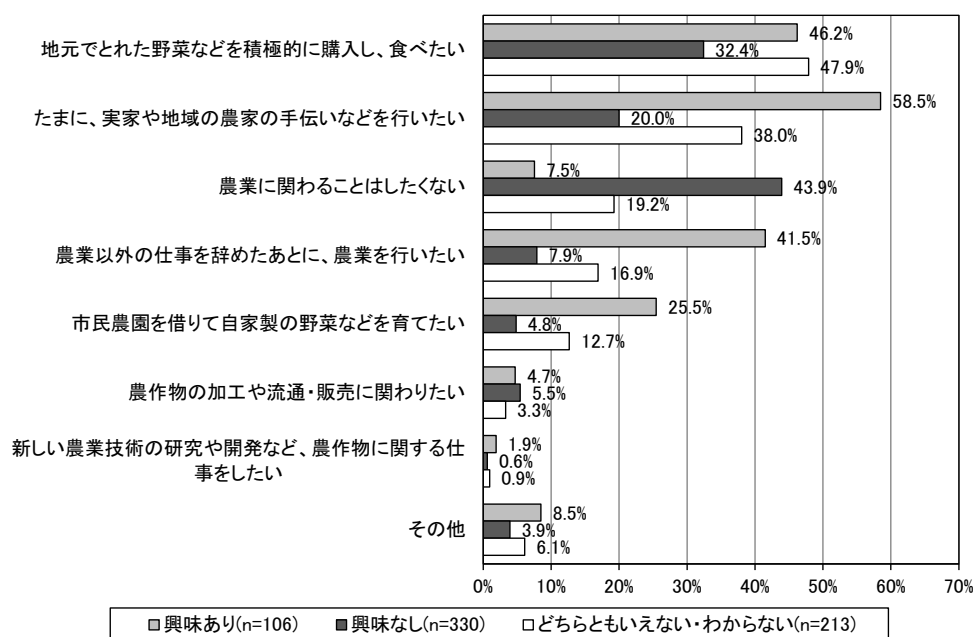
- ・前問（問5）で「農業以外の仕事に就きたい」「わからない」とする回答者（n=651）について、将来の農業との関わりについて尋ねました。
- ・「地元でとれた野菜などを積極的に購入し、食べたい」が260人と最も多く、次いで「たまに、実家や地域の農家の手伝いなどを行いたい」211人、「農業に関わることはしたくない。」194人となります。
- ・農業に対する興味別にみると、興味ありとする回答者は、「たまに、実家や地域の農家の手伝いなどを行いたい」が特に多く挙げられており、その他「農業以外の仕事を辞めたあとに、農業を行いたい」「市民農園を借りて自家製の野菜などを育てたい」とする回答が比較的多く挙げられています。
- ・一方、興味なしとする回答者は、「農業に関わることはしたくない」とする回答が特に多く挙げられています。

将来の農業との関係について（複数回答）



※無回答、無効を除く

農業に対する興味別 将来の農業との関係について（回答者総数に占める割合）



※無回答、無効を除く

問5 農産物を購入する際に重視していることは何ですか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

＜産地＞	①国内産	②地元産(滋賀県産)	③地元産(栗東市産)	④有名な生産地など
＜品質＞	⑤新鮮さ	⑥味、おいしさ	⑦色・形など外見	⑧栄養、健康によい
＜生産者＞	⑨生産者の顔が見える	⑩生産履歴が明確		
	⑪環境への配慮(有機栽培・減農薬(無農薬)栽培など)			
＜その他＞	⑫価格が安い			
	⑬特に重視することはない			
	⑭その他()			

問6 地元の農産物(栗東市または滋賀県内の農産物)の購入状況についてお答えください。

(1) 地元の農産物の購入頻度をお答えください。(あてはまる項目1つに○)

①週に2～3回以上購入している	} ⇒ (2)(3)へお進みください
②週に1回程度購入している	
③月に1回程度購入している	
④年に数回程度購入している	

⑤ほとんど購入したことがない	⇒ (4)へお進みください

(2) (1)で①～④(購入したことがある)と答えた方におたずねします。

地元の農産物の主な購入場所はどこですか。具体的にお答えください。

例、道の駅○○、スーパー○○○の地元農産物販売コーナー、など

(3) (1)で①～④(購入したことがある)と答えた方におたずねします。

地元の農産物を購入される理由について、あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

①新鮮だから	②味がよい、おいしいから	③安全だと思うから
④栄養価が高いと思うから	⑤環境へのこだわり	⑥旬の素材が手に入る
⑦生産者の顔が見えるから	⑧売場の品揃えがよいから	⑨売場が家の近くにあるから
⑩値段が安いから	⑪その他()	

⇒問7へお進みください

(4) (1)で⑤(購入したことはない)と答えた方におたずねします。

地元の農産物を購入されない理由について、あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

①傷みがある、色・形が良くないと感じるなど	②味があまりよくないと感じる
③購入できる場所を知らない	④売場の品揃えが少ない
⑤売場が家の近くにない	
⑥値段が高そうだから	⑦その他()

⇒問7へお進みください

問7 栗東市の特産品についてご存知ですか。(あてはまる項目1つに○)

栗東市の特産品

「いちじく（栗東いちじく）」や「米（こんぜ清流米など）」、「軟弱野菜（小松菜、ねぎ、ほうれん草など）」などの農産物、及びそれらを用いた農産加工品（いちじくジャムなど）



- ①栗東市の特産品を知っており、よくこれらの商品を購入している。
 ②栗東市の特産品を知っており、何度か商品を購入したことがある。
 ③栗東市の特産品は知っているが、商品を購入したことはない。
 ④栗東市の特産品について知らなかった。

3. 栗東市の農業について

問8 栗東市の農業のイメージについて、どう思われますか。以下の（１）～（８）それぞれについて、「特にそう思う」「そう思う」「思わない」のいずれか1つに○をつけてください。

栗東市の農業のイメージ	いずれか一つに○		
記入例. ○○である	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(1) 栗東市の基幹産業であり、農業が盛んである	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(2) 栗東市にとって、あまり重要な産業ではない	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(3) 全国に誇る農産物がある	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(4) 農産物の種類が豊富である	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(5) 都市と農業が共存している	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(6) まちの発展や都市化の妨げとなっている	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(7) 農業経営は魅力的であり、発展の可能性を感じる	①特にそう思う	②そう思う	③思わない
(8) 農業経営は不安定であり、発展も難しい	①特にそう思う	②そう思う	③思わない

問9 市内のまちなか（市街地及び周辺）に農地があることについてお答えください。

（1）まちなか（市街地及び周辺）に農地があることで、良いと感じることについて、あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①新鮮な農作物が身近に購入できる
- ②まちなかにいながら、緑や水辺の自然を感じることができる
- ③災害時における延焼の防止や避難場所等としての利用が期待できる
- ④雨水を貯水・浸透することで洪水の防止や土砂の崩壊防止などの効果が期待できる
- ⑤体験農園や市民農園等を通じて農業に触れる機会が多くなる
- ⑥地域の歴史文化や伝統の継承の場として価値を感じる
- ⑦良いと思うことはない
- ⑧その他（ ）

（2）まちなか（市街地及び周辺）に農地があることで、気になることはありますか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①堆肥などのにおい ②農機具等の音 ③道路が土や泥で汚れる
- ④農薬散布の拡散 ⑤虫や動物の発生 ⑥体験農園等の利用者の声や車の渋滞など
- ⑦野焼き ⑧ゴミの不法投棄 ⑨その他（ ）

（3）栗東市では、今後も、まちなか（市街地及び周辺）での農業や農地は必要と思いますか。
（あてはまる項目1つに○）

- ①まちなかの農業や農地は必要だと思う ②どちらかといえばまちなかの農業や農地は必要だと思う
- ③まちなかの農業や農地は必要ないと思う ④どちらかといえばまちなかの農業や農地は必要ないと思う
- ⑤わからない

問10 市の南部には、平野から山間部にいたる、まとまった平坦な耕地が少ない地域（中山間地域といえます）が広がっており、過疎化や高齢化による人手不足など、様々な課題を抱えています。この中山間地域において、地域を維持するために農業・農地を守っていくことについてどう思いますか。あてはまる項目1つに○をつけるとともに、その理由もあわせてお答えください。

- ①農業・農地を守ることは必要である ②農業・農地を守る必要はない ③わからない

①（必要である）と答えた方
その理由についてお答えください
（最大3つまで○）

- ①地域の暮らしを維持していくための産業として必要
- ②栗東市の農産物の主要な供給源として必要
- ③洪水や土砂崩れを防止するなどの防災面で必要
- ④地下に水が蓄えられるなど下流域の水源として必要
- ⑤美しい棚田や農村の風景を維持していくために必要
- ⑥地域の歴史や伝統文化の継承の場として必要
- ⑦その他（ ）

②（必要はない）と答えた方
その理由についてお答えください
（最大3つまで○）

- ①他の産業などを振興していくべきである
- ②現状でも地域の維持は可能である
- ③地域住民が自ら解決すべき課題である
- ④その他（ ）

4. 栗東市の農業の振興について

問11 市民が農業をより理解し、その振興を支えていくために、栗東市はどのようなことに力を
入れるべきだと思いますか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①市民参加の農業ボランティアや農業研修など担い手の確保・育成の取り組み
- ②農産物直売所の充実や地元農産物の産地表示などの取り組み
- ③安全、安心で環境にやさしい農業(減農薬・減化学肥料農法等)への取り組み
- ④地元農産物のブランド化・特産品の開発
- ⑤生産・加工・販売といった6次産業化による高付加価値
- ⑥農業に関するイベントや市民農園の利用など、市民が気軽に農に親しめる取り組み
- ⑦農業体験を通じた健康づくりなど、農を活かした暮らしの質の向上の取り組み
- ⑧調理実習や調理方法の普及など「食育」を推進する取り組み
- ⑨学校給食や地元レストランなどでの地元農産物の使用拡大の取り組み
- ⑩福祉との連携などによる新たな就労の場の創出の取り組み
- ⑪都市の緑として景観や自然環境の保全・維持の取り組み
- ⑫延焼防止や災害避難場所の確保など防災空間としての機能強化の取り組み
- ⑬取り組みの必要はない
- ⑭その他()

問12 栗東市の農業の活性化のため、あなたが取り組みたいと思うことは何ですか。あてはまる
項目全てに○をつけてください。

- ①栗東市産の農産物・農産加工品を積極的に購入したい
- ②趣味として市民農園の利用や家庭菜園を行いたい
- ③農業体験などに参加したい
- ④ボランティアなどで地域の農業を支援したい
- ⑤職業として農業を行いたい
- ⑥退職後などいずれは農業に携わりたい
- ⑦その他()

問13 市民と農業の交流について、どのような機会があれば参加したいと思いますか。あてはま
る項目全てに○をつけてください。

- ①市民農園・貸し農園
- ②農業体験・講習会
- ③収穫体験イベント
- ④産地をめぐるツアー
- ⑤地元農産物等の栽培講習会
- ⑥地域の農産物を活用した郷土料理教室
- ⑦農家民泊
- ⑧農業祭
- ⑨その他()

栗東市の農業についてご意見などがありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票は、ご記入漏れがないか再度ご確認のうえ、
同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

栗東市の農業に関する農業従事者アンケート調査票

1. あなたご自身について

問1 あなたご自身について、以下の(1)～(3)にお答えください。

(1) お住まいの地域(小学校区)(あてはまる項目1つに○)

- ①金勝学区 ②葉山学区 ③葉山東学区 ④治田学区 ⑤治田東学区
⑥治田西学区 ⑦大宝学区 ⑧大宝東学区 ⑨大宝西学区
⑩わからない(大字名など具体的にご記入ください:)

(2) 性別(あてはまる項目1つに○) ※お答えしたくない場合は、無記入で結構です。

- ①男性 ②女性

(3) 年齢(あてはまる項目1つに○)

- ①20歳代以下 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤60歳代
⑥70歳代 ⑦80歳以上

2. 農業経営の現状について

問2 あなたの家は専業農家ですか、兼業農家ですか。(あてはまる項目1つに○)

- ①専業農家(家族の中に農業以外の職業を持っている人がいない農家) ⇒問4へお進みください
②第1種兼業農家(農業収入が主な農家) } ⇒問3へ
③第2種兼業農家(農業収入はあるが、農業以外の職業による収入が主な農家) } お進みください
④生産はしているが販売をしていない
⑤農地はあるが農業をしていない

問3 問2で②～⑤と答えた方(農業以外の仕事に従事されている方)におたずねします。

農業以外の仕事の状況について、以下の(1)～(3)にお答えください。

(1) 勤務地はどちらですか。(あてはまる項目1つに○)

- ①栗東市内 ②栗東市外 ⇒具体的に(市町村名:)

(2) 勤務の形態は何ですか。(あてはまる項目1つに○)

- ①恒常的勤務 ②自営兼業 ③出稼ぎ ④日雇・臨時雇

(3) 業種は何ですか。(あてはまる項目1つに○)

- ①林業・水産業 ②鉱業・製造業・建設業 ③電気・ガス・水道業 ④卸売・小売業
⑤金融・保険業 ⑥不動産業 ⑦運輸・通信業 ⑧サービス業
⑨公務員 ⑩その他()

問4 主にどのような農作物を生産していますか。生産量が多いものから最大3つまで○をつけてください。

- ①水稲 ②麦・大豆 ③野菜(具体的に:)
④果樹(具体的に:) ⑤花き・花木 ⑥飼料作物
⑦家庭菜園(家用野菜) ⑧生産していない ⑨その他()

問5 農産物の主な出荷先(販売先)はどこですか。出荷量が多いものから最大3つまで○をつけてください。

①農業協同組合	②市場や卸売業者	③朝市や農産物直売所
④庭先など(無人販売を含む)	⑤小売店や飲食店など	⑥食品加工場など
⑦特定の取引先	⑧インターネットなど通信販売	⑨個人(ネット通販を除く)
⑩近所・親戚・知人に配る	⑪自家消費	⑫その他()

3. 農地等の現状について

問6 耕作している農地の面積について、以下の表の該当する欄におおむねの面積(単位:アール)をご記入ください。

農地(区分)	所有されている農地		受託(借入)している農地
	自ら耕作している農地	委託(貸付)している農地	
田	約 アール	約 アール	約 アール
畑	約 アール	約 アール	約 アール
うち、施設園芸 (ハウス栽培)	約 アール	約 アール	約 アール

問7 あなたの所有している農地に、遊休農地(現在耕作されていない農地)はありますか。(あてはまる項目1つに○)

①ある ⇒問8へお進みください ②ない ⇒問9へお進みください

問8 問7で「①遊休農地がある」と答えた方におたずねします。

(1) 遊休農地のおおよその面積を記入してください。また、10年前からの変化について、あてはまる項目1つに○をつけてください。

遊休農地の面積 (約 アール)	10年前と比べて	増えている ・ 減っている ・ 変わらない
---------------------------	----------	-----------------------

(2) 耕作されていない理由は何ですか。あてはまる項目を最大2つまで○をつけてください。

①高齢化や健康面の不安により耕作できない	②人出が不足している
③農地の条件が悪く耕作に適さない	④周辺農地の荒廃のため耕作できない
⑤有害鳥獣の被害が著しいから	⑥農業以外の仕事に力を入れている
⑦その他()	

(3) 今後、遊休農地をどのようにしたいと思いますか。(あてはまる項目1つに○)

①耕作を再開したい	②農作業を委託したい	③農地を貸したい
④保土管理に努めたい	⑤農地を売却したい	⑥農地を転用して利用したい
⑦現状維持もやむを得ない	⑧その他()	

問9 地域の農業生産基盤（農地、農道、水路など）について、改善が必要だと思うことはありますか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

①農地の区画が狭い	②農地の区画が不整形	③農地が分散している
④農道が狭い	⑤農道が農地に接していない	⑥用水量が不足している
⑦用水路・排水路が分かれていない	⑧井戸・水路などの灌漑施設がない	⑨農地の水はけがよくない
⑩特になし	⑪その他()	

問10 地域で不足している、または必要だと思う施設や機械はありますか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

①育苗施設	②加工施設	③栽培・飼育施設	④貯蔵施設
⑤防除・消毒機械	⑥出荷・流通施設	⑦廃棄物処理施設	⑧機械収納施設
⑨農作業機械（共同利用）	⑩揚・排水機械	⑪ミニライセンター（乾燥調整施設）	
⑫鳥獣被害防止施設	⑬その他()		

4. 今後の農業経営について

問11 農業の後継者はいますか。（あてはまる項目1つに○）

①後継者がいる（すでに引き継いでいる）	} ⇒問12へお進みください
②後継者がいる（今後引き継ぐ予定である）	
③後継者候補はいるが、引き継ぐかどうかは未定	

④自分が後継者であり、すでに引き継いでいる	} ⇒問13へお進みください
⑤後継者はいない	

問12 問11で①～③（後継者または後継者候補がいる）と答えた方におたずねします。

（1）後継者の方の年齢はおいくつですか。（あてはまる項目1つに○）

①20歳代以下	②30歳代	③40歳代	④50歳代	⑤60歳代以上
---------	-------	-------	-------	---------

（2）今後、何年以内に後継者に引き継ぐことを予定していますか。（あてはまる項目1つに○）

①すでに引き継いでいる	②3年以内に引き継ぐ	③4年～5年以内に引き継ぐ
④6年～10年以内に引き継ぐ	⑤11年以上先に引き継ぐ	⑥引き継ぐ時期は未定

問13 今後（約10年後）の農業経営について、どのようにお考えですか。

（あてはまる項目1つに○）

①規模を拡大したい	⇒問14へお進みください
②規模を縮小したい	} ⇒問15へお進みください
③農業をやめたい（休廃業したい）	

④現状を維持したい	} ⇒問16へお進みください
⑤すでに農業をしていない	

5. 栗東市の農業の振興について

問16 あなたがお住まいの地域（集落）について、このままだと10年後はどのようなになると思いますか。（あてはまる項目1つに○）

- ①集落は存続している
- ②集落の維持は困難だと考える
- ③わからない

問17 これからの栗東市の農業の振興のため、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。
あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①担い手(新規就農者・農業後継者)の確保・育成
- ②優良農地の確保・保全
- ③農業基盤(大区画化、水路・農道)の整備
- ④農地の集約化・利用集積
- ⑤栗東市の農産物・農産加工品のブランド化
- ⑥農業生産技術(多収穫・低コスト・軽労化)の向上
- ⑦農業機械の導入や施設整備のための支援策の充実
- ⑧鳥獣被害対策の徹底
- ⑨農業組合や農業生産法人などの営農組織の育成
- ⑩農業の6次産業化
- ⑪新たな販路の開拓(大都市圏、海外など)
- ⑫耕作放棄地等の再生、活用
- ⑬環境保全型農業の推進(減農薬減肥料、有機農業など)
- ⑭農業者と消費者との交流促進
- ⑮子どもたちへの農業教育の推進
- ⑯農福連携(農業と福祉分野の連携)
- ⑰地域資源として農業の活用(日本農業遺産など)
- ⑱その他()

問18 担い手の確保・育成に向けて、どのような支援に重点的に取り組むべきだと思いますか。
あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①認定農業者など意欲ある農業者への融資制度等の充実
- ②新規就農者や農業後継者に対する研修や就農相談等の制度充実
- ③新規就農者への農地のあっせん
- ④農業参入を希望する企業などと農地を貸したい人との仲介等の支援
- ⑤定年後の就農に向けた支援
- ⑥仕事(会社等)と農業の両立に向けた支援
- ⑦農地の貸借における、市などの公的機関の仲介
- ⑧農産物加工や直売、農家レストランなどの開設や経営への支援
- ⑨農業法人設立など、農業者による生産組織化の支援
- ⑩その他()

問19 地域（集落）や周辺における農地の整備の将来の方向性として、どのようなことに重視すべきだと思いますか。（あてはまる項目1つに○）

- ①優良な農地の確保・保全のための整備を進める
- ②農産物の生産環境と生活環境のバランスが図られた整備を進める
- ③生活の利便性の向上等のため、都市化・農地の宅地化を進める
- ④農地を自然にかえす取り組みを進める
- ⑤その他（

）

6. 市民と農業の交流等について

問20 農業従事者の立場から、市民と農業の交流について、どのような機会であれば受け入れ・参画しても良いと思いますか。あてはまる項目全てに○をつけてください。

- | | |
|---------------|--------------------|
| ①市民農園・貸し農園 | ②農業体験・講習会 |
| ③収穫体験イベント | ④産地をめぐるツアー |
| ⑤地元農産物等の栽培講習会 | ⑥地域の農産物を活用した郷土料理教室 |
| ⑦農家民泊 | ⑧農業祭 |
| ⑨その他（ | ） |

問21 市民農園として、農地を貸出すことについてどう思われますか。（あてはまる項目1つに○）

- ①既に所有地を市民農園として貸出している
- ②所有地を市民農園として貸出すことに興味がある
- ③所有地を市民農園として貸出すつもりはない

問22 栗東市民などへの農産物の提供（地産地消）の取り組み状況についてお答えください。

（1）現在実施している地産地消の取り組みについて、あてはまる項目全てに○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ①農産物直売所に出荷している | ②庭先販売所を開設している |
| ③スーパーなどの地場産コーナーに出荷している | ④朝市など農産物の直売イベントに参加している |
| ⑤学校給食に市内産の農産物を納入している | ⑥市内飲食店などに農産物を提供している |
| ⑦特に実施していない | |
| ⑧その他（ | ） |

（2）地産地消の取り組みを実施または検討するにあたり、どのようなことが課題となっていますか。あてはまる項目を最大3つまで○をつけてください。

- ①販売先（納入先）が見つからない。情報入手の手段がない
- ②販売先（納入先）が求めるニーズ（農産物の品目など）を把握する手段がない
- ③販売先（納入先）が求める品質（品目数、数量など）を確保することが困難
- ④市場出荷よりも時間と経費がかかる
- ⑤購入者が限られ、販路の拡大が困難
- ⑥配送のための手段、人手が確保できない
- ⑦その他（

）

栗東市の農業についてご意見などがありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票は、ご記入漏れがないか再度ご確認のうえ、
同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

「栗東市の未来の農業を考える」中学生アンケート調査 ご協力をお願い



栗東市の未来の農業について
中学生の皆さんの
ご意見をお聞かせください



農業は、私たちの生命を支える食料を作るとともに、美しい自然や安心して暮らせる環境を育む、大切な役割を果たしています。

栗東市では、将来のまちの姿「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市 栗東」の実現に向けて、まちの次代を担う中学生の皆さんと一緒に、未来の栗東市の農業を考えていこうと、農業に対する考えやイメージ、希望などをお聞きするためのアンケート調査を行うこととしました。

このアンケート調査は、市内中学校の皆さんにお願いしています。お答えいただいた内容は、未来の農業を検討するための資料以外のことには使いませんので、「将来、こんな農業のあるまちになればいいなあ」と考えながら、自由なご意見をお聞かせください。

令和2年10月 栗東市 環境経済部 農林課

【ご記入にあたってのお願い】

- ・ご回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問により○をつける数が異なりますので、質問をよくお読みになってご回答ください。
- ・一部の質問には（ ）や□の中に内容を記入していただくものもあります。

☆ 次から質問です。よろしくお願いします ☆

あなたと農業の関わりについて

問1 あなたのご家族（両親、祖父母など）に農業を営む方はおられますか。どちらかを選んで○をつけてください。

- ①いる → どなたが農業を営んでいますか。あてはまるものを全て選んで○をつけてください。
②いない 1. 両親 2. 祖父母 3. 兄・姉など 4. 親戚など

問2 これまで、農作業をしたことはありますか。あてはまるものを全て選んで○をつけてください。

- ①学校の授業で体験することがあった。（例：たんぼのこ、プランター等での栽培）
②家の農業を手伝うなどしたことがある。
③上の①②以外で農作業を体験する機会があった。
④農作業を経験したことはない。
- どこで体験しましたか。具体的にお書きください。
()

栗東市の農業について、あなたのご意見をお聞かせください

問3 あなたは農業に興味がありますか。1つだけ選んで○をつけてください。

- ①大いに興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤全く興味がない ⑥わからない

※裏面に続きます

